

# フィールドレポーター 掲示板



2005年度 第1号 通巻第35号(4月)

## エドヒガンを探してみて

フィールドポーター担当 楠岡 泰

2005年度もフィールドレポーターの担当をさせていただくことになりました。いたらないところはいろいろあるとは思いますが、よろしく願いいたします。

現在エドヒガンの調査を実施中ですが、皆様はエドヒガンを見つけることができましたでしょうか？エドヒガンはもともと滋賀県に生えている野生のサクラですが、その分布は限られており、高島市の今津町、マキノ町周辺が主な分布域だそうです。

私も実物の花は見たことがなかったので、4月2日のフィールドレポータースタッフ定例会終了後、スタッフの皆様と守山市川田町の淡墨桜の郷にエドヒガンを見に行ってきました。ここには樹齢250年以上の淡墨桜と謂れる古木があります。残念ながらこの日はまだ咲いていませんでしたが、その近くに岐阜の有名な淡墨桜の子孫と称するサクラの若木が何本か植わっていました。このサクラはちょうど咲き出しており、花の基部が壺状に膨らむエドヒガンの特徴を示していました。この膨らみはソメイヨシノやヤマザクラにはないので、一度実物を見たら、一目でエドヒガンだとわかると思います。



4月13日やっとプランクTONのギャラリー展も終了し、久々の休みを取り、自宅の近所を散歩がてらサクラを探しに行きました。皇子が丘公園の裏山を下から眺めると何本かは山の中腹にサクラが生えているようでした。場所的に野生種が生えているものと思われましたが、その場所にたどり着くのは難しく、公園周辺の花見をして終わってしまいました。

区長さんから薄墨桜について聞き取りをする

レポータースタッフ

私が見た範囲ではエドヒガンはありませんでしたが、皇子山陸上競技場横の大シダレザクラはエドヒガン系で花の基部が膨らんでいました。

日本人はサクラが大好きで昔からサクラを植えています。公園や寺社で花見をするのは楽ですが、野生のサクラを見つけるのはなかなか難しいと改めて感じました。

## フィールド・レポーター交流会開催の予告

新年度が始まりました。春の調査エドヒガン調査、そしてタンポポ調査と外に出てゆくのも楽しみです。

今年度も最初の定例行事になっております交流会を下のとおり開催予定しておりますので、多数の皆さんが出席いただきますようご案内申し上げます。

なお、交流会の詳細案内状は別途送付させていただきます。

日時 5月29日(日) 13:30～17:00

場所 琵琶湖博物館 生活実験工房

内容 2004年度に調査しました結果報告と意見交換

1. 我が家の年中行事
2. セミの調査
3. 野生生物の予知能力調査

## フィールド・レポーター調査テーマ募集

2005年度夏から冬にかけての調査テーマを募集しています。

身のまわりに、日頃感じておられる疑問、興味をレポーターに広く調査をして頂き、それをまとめてみると発見があるかもしれません。

もちろん追加調査などもして深めていくこともできます。

提案方法は例えば

1. 定例会に参加して提案する。
2. 掲示板の投稿用紙を利用して郵送する。
3. 電子メールで交流室のアドレス(freporter@lbm.go.jp)に送信。

などです。応募をお待ちしております。

# 野生生物の予知能力調査 1

## 中間結果一 2

本年 1~2 月にかけて実施いたしました、フィールドレポーターの野生生物の予知能力調査では、フィールドレポーター 66 名、今津自然観察クラブ 10 名の皆さんから回答を頂きました。

回答者の屠住地点は 70 地点であり、右図に分布を示しました。

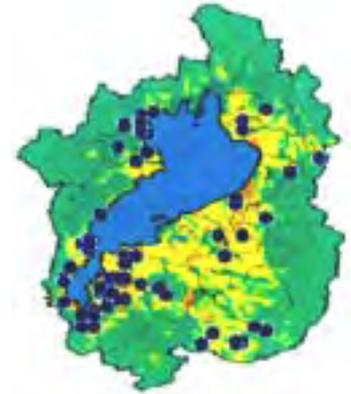


Fig. 1 回答者屠住地分布

例示項目について、回答数を下のグラフに表示しました。

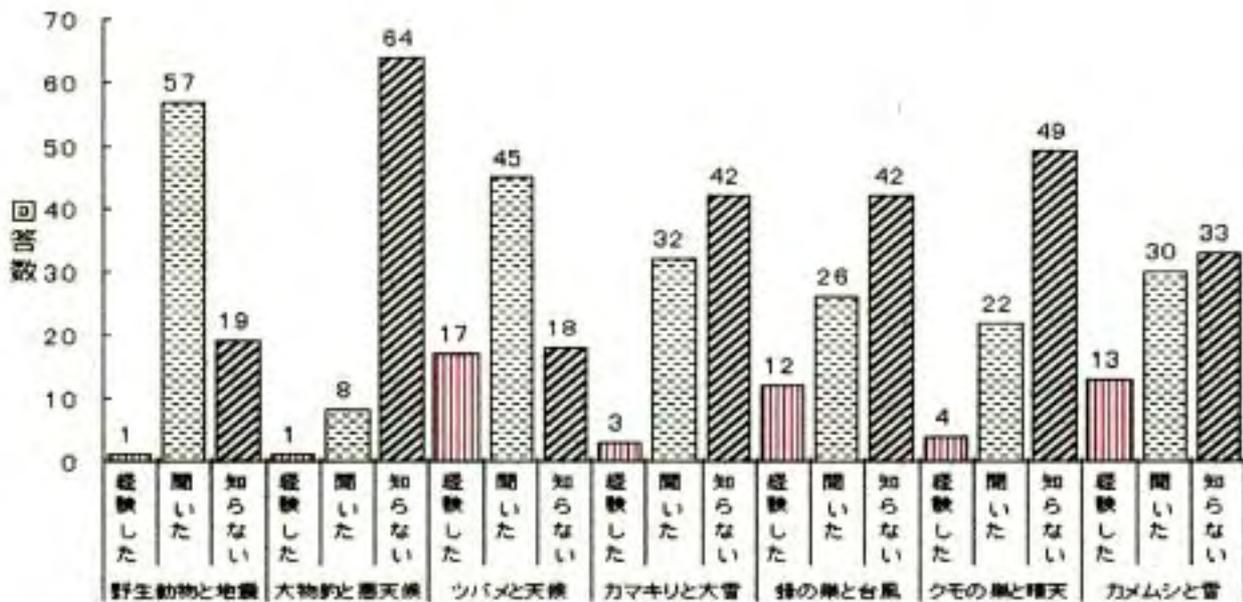


Fig. 2

現在、調査結果報告書を作成申でありますので、詳細結果につきましては、近日中に「フィールドレポーターだより」として、お届け出来ると思います。

なお、今回の調査では、今津自然観察クラブの皆さんから、有益な多くの情報を提供して頂きました。

調査を終了するに当たり、心より御礼申し上げますとともに、今後の調査につきましても、より密接な相互協力関係を築いて頂けることを望んでおります。

2005-04-05  
FRS 森 擴之

## タンポポ その1 シロバナ情報ありがとうございました

大津市 前田 雅子

掲示板 2月号に投稿した『シロバナタンポポはいつ咲く?』に対して、高島市の早田さんから「今津港の辺りに咲きますよ」と、守山市の高田さんからは「守山で12月中旬に咲いていた」との情報をいただきました。滋賀県でもシロバナタンポポが秋から冬に見られていたのですね。教えていただきありがとうございました。

今年のタンポポシーズンが始まり、シロバナタンポポが旧高島町役場周辺で2月15日に咲いているのを見て早速、教えていただいた今津に出かけました。2月23日に高島町で3箇所、今津町で1箇所見つけることができましたが、シロバナタンポポと思われる(花のサイズや、総苞の形態)のに花全体が薄黄色の個体が多数あって、また頭を悩ます問題が増えてしまいました。

花期については、咲き始めは早いところで2月中旬、あちこちで目立ち始めるのが3月下旬、そして今(4月初め)が最盛期の印象です。草津市を中心に調査された古谷さんも同じようなことをおっしゃっていました。これからは咲き終わり時期が気になります。例年5月まで咲いている県南部と、4月上旬で咲き終わる県北部。まだまだ目が離せません。

ところで、これまで我家の近くにシロバナタンポポはないと思っていましたが、通り慣れた道の駐車場で見つけて「エッ!こんなところに?」とびっくりです。なんとなく、シロバナタンポポは広がっているような気がします。

## タンポポ その2 タンポポ調査・近畿 2005 が始まりました

大津市 前田 雅子

カンサイタンポポなどの在来タンポポも咲き揃ってきました。桜も綺麗ですが、タンポポは生命力にあふれた美しさがありますね。けれども外来種と在来種の間には雑種ができて、それが広がっているとか…。今春の『タンポポ調査・近畿 2005』は、雑種問題を含め下環境を捉えようという広域タンポポ調査です。

昨年の子備調査結果(次頁の図)をみると、大阪周辺の都市部は外来種優占の地域が目立つのに対し、滋賀県はそれに比べればまだ在来種の健在な地域が残っているようです。今年の本調査でデータがたくさん集まり、どんなことがわかるか、タンポポに興味津々の私としては楽しみです。

さて、これから調査をされる方への提案です。こんな調査方法はいかがでしょうか?

調査の空白地域を少なく

周辺部は森林域でタンポポが見られない地域ですが、昨年未報告の空白地区が県北部や東部に多いようです。フィールドレポーターでメッシュを埋めて、布谷さんに読み取ってもらいましょう。散歩やお買い物のついでに、また、お仕事や行楽で出かけられた場所で観察していただだけませんか。珍しいタンポポでなく、そこにあるタンポポを送ってくださるのがベストです。

### 1 メッシュの複数地点を観察すると環境がわかります

お住まいのメッシュ地域内を、より詳しく調べてみませんか?つまりメッシュ内の 500m おきに見られるタンポポを観察するとか、そのメッシュの各環境場所(川の土手、農地、住宅地など)を探す方法です。地域の全体像が見えてくるとと思います。

### たくさん調査される方は

調査票は 3 枚送られていると思います。調査地点あるいは標本数が多い場合は、

1. 博物館の布谷知夫さんに連絡すれば調査票を送ってもらえるそうです。
2. 別の用紙に、調査項目の記入事項を一覧表にして送ってもよいそうです。その場合サンプルの頭花との対応がわかるように番号をつけておいてください。

調査地点を決める参考に、今年の予備調査で調べられた地点と外来比を示す地図を載せます。

調査期間は 5 月 31 日までですので、よろしくお願いいたします。

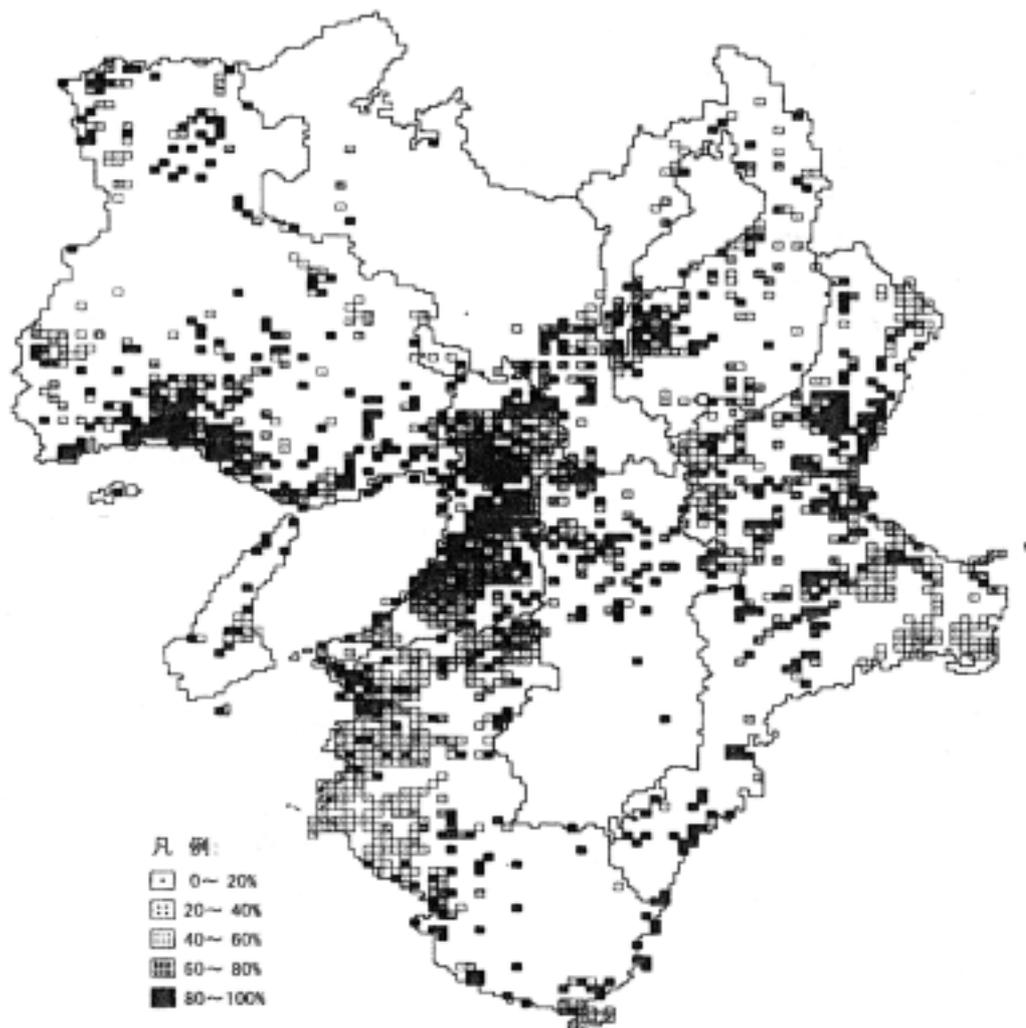


図 16 近畿地方のタンポポ分布メッシュ図(2004年4～5月調査)

## 表 題 【エドヒガンは見つけれられるだろうか?】

投稿日【0504081】

名 前【草津市 古谷 善彦】

今回のフィールドレポーター調査は、「エドヒガン」に決まりましたが、今年の桜の開花は気象庁の予報より遅れて、6 日ごろから暖かくなってやっと開花が見られるようになりましたが、まだ満開でないところが多いようです。

昨年(2004)の10月30日、いまづ自然観察クラブの皆さんと今津町で行なれたフィールドレポーター交流会で、ソメイヨシノの親とも云うべき「エドヒガン」について説明やその古木の観察案内をしていただきましたが、その時は巨木と幹の形態を見るだけで、肝心の花の状態は想像に過ぎないものでした。

さて、「エドヒガン」は今津では例年4月初旬から咲き始めると調査案内にありましたが、ソメイヨシノより早く彼岸ごろに咲くとも聞いていたので3月24日、三谷集落の観察会で見た巨木の観察に行きましたが矢張り早すぎましたね。

続いて、三谷近くの酒波という集落を通過して、もみじ池へ行ってみました。この辺りは暖かくなるとサルの群れがよく現れるところで、山の斜面にはまだ雪がたくさん残っていました(この先のピラデスト今津は冬季閉鎖中)。

酒波寺棧の島家の広い庭先に高く大きな木があって、満開の花が咲いていました。近くで観察すると花の色は淡いピンク、そして桜よりもやや小さめ、木の幹では判断できないもののとれぞ!とばかりデジカメで激写、たまたま家から出てきたおじいさんに聞いて見たところ「それは梅やで」だって!?

一瞬がつくり、おれはそこまで無知なのか?それとも独断専行早合点し過ぎなのかでも、こんなに見上げる程天高い梅ノ木を見たのは初めてですね。

4月2日のフィールドレポーター定例会後、野洲川畔の川田公園での観察会でつぼみふくらむから少し咲きかけた「エドヒガン」を目の当たりにして、百聞は一見に如かずを実感、さてこの短期間にその花を見つけることが出来るのかどうか、これまた疑問符が付く現状であります。

花のいのちは短くて...

sakura



ume



## これはエドヒガン桜か？

投稿日 【050405】

レポーター 多胡 好武

メッシュマップ 5235-4678

4月9日、あちこらの桜の名所では桜の花が満開となり多数の花見客で賑わった一日となったが、琵琶湖博物館の開館当初の資料に裳立山(もたてやま)にエドヒガンがあると記載されているとのことで、探しに行ってきた。

山の高度は585M、つぼみくらいは膨らみエドヒガンの特徴である花の基部(がく筒)がとっくりのように膨らんでいたら確認できると登ってきました。

桜の木で一番太かったのは幹周り1m56cmあったが、つぼみはまだ固く閉ざされたままで「とっくり形」、「壺型」のがく筒はまったく確認できなかった。

持ち帰った下枝についたつぼみが咲けば判別できると思われる。

坂本ケーブルの山頂駅、駅長に聞いたところ山桜、ソメイヨシノ、しだれ桜等、桜祭りが行われる西塔周辺のこと意外あまり知らないとの事で、裳立山に関する情報は得られなかった。

なお参考までに、紀貫之の墓所に植えられた桜の木は小さいまま枯れていた。帰路、根本中堂から坂本へ下ったが比叡山高校の上 200m位に最近建立されたお寺「南善坊」の前庭に枝垂桜がピンクの花をつけていた。がく筒を見るとエドヒガンの特徴である上部がくびれた壺型になっており、お寺の方に聞いたところ最近造園したとき移植されたとのこと。



ソメイヨシノとエドヒガンのがく筒の違い



裳立山の桜の大木



坂本「南善坊」の枝垂桜



まるく膨らんで、上部がくびれた壺型がく筒

## 表 題 [フィールドレポーターを草の根から]

投稿日 [050219]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

フィールドレポーターの組織・企画は滋賀県全域を面でとらえられる、他の博物館にも誇れるすばらしいものだと思います。

しかし、どれだけの方が送付した文書を読んでくれ、あるいはダストボックスに直行しているのか？ 調査に参加する意志が有るのか、無いのか？ 調査項目に興味あるのか、無いのか？ 参加出来るものが無いのでレポートがないのか？ レスポンスが今一なのです。

意見が上がらず、実情が分からないままですと、不本意ですがフィールドレポーターのスタッフが勝手に取り仕切ったと誤解されそうな流れになってしまいます。

これはトップダウンの世界環境会議の京都議定書ではなく、あなたの立場はそのアメリカではないはずです。草の根・井戸端的に盛り上げようではありませんか。

興味がある。疑問がある。学術的・社会的に意味がある。等の調査項目や企画を寄せ合い再検討してはどうでしょうか。

「言い出しっぺ」の私から例をあげます。

### (調査項目) 音からの水路の使用法の聞き取り調査。

今は 3 面コンクリートの廃水路となっているような小さな水路に、水面に降りられる石段を見かけます。又、屋敷内に水がひかれていた形跡も所々に見られます。

これらは以前はどのような物だったか？ どのように使用されていたか？

煮炊き、野菜洗い、芋洗いの水車、生け簀、漁業・農作業用の小船の河岸、等は思い浮かびますが、それ以外の変った利用方法があったかも知れません。

これらを実際使用し、覚えているお年よりが健在の内に聞き取りを進めたい気がしています。

### (イベント) ひとりよがり展示室

琵琶湖博物館の台の上と壁面に、一人当たり大きめの座布団程度の面積を割り当て、これに自由にこだわりの品や写真、フリップ、クラフト等を展示します。「手前みそ無制限」「人柄丸だし」「興味まちまち」「価値観いろいろ」「面白いと思う人には面白い」展示です。同好の人(又は変人)にめぐり会えるかもしれません。

ついでに「面白かった」「有意義だった」「阿呆らしかった」等のコンテストの投票も実施!!もちろん「阿呆らしかった」め最大得票が上位

§ § 学芸員さんの研究テーマの内の広域調査の必要な部分から調査項目をきめても面白いのではないのでしょうか。 専門家の指導が頂ければレポーターの知識・経験の蓄積にもつながるとおもいます。

## 表 題 [タンポポと自然観察]

投稿日 [05.04.15]

名 前 [草津市 古谷 善彦]

昨年来フィールドレポーターの定例会の中で、タンポポの分布やシロバナタンポポのことがよく話題になっていました。自身は自生しているシロバナタンポポを目撃したことが全く無かつたので、今年は是非とも見つけたいとの思いで、3月初旬から生活圏内の主として田んぼの畦を探して回り、今日に至るまで複数の場所で発見する成果を挙げる事が出来ました。

同時に、季節と自然の移り変わりも観察できて、3月の3連休にはツクシの最盛期にお目に掛かれ、大げさではなく束にできるほど固まって出来ているところがあったものが、4月13日にはそれぞれの場所にはひとつのツクシも見られないという有様でした。ツクシはそんな命なんですね。



タンポポも、3月の3連休までは広い範囲を探し回らなければ見つからなかったものが、3月の終わりごろから今日までは、日ごとに多く見られるようになり、念願のシロバナタンポポもあちこちで見られ、しかも処によってはシロバナづくしの繁殖地もありました。(シロバナはすべて黄色交じり)

そして思ったことは、タンポポがところ構わず至る所で繁殖している状況は、在来種とか外来種とかを超えて、それぞれのタネが風によって多方向

向に移動し場所を選ばずに根付けば、それらの分布の変化は激しく、また限りなく広い範囲で観察できるのではないかという至って単純な素人の考察に至っています。

現に、最近土を掘り返し畝が出来たと思われる畑の中ほどにポツンと、タンポポが咲いていたり、外来種と在来種(シロバナを含む)の3者が同じところで共生しているところもありました。

そんな疑問は自然と対周囲の環境変化の関係などを継続して観察することが重要となり、今年のタンポポが終わったわけではありませんが、さらにタンポポの雑種や新種？の出現の可能性を含めてより緻密な観察が求められることになるのでしょうか？



表題【今津の させん草 今が見頃】

投稿日【05.03.03】お名前【今津市(町)村山彰忠】

今津の させん草は 今が見頃です。～3月15日を見頃です。  
⇒3～4年で殖えてきました。少く整地が加わりました。  
⇒この所は湧水のあふる地帯で3,000株位あり、県内の方々  
大阪、京都まで来場されます。

⇒この日は前日の降雪にて一部しかみれませんでした。  
⇒一二年来場される方が増えてます。



## 表題【カマキリ卵のう、今年は高い】

投稿日【050405】

名前【守山市 森 擴之】

新潟の酒井與喜夫さんが、20 年間におよぶ緻密な視察と実験の結果、新潟のような豪雪地帯では、カマキリが生みつける卵のうの高さとその年の冬の積雪量の高さに高い相関関係があることを統計学的に証明されております。

豪雪地帯のカマキリが、積雪の始まる数ヶ月も前に、その場所の積雪量をどのようにして予知しているか、私には、とても興味のあることではありますが、もうひとつ調べてみたいことがあります。

それは、'積雪の少ない地方のカマキリ達はどんな行動を取るか'ということです。

ちなみに、小生の自宅の垣根に、樹高 7~8mの植木(コナラ)があるのですが、今年はこの植木の、ちょうど二階の窓の高さの位置(5~6mの高さ)にカマキリの卵のうが 2 個生みつけられております。

これは、この冬の寒さと何か関係があるのではないのでしょうか、それとも単なる偶然でしょうか？ ここでの今年の積雪は最大で 10 cmくらいでした。しかも、アツと言う間に溶けてなくなっていました。

何方か、今年カマキリの卵のうを見つけた方はおられませんか？ 居られましたら、観察して、掲示板に投稿して頂けませんか。

雪の積もらない地域でも、寒い冬の年は、やはり高い位置に卵のうが作られるのであれば、彼らの予知能力解明に一步近づけるのではないのでしょうか。



表 題 [ロードキルの記録を残すことを考えてみませんか]、

投稿日 [050228]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

車や電車にはねられて死んだ(ロードキル)動物(脊椎動物全般)を良く見かけますが、この記録を残しませんか？ 私は数年前に一年間ほど記録を残したことがありますが、限られた私の行動範囲だけでもかなりの数にのぼり、ほぼ同じ場所で繰り返されている様にも見えます。

滋賀県全体の傾向や頻発個所がわかれば、今後の小形動物の道路横断隧道等の保護対策・既存施設の改善等の資料にもなると思います。

\*実施案

特に調査に時間を裂くのではなく、日常生活の中で目にした状況の記録を、いつものフィールドレポーターの調査書を送付する時に同封して頂く。

目撃して間を置かずに記録することが望ましいが、調査書の投函は急ぐ必要はなく件数が纏まってからの投函でも良い。

記録内容は

報告者氏名

日時・天候

場 所 (道路なら何号線か、橋やビル等の位置の目印となる物、出来ればコードも)

動物の種類 (損傷の程度で判別の難易に差が出来るが、複数の目撃情報で総合判断が出来そうにおもわれる。又、他の研究機関・博物館・同じテーマの調査者、と連携をとって進める。)

自信有り、

B. 類似種や外観の似た動物間の判別が困難、

C. ほとんど判別不能

§ §これは滋賀県の自然環境の遷移の一時期を記録する意味で有意義だと思っております。もしレポーターの皆様から「面白い」「やって見よう」と云う声が寄せられましたら私が「調査の手引き」の作成や、データの纏め役を引き受けても良いと思っております。



## 表 題 [世界一の巨木を育てたい]

投稿日 [050210]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

世界最高の巨木をスギボックリの実生から育てて見たいと思っております。

私は「御目出度い。長生きする」との定評がありますので、あるいは樹齢を全うするのを見届けられるのではないかと思っております。(ほんの 5000 年程)

要領は試し済みです。Oct/15/2003 にマツカサの種子を蒔いて育てた 11 株のクロマツは、現在のところ 9.5 cm 前後で、二年目に長く伸びた部分(枝先では、植木屋さんがミドリと呼んで半分摘み取ってしまう分)がはっきり見えるのは一株だけです。又、今年は、本来は輸生するはずの枝も雪に押し潰されて枯れたのか、新芽は頂端に 2 個ほどづつしか付いていません。(片方が頂芽、片方が枝になりそうです)このクロマツを育てて見たい、気の長い方がおられましたらお譲りします。

私の手元には外国の植物に関する書籍等が有りません。以下につき何か情報が御座いましたらお知らせ下さい。

1. レバノンスギとはどんな樹木でしょうか。完全な絶滅種でしょうか。

どこからか、このスギボックリは入手出来ないものでしょうか？

2. 百科事典しか調べる手立てがなく、系統分類の「科」が記載されておらず、学名から属は分かりますが、その上位を、科・目・綱・門・界、とたどれません。セカイヤメスギ、セカイヤオスギ、の名前もユキヤナギとヤナギ科・ヤナギ属と同様、スギとはほぼ「無関係の関係」にあるものなのではないでしょうか。

3. 日本で一般にセコイヤと呼ばれる木が 2 種類はあります。世界一高い樹木とされるのは以下の a, b のどちらでしょうか。

a. *Sequoia sempervires* セカイヤメスギ、イチイモドキ、レッドウッド、

b. *Sequoia gigantea* セカイヤオスギ、ビッグトリー、マンモストリー、  
つくづく生物の和名をきちんと管理する学会か団体が欲しいとおもいます。

2004 年の話で記憶が定かではないのですが、世界最高の巨木がセコイヤで、120m を越えていたと聞いたように思いますが、手元の古い「世界大百科事典」(平凡社 1972・年初版)ではセカイヤオスギのシャーマン将軍:General Sherman tree 根元の径 10.8m、高さ 94m 推定重量 2,150t となっており、この個体が 30 年ほどで成長するには、その差が大きすぎるように思えます。現在公認の世界一高い木の樹種、生えている場所、愛称(固有名詞)は？

4. 東京に可成の大木の数本のセカイヤオスギ *Sequoia gigantea* が有ると聞き及んでいます。存在する地名等が分かりましたらお知らせ下さい。

§ § 蛇足=マツボックリ、スギボックリの「ボックリ」とはオオイヌノフグリの「フグリ」と同じ(?古語か方言に由来)だそうです。動物・植物、ともに次世代を担う大切な臓器でした。

## 根は勤勉、正直です

05/04/08

このところ、博物館から帰ると直ぐに畑に出て、夏野菜の栽培準備を始めています。

一昨日(4/6)畑の草を取ってから、まる24時間経った昨日(4/7)午後5時半残りの作業をと、また畑に行きました。

わが家の畑は砂地ですので、よく晴れた春の陽の下では白っぽく見えます。

この分ではあと2目でこの作業も終り、やっと夏野菜の畝作りにかかされると、作業の終わった所を見渡した目に、なにやら黒い斑点が飛び込んできました。

なにい！？ なんや？なんで黒いもんがあるんや？ 鳥の糞？

よく見ると乾燥した白い土の表面のあちこちにその黒い斑点が散らばっています、直径3~5cm、1㎡に2~3個、多い所では5個くらいの分布で、土の表面は盛り上がりなどはなく、作業したままの状態です。

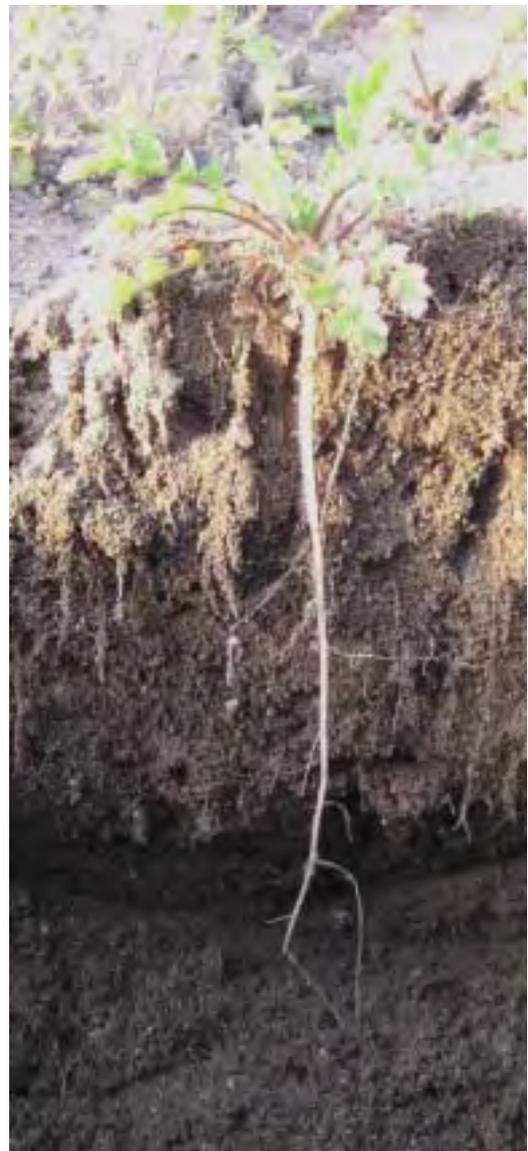
その所にしやがみ込み調べてみました。

色が変わっているのは土が湿っているからだと判りましたが、雨が降ったわけでもなし、誰かが水をまいたでもないのに、ここだけが何で湿ってるのや？

湿りのある土の表面を指先ですっと撫でますと、土は少し抵抗があり、乾燥したところとは異なる感触です、同時に砂地の感触とは異質の軽い引っかかりを感じ、あつつ！そうだ、草の根だと、ことの次第が理解できました。

よく見ますと温った土のほぼ中央辺りに、白い糸状のものがああります。

前日、草取りをした際、地上の葉・幹を持って引き抜いたのですが、完全に根の先まで取りきれなくて地中に根径が残り、その根が集めた水分が、伝えるべき幹・葉を無くしたために、地表の土にしみだしたものと納得できました。



スカシタゴボウの根茎を掘り出し

植物の根が、地中から養分・水分を吸い上げてるのだとは識ってはいましたが、このように目に見える形でその現象を観察したことがなく、小さな植物が根を使って養分を採る仕組みと、旺盛な活動には驚きました。

試しに、今日の作業予定のところに生えている同種の草、アブラナ科・ナズナ・イヌガラシ・スカシタゴボウ?の、地中の詳細を見てやろうと、砂地を幸いに完全な断面を作りました。根は真直ぐに地中に伸びています、ロゼットの直径 7~8cm でも、根は 20cm 以上の白くて長く細い根です。

この根がどのような仕組みで土の中の水分を取り込むのか?

根の表面全体から? それとも先端から?

取り込むのは何時?

それは、天候・気温・地温などに関連があるのか、ないのか?

取り込んだ(濡れた土)水分を分析できるのか?

土中の水分を取り込む様子を見られないものか

本当にこの根のものか?根の表面を伝えてきただけでは?」

などの興味が湧いてきました。

そして夜、この体験を FRS の森さんに、エドヒガン調査の経過に添えてメールしましたら返信があり、面白いから掲示板に投稿したらと薦められて、少し詳しく、状況とわたしの感想をまとめました。

今日(4/8)博物館の布谷さんにお尋ねしましたら、それは、糸瓜水の採集の原理ですねと教えて頂き、そうだったんだと得心しました。

そして、なぜ記録写真を撮ってなかったのか悔やまれ、ならば検証してやろうとの思いが脹らみ、今日、12 時前に畑に出て一本の草(スカシタゴボウ)をそのロゼットの直ぐ下で(地表より 5 mm 下)切り取り、傍に地温計を差しました。

夕方 5 時半、勇んで畑に行ってみました。なにも変わっていません、地温計の隣がその根の場所なのに、砂地は辺りと同じく白っぽいままで。

時間が因子? 天候? さまざまな状況を想定しましたが、土の白いことだけは確実に目の下で検証できますが、あとはなにも解りません。

草取り作業を続け 6 時半になり、帰る前に念のためもう一度確認しました。

すると土に一円硬貨くらいのシミが出来ています。ホホウ! やった! すっかり嬉しくなり、先日の失敗に懲りて、カメラを持って来たので、畑に這いつくばって記録を撮りました。地温計を引っこ抜いたら 20 を指していました。

このシミ出しは5時半にはなかったもの、ところが1時間経過したら1円硬貨位のシミが出来ているのは、

12時から6時間かかって吸い上げたのがシミ出した

夕方にならないと吸い上げない

の2点が考えられ、この検証は厄介だなとの思いを抱きながら帰ってきました。

わが家の畑の黒い斑点は、主の不手際を実証する動かし難い証拠です、根は勤勉、正直ですと静かに語っています。

夏野菜の準備に追われる

びわこおおなまけ



PM5:30 変化なし



PM6:30 黒いシミができていた

## 表 題 [白然に関する常識を見直してみませんか]

投稿日 [050219]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

以下は私の個人的な見方で、誤りが有るかも知れません。

農業では「無農薬・有機肥料使用」が金科玉条のように大手を振ってまかり通っていますが水・二酸化炭素・少量の N.P.K.その他微量の無機水溶性塩類と太陽のエネルギーから澱粉、糖分、脂肪、蛋白質、セルロース、等を作り出してこそその「生産者・植物」であり、堆肥等は土壌の改良材であり、分解した後に微量の肥料が出来るだけだと思います。農薬使用と混みで言命じられる、化学合成による N.P.K.肥料の使用の問題はその塘基による土壌の劣化(酸性化・硬化・通気・通水・保水、等)の別問題で、作物の衛生、栄養、には問題ないと思います。これは悪質な、洗脳的な・虚偽広告だと思いますが如何ですか？

植物に音楽を聞かせると成長が早まる。植物毎に好みの音楽がある。等と言われますが、これを信じるのも頭から否定するのも少し待って下さい。

植物が無機物から有機物を作り出すのも化学反応です。化学反応は「衝突確立」で促進され、「天の邪鬼の法則」といわれる、条件の高い場合は低くなる方向へ、たとえば水と二酸化炭素の量や濃度が高ければ、それらを低下させる 有機物合成の方向に促進されるという一般則があります。音の振動で、二酸化炭素を含む外気と水分酸素濃度の高い気孔内の気体を効果的に交換出来れば同化は促進されるはずで。

ナスがベートーベンを好みレタスがドボルザークに酔いしれるのではなく、葉の形状・サイズ・堅さ、等に同調してこれを震わせ、ガス交換を改善するリズムやメロディーとは考えられませんか？

「梅末(ほだぎ)を金づちでトントンと叩くと、樹皮の下で眠っていた菌糸が目覚ましてシイタケが良く生える」とシイタケを栽培している人の間でかなり広く信じられているようです。その叩き方の蘊蓄を長々と聞かせてくれるのですが、これは「結果オーライ」なだけではないでしょうか？キノコ(担子菌・子囊菌)の子実体は二本の菌糸が接合した所から発生します。「金づちトントン」の振動が、絡み合い、非接触・立体交差した菌糸を接触させているのではないのでしょうか。

\*どなたか、アウトドア雑誌で良くみかける、「樹木の幹に耳を当てると水ヲ吸い上げる音が聞こえる」という話の反証をあげて下さい。出来が悪く、空気を巻き込む水洗トイレではあるまいし、そんな馬鹿なことが起こるはずは無いのですが、観察から、または理論的に証明出来ないでいます。無いことの証明ですから非常に難しいとは思いますが。

存在しないことの証明の論理的手段があれば、真っ先にしたいのは神様の存在の否定です。世界中の戦争、殺教、残虐行為のかなりの部分が信仰心か、神様を山車(だし)に使った行為です。神様は無いか八百万(やおよろず)の神が良い。アユも過密になればテリトリー争いをしなくなるのだから。

## フィールドレポーター 4月・5月・6月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定お願いいたします。

なお、稀に予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
4月16日(土)10:00～17:00	定例会(掲示板発行・発送)	博物館交流室
5月07日(土)10:00～17:00	定例会(FR だより発行・発送)	博物館交流室
5月21日(土)13:30～17:00	定例会(交流会準備)	博物館交流室
5月22日(日)13:30～17:00	交流会('04年度調査報告会)	博物館生活実験工房
6月04日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
6月18日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室

### (フィールド・レポーターから一言)

今年のサクラ前線は3月末の冷え込みで、途中で停滞してしまい、气象台も開花宣言の発表に苦労していましたら、4月4日位から関西地区をあわたくし北上し、湖南地域は一週間で満開になってしまいました。開花が遅れると咲き始めから満開まで3日位で進むそうです。慌ただしい花見です。

2005年度スタートのフィールド・レポーター調査が「エドヒガンをさがせ！」ですが、皆さんいかがですか？ 守山市の川田橋公園の淡墨桜がエドヒガンといわれていますので3月21日(彼岸)に行ったら今年はまだ全くのツボミでした。4月2日(土)定例会の終わったあと出席者全員で同じ川田橋公園に出かけました。やっとちらほら咲き始めで、公園にある木にガクが壺状に膨らんだ花を観察できました。喜多地区の方々が大切にしておられる古木の淡墨桜、木の幹はだいぶ痛んでいます。それでも10m以上もある高さの枝にはツボミをつけて頑張っています。木から気ももらう思いでした。この木はエドヒガンなのか、花のガクの形からの判定はなかなか難しいものです。

今年はタンポポの調査もありまして、外に出かけてもきょろきょろしてとても楽しい春を満喫できます。



# フィールドレポーター

## 掲示板

2005年度 第2号 通巻第36号(7月)



### 「はじめに」 一言

フィールドレポーター担当 楠岡 泰

JICA(国際協力機構)博物館学集中コースの研修員5名が、6月27日から1週間ほど、琵琶湖博物館の交流事業について研修に来られました。アジア、アフリカ、中南米で博物館の学芸員やマネジメントをしている方ばかりです。

地域の方々と琵琶湖博物館との関わりを紹介する一環として、フィールドレポータースタッフの津田さんにフィールドレポーターの活動を紹介していただきました。自然や文化、生活について調査し、その情報を博物館と共有するフィールドレポーター制度には皆さんとても関心をもってくださいました。「住民が調査した結果が展示や学術論文に活かされるのは素晴らしいことで、地域住民にも博物館にもプラスになる。国に帰ってフィールドレポーター的な地域を見つめる制度を作りたい」という方がいました。その反面、「住民に情報や標本の収集をお願いしたら、お金を要求される」とか、「ボランティア制度はあるが、多くのボランティアは失業者で就職を優位にするためにボランティア活動をしている」など、それぞれのお国の事情があり、フィールドレポーター制度が国際的に定着するには時間がかかりそうです。

研修員の受け入れは、こちらが教えることより、教えていただくことの方が多く、楽しい1週間です。

### \*\*\*\*\* もくじ \*\*\*\*\*

表題	担当	頁	表題	担当	頁
* 「はじめに」一言	楠岡 泰	1	* FR 調査テーマ(竹の皮)	K.I	14
* 学芸員紹介	山崎千晶	2:5	* 山で遭遇する危険な動物調査	勝見政之	15:16
* 交流会報告	椋島昭紘	6:7	* 3年かかって咲いたスミレ	加固啓英	17
* エドヒガン調査中間報告	高田正一	8:9	* ホタル	まことちゃん	17
*	津田國史	10:11	* 植物から出題されたクイズ	加固啓英	18
* 新旭町日爪北谷植物	堀野義博	12:13	* セミの抜け殻観察会予定	杉野由佳	19
* FR 調査テーマの希望	井野勝行	14	* 予定表・あとがき		20

「単細胞的生き方わくわくする・マイクロな世界」

楠岡 泰さん 理学博士 専門分野:(微生物生態学) 主任学芸員

草津市 山崎 千晶

Q: 琵琶湖博物館との関わりは？

A: 1991年博物館準備室採用されてからです。  
それまでは、東京都立大学で微生物(原生動物の繊尾虫)の研究をしていました。  
ある日突然「微生物で募集しているけれど受ける気ないか？」と声をかけられました。



琵琶湖の周りには様々な研究機関もあり、日本でもっともよく淡水の生き物の研究がされていて、淡水生物のメッカみたいな所ですから、そこで研究できるというのは大変うれしかったですね。

Q: 微生物の研究をしたいなと思われたきっかけは？

A: もともと子どもの頃から生き物が大好きで小学校に入る前から虫捕りなどをしていて、生物の研究者になりたいなと、漠然とっていました。  
横浜市立大学の生物学科の1~2年は、哺乳類などの動物と植物の相互作用に関心をもっていました。

先輩が猿の研究をしていましたので、わたしも一緒に箱根の野生猿を追跡していましたが、一日中山を歩いていても群れに遇えない時もあり、近寄るのもなかなか大変で、猿が何を食べているのか興味はあるのですが、観ていてもよくわからないところがあり、動物と植物の関係を見るには、猿はあまり適切な対象ではないなと思いました。

途中で卒論のテーマを変えたり紆余曲折がありましたが、最終的には「蝶々と食草の関係」という選択をしました。

食べられることによって植物の群集の構造がどう変わるかという事に興味があり、筑波大の大学院に移り修士課程では、水生昆虫とそれが食べる付着藻類の関係について研究をしようと思い、水生昆虫が石の上に付着している藻を食べることによって、藻類の種類組成がどう変化するかを調べました。

石に付着した藻類の上に丸いハゲのようなものができ、それがだんだん大きくなって内側は珪藻(大塚さんの研究)で外側が緑藻という現象を見つけました。なぜだろう？とそれを追っかけていきましたら、それが、アメーバーによって起きていることが解りました。

アメーバが外に向かって並んで、分裂しながら食べて徐々に拡がっていくのです。昆虫と付着藻類よりアメーバと付着藻類の関係の方がおもしろくなり、途中でテーマを変えて、アメーバの捕食による付着藻類群集への影響について研究しました。

博士課程にいったん面白くないテーマがないかと、東京都にある善福寺川というドブ川で、サンプリングを行ってみました。そうしたら、ツリガネムシという小さいゾウリムシの仲間みたいなのがものすごい数でいました。これだけたくさんの数がいたら面白い事をしているに違いないと思って次の週に行ったら、全く居なくなっていて、どうしてなのか？どのような要因で増えたり減ったりしているのかとツリガネムシについて調べました。

ツリガネムシは細菌を餌にしています。ドブ川は細菌の量が多いので成長が速く条件がよければ、1日で8倍にも増えることができます。しかし、3~4日すると数が減る、なぜか？捕食者が出てきて一日で9割も食べられてしまうのです。大雨が降ったらドブ川の水位は2m位上昇しツリガネムシもそれを食べる捕食者も一気に流されます。

大雨の後には成長が速いツリガネムシが急激に増え、数日で1cm<sup>2</sup>あたり数千個体まで増加しました。環境が安定していると捕食者が多く、ツリガネムシは、細々と生活しています。

Q: これからの夢は...

A: ミクロの世界を覗いていて感じる、わくわくするこの面白さを、博物館をとおして一般の方に伝えていけたら良いなと思います。

Q: イギリス自然史博物館は、どのような博物館ですか。

A: イギリス自然史博物館は大英博物館の自然史部門が分離したものです。

イギリス自然史博物館には02年12月から03年3月まで滞在しました。

ここには客員研究者も含めて300人以上の研究者がおり、地学・化石・動物・植物などさまざまな角度から自然を見つめています。展示や収蔵などのスタッフを含めたら500人以上の人が働いているそうです。入館料は無料で、企画展のみ有料です。

私がいた原生動物の研究室には、常勤の研究者4名のほかにスペイン、メキシコ、中国など世界各国からの研究者が研究に来ており、総勢8人の研究者が原生動物の研究をしていました。世界的に見ても、博物館に原生動物の研究室があるのはめずらしく、その中でも伝統ある研究室です。1700~1800年代の標本もあり、文献もそろっていて、研究者には宝の箱みたいな所です。

日本の博物館にはほとんど原生動物の標本はありません。特に繊毛虫はホルマリンやアルコールにつけると形が崩れてしまい、プレパラート標本は東京の国立科学博物館にもありません。ロンドンでは繊毛虫のプレパラート標本の作り方を中心に原生動物標本の作り方について学びました。今後琵琶湖の繊毛虫の標本を作つていきたいと思っています。

Q: ロンドンはどのような街ですか。 .

A: ロンドンで暮らしてみると外国人も多く違和感はなかったです。世界各国のレストランもあるが料金は高い。スーパーに行くと様々なパイが常時 20 種くらいあり、おかずになるものからデザートにあたるものまで並んでいて、中身は鳥・魚・牛・羊・豚・芋・果物など様々で、それだけで食事になるし美味しかったです。

家賃は東京並みですが、生鮮食料品は安く、白菜・長ネギ・豆腐・しいたけも入手できます。大きいアンコウの頭(現地ではダシ取り用)が 500 円だったので鍋にして 3 日間食べられました。魚は鮮度が悪くて刺身では食べられません。

休日は、博物館の見学などをしていました。一度湖水地方にある淡水生物研究所を訪問し、以前からメール交換をしていた原生動物の研究者からあちらのテクニックを学びました。

平日は毎日博物館で研究をしていました。現地の正規職員の勤務時間はフレックスタイムで多くの方が、8~16 時でしたが、私は 9~19 時の勤務でした。冬でしたのでロンドンは 16 時にはもう真っ暗でした。時々パブに各国の研究者と行きましたが、イギリスの人たちは、パブでは食べ物は注文せずに、ただひたすら飲み、食事は家に帰ってから食べていました。ビールは 10 種程あり、日本の冷酒感覚で、冷で飲むか？室温にするかと声をかけられます。

野菜はくったくたに湯がかかっていますが、イギリス料理も思っていたより美味しく、食生活は充実していました。

毎日どこかで電車や地下鉄が止まっており、皆たくましく、どうやって目的地まで行くかゲーム感覚でした。発車時間や、ホームの変更は頻繁にあり、日本とは違い、案内アナウンスも少ないので、戸惑うこともありましたが、帰国するころには慣れました。

Q: 原生動物はどんな生き物？

A: 原生動物の種類はほぼ世界共通で、環境によって種類は異なりますが、同じような環境ならイギリスとオーストラリア沖のタスマニアではどうしてか 90% もの種類が一致したという報告もあります。

原生動物はどこにでもいて、ナミブ砂漠でも新種が多数発見されました。乾燥には強く休眠細胞をつくるので、水があれば数時間で出てきます。厳しい環境には競争相手や敵がいないので、急激に増えることができます。南極の氷の中に住んでいるものもいます。

新種発見や分類よりも小さな生き物の生きざまに関心をもっています。新しい現象や、珍しい生態が見つければうれしいです。原生動物は難しいけれど面白くて、小さいのでシャーレで培養ができますので、条件を変えてみると、予想外の小さな発見があります。

Q: 仕事を離れた楠岡さんについてお尋ねします

A: 趣味は蕎麦打ち、道具も揃えて本で習得しました。(交流会で蕎麦を打って頂いた折、これが私の調理道具の中で一番高価なものと、手にして笑っておられたのが、有次製ウン万円の蕎麦・麵包丁でした)。だれでもちょっと練習すれば、工場で作った蕎麦を出す店よりうまい蕎麦を作れます。

蕎麦打ちのコツは、水回しとコネ前のまとめで、自然にまとまるまで待ち、無理にくっつけないことです。

料理は好きで苦になりませんが、物の整理は苦手です。仕事・研究のデータはパソコンか、決まった引き出しにしまうので、今の所なくした事はないです。

住まいは西大津の民間アパートで、引っ越そうと思うのですが、気に入った家が見つからず、車の免許はないので、どこへ行くのも電車とバスです。



Q: 琵琶湖博物館でFRの担当をされて大変なことは？

A: かみさんの所になかなか帰れないことです。かみさんは地元(神奈川県)で仕事をしているので、会えるのが土日しかなく、FRの定例会が月二回と、ほかにも観察会や様々な仕事があると、向こうに帰るのが年に数回で、かみさんが月に数回こっちに来て観察会に参加している状態です。

お話を伺っていて、学芸員の皆さんどなたも同じでしょうが、自分の研究以外にもいろいろ仕事を持っておられるので、自分の時間が犠牲になり、大変だなと思いました。

イギリス自然史博物館のお話、私も行ってみたいくなりました。大英博物館へ行かれた方の話はときどき聞きますが、自然史博物館の話聞いたのは初めてでしたので、機会があればぜひ行ってみたいと思いました。

楠岡さん、楽しいお話のいろいろ、ありがとうございました。

## フィールドレポーター交流会(5月29日開催)の報告

FRS 椋島 昭紘

今年度の最初の行事として、定例になっているフィールドレポーター交流会を5月29日(日)午後、琵琶湖博物館の生活実験工房で開催しました。

この交流会は先にご案内させていただきましたように、前年度の調査結果の報告と意見交換をして、フィールドレポーター相互交流および琵琶湖博物館の学芸員の方々との交流を目的にしています。

当日は屋外の行事にもってこいの晴天で、参加者数を心配いたしましたでしたが全員で21名の方々の参加で、学芸員の方々も多数、ご多忙の中最後までご参加いただき、報告に対するコメントや意見を多くいただきました。また、レポーター相互にも活発な意見交換ができ有意義な交流会になりました。以下交流会の様子を写真も使って内容を報告します。

活動報告は3件「我が家の年中行事調査」(担当津田さん)、「夏のセミ調査」(担当杉野さん)、「野生生物の予知能力」(担当森さん)です。詳細な内容はすでに送付いたしましたフィールドレポーターだよりで報告したものです。報告会の最後に実習として「セミの鳴き声を聴いてセミの種類を当てましょう？」クイズを全員で実施しました。その集計結果も下に示します。そして懇親会にはフィールドレポーター担当の楠岡主任学芸員が飛び入りで準備いただいた手打ちそば道具、そば粉で見よう見まねでそばを打って、腕じまんの麺、初めての方の麺などゆであがったそばをご馳走になり、楽しい懇親会になりました。 以上

開会挨拶(FR担当楠岡主任学芸員)  
「今日の報告には生物学系、社会学系、生物予知能力とバラエティーに富んだ面白い調査結果が報告されます。ぜひ活発な意見交換をお願いします。」



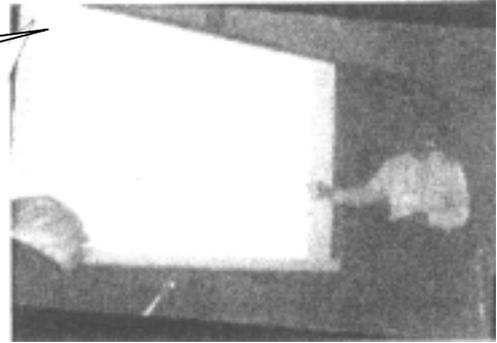
杉野さんの報告「夏のセミ調査」結果、「05年度も追加の調査をしたい。八尋主任学芸員からセミ種類の変化と環境の変化との関わりを継続して調査するのも面白い」とコメントいただきました。



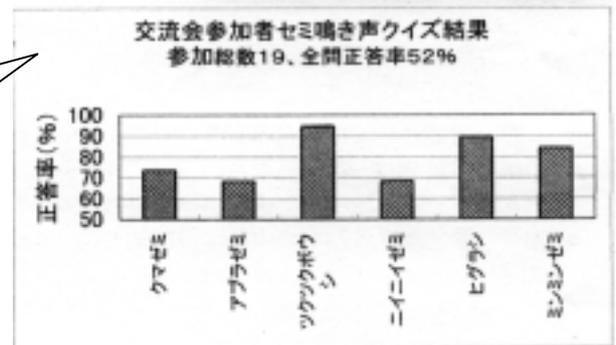


津田さんの報告「我が家の年年中行事調査」、年中行事も地域・家庭の変化とも変わっている…。牧野主任学芸員から、行事と人関係など調査へのアドバイスを受けました。

森さんの報告「野生生物の予知能力調査－1」第2回の調査(カメムシと自然現象調査)をやりたい。秋山専門学芸員、から生物の性質と自然現象という観点で捉えるのも面白いとコメントを頂きました。



『セミの鳴き声を聴いてセミの種類を当てましょう?』クイズを全員で実施しました。その集計結果を報告します。参加教 19、全問正答率は約半教の52%でした。



報告会が終了し、有志の参加を得て懇親会を行いました。

飛び入りの企画で、柿岡さんからそば打ちの道具、そば粉差し入れがあり、そば打ち体験をして、ご馳走になりました。



## エドヒガン(2005年第1回調査)中間報告

FRS 高田正一

短期間の調査にもかかわらず多くの方々が調査にご参加くださりまして、本当にありがとうございました。

### 1. 回答枚数: 74(レアー・デー)ター;75 件)

エドヒガン(枝垂れを含む)が見つかったと報告	: 50
“見つからなかつた”とはっきり報告されている	: 25
同一サンプルの経日過報告と思われる	: 1 (d1, n)
1枚の報告書で2ヶ所報告していると思われる	: 2 (d1, r)
複数の方が同じ試料について報告していると思われる	: 8 (d8, n)
有効データー	: 67

### 2. 調査地点と分布状況 : 図をご覧ください、

分布図は(n)を"data cut"し、メッシュコード内1点プロットで作成してみました。

### 3. 考察:

樹の形について枝垂れ種と直立の種が報告されている。

樹皮は縦縞・横縞・小さな点が存在の3種が報告されている。

これらデーターをどのように解析すれば良いのか模索中です。

調査に参加された方々の中には専門的知識のある方や非常に興味を示されている方が多数おられるように見受けられます。

データー解析方法の検討・まとめ・考察・報告等の作業をやりたい方は定例会にご参加ください。

### 4. 調査用紙の6項目で、お尋ね頂きました質問・疑問について:

#### 1. エドヒガンを漢字で書くと「江戸彼岸」ですか?

その通りです。

#### 2. 徳源院の道誉桜の説明文にエゾヒガンとありますが?

インターネット上でも「エゾヒガン」、「アズマヒガン」、「ウバヒガン」などの名称がよく見られますが、分類学的には、この名称は使われておりません。誤りではないかと思われます。

#### 3. エドヒガンはみなしだれなのだろうか?

分類学的には、枝が上を向いているものが「エドヒガン」です。

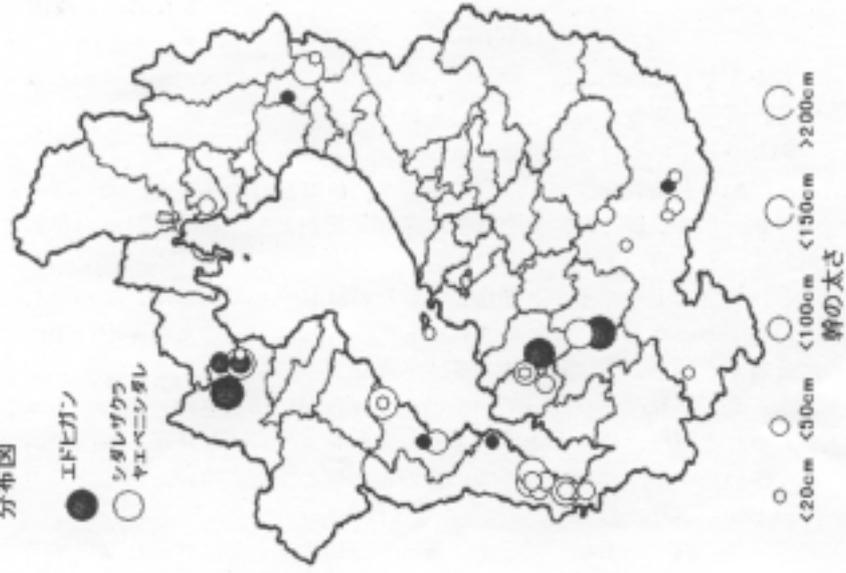
しだれているものは「イトザクラ」または「シダレザクラ」と言い、花が淡紅色のものを「ベニシダレ」、八重咲きのものを「ヤエベニシダレ」と言います。

#### 4. 守山川田公園の若木について

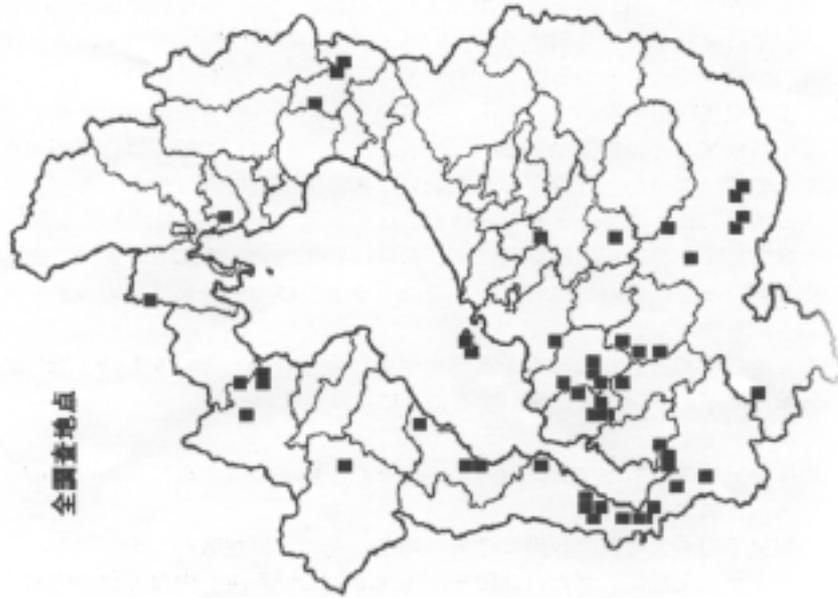
川田公園の若木(5本)は、「薄墨桜」として有名な岐阜県根尾村の古木の子供で、典型的な「エドヒガン」です。

以上

エドヒガン群桜  
分布図



全調査地点



## 「わが家・地域の年中行事調査」のまとめをして

FRS 津田國史

ちょうど一年前の今頃、フィールドレポーターの皆さんから「わが家・地域の年中行事」の報告が寄せられていました。

調査項目を年中行事と決めた時点で、フィールドレポーターのスタッフで、皆さんに配布するアンケート内容の事前チェックを行いました。その時の回答を縮小コピーして、皆さんに年中行事の調査回答例としてお配りしたのを覚えていただいていると思います。

これで全て上手く運ぶと満足していたのは私一人で、実は、とんでもない思い上がりであったことに気付かされました。それは、いろんな年中行事をどのように分類するかという、基本的な事柄が確立できてなかったことです。

皆さんが、あれはどうなっているのか、報告がいまだに無いがと、もう半ば諦めておられる頃に、やっと年中行事報告をお届けできましたが、事前チェックで肝心の事柄がすっかり抜け落ちていたのを、皆さんから頂いた報告を入力している時点で知らされたのです。

スタッフで行った事前テストを、集計・分類するまでには至らないまま、アンケート項目を決定したツケが、入力時点で火を噴きました。

各地、各家で年間、さまざまな行事が行われているだろうことは予測できましたが、ではそれをどう分類するかという、調査の根幹をなすものを、調査開始までに私が確立できてなかったのです。

例えば、地域行事のなかで、名前は神事のようなのだが、内容は農事であり、その違いこそが地域ごとの特徴であるのに、名前だけで分類しては行事の本質を見誤るのではないかと、行事内容を検証して初めてこの行事は神事であり、農事であると決められるのではと知らされました。

その目で見ますと、同じ行事名でも、報告の行事内容、参加者の思い、行事の行われる場所などに違いが見られ、単純に行事名だけでの分類は間違っていると思うようになりました。

改めてそれまで入力した行事を調べますと、分類の違っているもの、思い込みでの分類などがあり、全てを検証することになりました。

地域を旧地域と新地域とに分けての集計も、いまだにあれで良かったのかとの思いがあります。

角川版目本地名大辞典に収録の地名であることで、旧地域としましたが、その旧地域とされる土地に、新たな住宅地が開発されている所も少なくないのです。スタッフの中

にもそのような土地に住んでおられる方があり、「わたしの住んでいるのは新興住宅地です」と云われ、私もその土地の様子を知っていますので、旧地域への分類は迷いました。たまたまスタッフの中に居られたのと、私も知っている所であったからですが、他の所でも同じようなことがあるのではないかと。それであるなら、報告のあった地点の現状をもっとよく調べねば正確な分類はできないのではとの思いに駆られ、こんな分類をしたことに腹をたてていました。

行事分類、地域分類という項目に加えて、その土地に住んでおられる年数も記入してくださいと欲張った調査項目を立て、報告していただいたのに、それらを完全に生かしてない結果になりました。

自分の体験した行事については理解できていますが、異なる地域・家で行われている行事については、自分の感覚で納得しく理解できたと思いついでいる怖さを知らされました。

湖西にお住いの阪口さんから、「神語り研究」という題で、宗像成子氏が志賀町栗原水分(みくまり)神社の祭礼について調査報告されたものを、今回の年中行事調査の報告と共に頂きました。

これによりますと、祭礼の起源・祭礼の内容・変遷が、湖西の和邇・喜撰川・真光寺川・生川・天川の流域で、川の水利権・琵琶湖の漁業権、山林の入会権などが絡み合った、複雑な利害関係などから、近世の住民たちによって共同祭礼という形で「和邇祭」が始められ、それがまた単独の神祭に分岐・特立させていく経緯が記されていて、栗原地区の年中行事がどういう過程を経ていまの形になったのかよく判りました。

それぞれの行事には地域・わが家の歴史があり、行事を行う人がそれを継承して来て今があるのに、ついこの間の、昭和の初め頃の地域の年中行事についてすらあやふやなまま、おこがましく年中行事のまとめをして、これが今の近江の年中行事ですとはとても云えないとの思いです。

現地を見て、そこに住む方から聞いて、はじめて調査の内容が確認できるのではないかと、それが叶わなければ文献・記録なりでの検証をするべきだとの思いを強くしました。

年中行事調査のまとめをして、これまでになく多くの事柄を学びました。調査項目から報告内容の予測・分類計画、検証の範囲・手段の確立など、調査に係る事柄はもちろん、入力前の手順、PC の操作にいたるまで、実に多くの事柄を学芸員の方、スタッフの方々から教えていただきました。

不十分な調査報告をしていながら、この年中行事調査で、いちばん多くのものを得たのは私ではないかと思っています。

## 主 題 「新旭町日爪北谷櫃物」

投稿目『05.04.27』名 前高島市 「堀野 義博」

琵琶湖岸から約 1.5km と近い里山が、高島市新旭町日爪の北谷である。里山砂北斜面と、南斜面を結ぶコースは変化にとんだ植物が観察できる。

私たち新旭町植物観察グループは、昨年 4 月から 1 月までの 8 ヶ月間北谷の植物観察、調査をしてきた。その方法は毎月土曜日の午前 9 時に北谷の入口に集合し、開花している植物を中心に、植物の種名を調べた。各自見慣れた図鑑を頼りに調べたが、不明や自信のないものは琵琶湖博物館の村瀬忠義先生に標本を送って向定していただいた。

毎回同じコースの植物を観察していても、前回つぼみが一週間後に開花する姿を観察して自然変化を感じた。毎月 4 回観察した結果を、草本、木本に分け五十割頂に並べ替え、開花前、開花 O、結実 のマークをつけて 月毎にまとめ、これらの調査結果を「新旭町日爪北谷の植物」として印刷した。例として「5 月の北谷の植物」を掲載する。

今年になって 4 月から 10 月まで、毎月第 1、第 3 日曜日に、この調査結果を活用した観察会を計画している。その方法は参加者に「新旭町日爪北谷の植物」をテキストにして、観察した植物に をつけ、観察した植物とした記録する。観察会終了後に観察してきた植物の中から 10 種類の植物を選んで展示棚の容器に挿入し、その植物の種名を記入する「植物の名前当てクイズ」を実施する。

また、2 種類の植物を採取して「押し花はがき」づくりを実施している。

(編集委員から;堀野さんからの原稿はフォントが「16」でしたので、掲載ページ数の関係上「12」で編集させていただきました。原稿の雰囲気が変わりましたことお詫び申し上げます。)

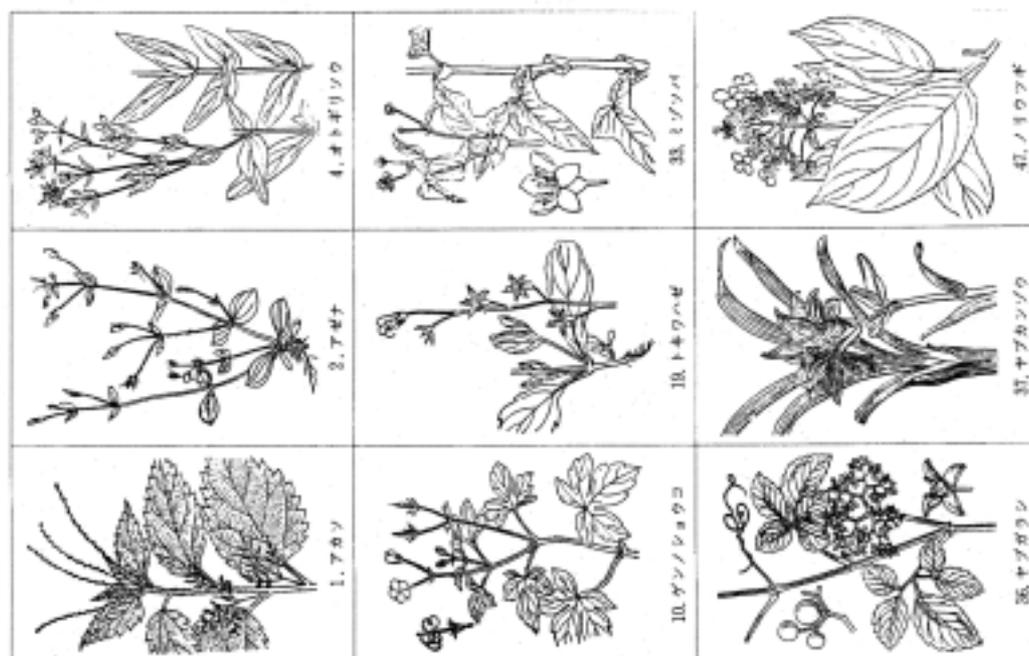


日爪北谷の写真 (3) 村瀬忠義先生



堀野さんの添付資料

本文には5月の北谷の植物の紹介がありましたが、掲示板の発行の都合で時期がずれてしまいましたので、同封いただきました、新旭町北谷の植物の冊子から7月のページを抜粋して紹介させていただきます。



7月の北谷の植物

種名	調査日				備考
	3日	17日	24日	31日	
1 アカツ	△	○	○	○	○
2 アザミ	○	○	○	○	○
3 エノコログサ	○	○	○	○	○
4 オトギリソウ	○	○	○	○	○
5 オムドコロ	△	△	○	○	○
6 カタバシ	○	○	○	○	○
7 キツネノボタン	○	○	○	○	○
8 タケイ	△	○	○	○	○
9 タケフジ	○	○	○	○	○
10 ガンシショウコ	○	○	○	○	○
11 コスビ	○	○	○	○	○
12 シロツメグサ	○	○	○	○	○
13 チガヤ	○	○	○	○	○
14 チヂミ草	○	○	○	○	○
15 ナドメグサ	○	○	○	○	○
16 ツユクサ	○	○	○	○	○
17 トリギシバ	○	○	○	○	○
18 トウバチ	○	○	○	○	○
19 トキワハゼ	○	○	○	○	○
20 フタダミ	○	○	○	○	○
21 ニギナ	○	○	○	○	○
22 ニラセキショウ	○	○	○	○	○
23 米びこ	○	○	○	○	○
24 ノアザミ	○	○	○	○	○
25 ノボロキタ	○	○	○	○	○
26 ハコベ	○	○	○	○	○
27 ハハコグサ	○	○	○	○	○
28 ハルジオン	○	○	○	○	○
29 ヒメオトギリソウ	○	○	○	○	○
30 ヒメジョオン	○	○	○	○	○
31 ベニバナオボロキタ	○	○	○	○	○
32 ヘビイチゴ	○	○	○	○	○
33 ミヅバ	△	△	○	○	○
34 ミゾケルズキ	○	○	○	○	○
35 ムラサキニギナ	○	○	○	○	○
36 ヤブガラシ	○	○	○	○	○
37 ヤブカンゾウ	○	○	○	○	○
38 99シユウヤマゴボウ	○	○	○	○	○
39 コウバムダラ	○	○	○	○	○
40 アキメギシク	△	○	○	○	○
41 タリ	○	○	○	○	○
42 ゴボウアザミ	○	○	○	○	○
43 ナムノキ	○	○	○	○	○
44 ハシノキ	○	○	○	○	○
45 ムシカリ	○	○	○	○	○
46 リョウブ	○	○	○	○	○
47 ノリウツギ	○	○	○	○	○
48 ヤブデマリ	○	○	○	○	○
49 ヤマアジサイ	○	○	○	○	○

表題【「フィールドレポートの調査テーマの希望について」】

投稿日【2005年4月17日】

甲賀市 甲賀町 井野勝行

私は先日いただいた掲示板に掲載されていた彦根市の加固さんのご意見に賛成です。私もかれこれ15.6年ほど前から、ロード kill の動物を不憫に思い、「こんなことしても動物自身は喜ばないかな」と思いつつも見つけるたびに車を止めて道脇にどけてきました。だって何か、これって人間による自然への迫害の象徴、という気がして。

太古の昔の生き物からの贈り物である化石燃料を大量に使用して人間の1000倍のエネルギーを使いつつ、人間の「便利さ」への欲望のために走っている自動車によって、何の罪もなく殺される動物たち。そりゃ、事故でだれのせいでもない、といえないこともないけれど、この事故は九分九厘、人間という1つの種があまりに他の動物と比べて不自然な生き方をしているが故の事故だと思うから。だから、その骸が死して尚、その自動車に辱められるということが耐えられなくなりまして。

従って、これをなくしていくこと・減らしていくことにつながるならば、とても意義深い調査になると思います。調査としてはこれまで行われてきたものとは違って雰囲気の良いネガティブなものになるかもしれませんが、時にはこういうのもいいのでは？

(編集委員から：頂きました電子メールの原稿を編集させていただきました。内容は受け取りました原稿のとおり添付いたしました。)

表題【 竹の皮 (フィールドレポート調査テーマ) 】

投稿日【005425】お名前【 大津町村 K. I. 】

甘き押さえたでっ羊羹。私はこの季節になると不思議と食べたい物の一つです。数ある老舗の味が微妙に違うけれど、一はには入れると、また肉に幸せの世界へと導いてくれます。  
今日はそれを包む竹の皮の話です。抗菌作用もあり、食料の保存に適すると言われる竹の皮は、昔から茶の半皮、どっよりに役立っているのでしょうか。そして今なお、滋養の食文化の半皮活かされているのでしょうか。もっと知りたい。もっと利用したい竹の皮です。利用価値を後世に伝えるために、一度調べてみませんか。

【山で遭遇する危険な動物(クマ・スズメバチ・マムシ・ヤマカガシ・ヒル)に関する調査・報告】(第1回)

【投稿日 05.5.7~6.23】

草津市 勝見 政之

私は、一昨年(2019年)の5月に遺唐を迎え、若い頃によく山に連れて行った息子が、遺暦祝いとして、今度は私を、芦生(あしう)の森(芦生原生林)に連れて行ってくれました。

それを契機として、山に登りたいという意欲が沸き起こり、7月には、湖南アルプス(太神山)・金勝アルプス(竜王山)・綿向山・飯道山、8月には、伊吹山(夜間登山)・御岳山、秋には比良山(各ルートから数回)、10月には中央アルプス、11月には湖北の己高山・金糞岳などに登りました。

去年は、2月から長命寺山、湖西の岩阿沙利山・蛇谷ヶ峰、岩間寺・醍醐山などに登り、4月から、鈴鹿山脈の山々(油日岳・那須ガ原山・高畑山・竜ヶ岳・静ヶ岳・綿向山・銚子ガ口岳・御池岳・霊仙山(5回))、伊吹山(3回)などに行きました。

5月には尾瀬、7月には白山、8月には北アルプスの双六岳・笠ヶ岳、10月には、去年に続いて中央アルプス(初雪)に登りました。尾瀬ではミズバショウが満開で、双六岳・笠ヶ岳からは槍ヶ岳が、また中央アルプスからは南アルプスの北岳・間ノ岳・農取岳が、きれいに見えました。

6月に霊仙山(谷山谷コース)に登った時にズボンと登山靴の間の靴下を裏返すと、網目の間からヒルが侵入し、足の甲に吸い付いていました。帰ってから足と靴下・靴を洗っていると、甲にはもちろん、靴下・靴・靴底に沢山のヒルがくっついていました。頂上で出会った高年の方が、首に血の付いたタオルを巻いておられたので、お話を伺うと、『ヒルが飛んで来て、喉仏に吸いつきました』と言っておられました。鈴鹿はヒルの名所で、特に水が多い谷筋を登る時はヒルに吸いつかれるようです。ヒルは誠に歓迎されざる生物です。でも、マムシに噛まれなかりただけでもよかったと思っています。

上記のように、私はよく山に行きますので、一番の恐怖は、遭難(骨折や捻挫)を別にすれば、何と云ってもクマに遭遇することです。そこで、クマに遭遇しないためにはどうすればいいのかと、いろいろ考えた結果、下記の引用・参考文献等から、主にクマに関する記述を抜粋・転記いたしました。・からはマムシ・ヒルに関する情報を、からは更にスズメバチ、ヤマカガシに関する情報も得ました。

尾瀬・山ノ鼻ビジターセンターの掲示板に記載されていたクマに関する情報(写真撮影)

引用文献[山でクマに会う方法 これだけは知っておきたいクマの常識]米田(まいだ)一彦著(山と溪谷社)(1996年10月10日 第1版発行)

引用文献(クマを追う)(自然誌選書)米田一彦著 動物社(1991年5月27日)

引用文献(ベア・アタックス(クマはなぜ人を襲うか I・II))S.ヘレロ著(嶋田みどり・大山卓悠訳)北海道大学図書刊行会 2000年9月10日 第1刷発行

引用文献(日本動物大百科5両生類・爬虫類・軟骨魚類)(101頁~102頁)(目高敏隆監修)

引用文献(日本動物大百科5 ヒル)(101頁~102頁)(目高敏隆監修)

滋賀県立朽木ふれあいの里センターの展示(ツキノワグマの剥製を写真撮影)

山登りを再会して約2年が経ちますが、高山ほど登山道や標識が整備されていて、低山(里山)は未整備で、却って迷い易いことが分かって来ました。

去年、京都府の最高峰である皆子山に行った時も、雨後で増水した谷を降り、やっとのことで里に出ることができました。また去年の6月に、霊仙山(西南尾根=今畑登山道)に登った時も、標識が殆んどなく、下山時にあらぬ方向(深い木立の中)に迷い込みました。この時も、クマが出ないかと心配でしたが、幸いにもカモシカ?2頭がガサガサと樹間を疾走するのに出会っただけで、別の登山道(樽ヶ畑登山道)に出ることができ、九死に一生を得ました。

このことを教訓として、後日、再度このコースに挑戦し、木の枝にビニール紐を結び

付けながら登りました。(ボランティア登山?と言うには気恥ずかしいですが)。これ以来、初めての山に行く時は、下山時の目印に、分かり難い場所の木の枝に、ビニールを結び付けることにしています。

また、家族や兄弟・親戚から、遭難してヘリコプターが飛んだら何百万円の捜索費用がかかるから山岳保険に入るように言われ、去年の8月に、日本山岳協会(日山協)の山岳保険に入りました。さらに、緊急連絡用に、携帯電話も購入しました。

でも、山地の林間など、平地を見下ろせない所では、地上に電波が届かず、役に立たないようです。でも、伊吹山の頂上の、日本武尊の立像の前からは、平地が見えて、携帯電話がつながりました。山での緊急の連絡用には、やはり無線が一番だと思いますが、アマチュア無線の資格がいるようです。藤原岳に行った時も、無線機を持っておられる人に出会いましたが、最近の遭難事故(新聞やテレビ報道)でも、無線で救助されているようです。

去年の晩秋から初冬にかけて、湖北や湖西地方で、クマが里の人家に現れ、ガラスなど破って縁側まで上がって来た、などの新聞記事やテレビ報道がありました。湖北や湖西にはクマが棲息しているようなので、十分注意しなければなりません。事実、一去年の秋(11月)に湖北の己高山に登った時も、地元の初老の男性が、『先程、上の方でクマが木に登っていたので、注意してください』と言われました。

やはり山で一番恐いのは、遭難は別にして、クマに襲われることです。去年、尾瀬から帰った6月5日の朝目新聞に、「2会社員がクマに襲われ、手や足に1ヶ月の重傷を負った」との記事が出ていましたが、例えクマに襲われても首・頭・顔部だけはやられないように、ザックを背中にして後ろ向き(うつ伏せ)になろうと思っています。

私は、子供が小学生と幼稚園の頃の、20年ほど前の9月に、家内と4人で、霊仙山に登ったことがありました。霊仙山には学生時代に友人と登ったことがあるので、日帰りできるだろうと安易な気持ちで、懐中電灯も持たずに行きました。樽(くれ)ヶ畑登山口に、「クマが出没するので、注意してください」と書かれた、看板が立っていました。下山は、同じ樽ヶ畑に戻らず、沢沿いのコース(今から思うと、上丹生におりる谷山谷道)を降りました。そのうちに日が暮れて来て、真っ暗闇になり、一步も歩くことができなくなりました。ここで、懐中電灯を持って来なかった、己の判断の甘さを嘆きましたが、後の祭りでした。

仕方なく、沢の上方の草むらで、一夜を過ごすことにしました。登山口の立て看板に、「クマ、出没注意」と書いてあったことが脳裏から離れず、虫や小さな動物が草むらや樹間を動く時に立てる音に怯えていました。この時、一番怖かったのは、マムシもそうですが、やはりクマでした。

一応、一家の主ですから、クマが現れたらどう抵抗しようかと、そればかり考えていました。幸い、ガスバーナーは持って来ていたので、この火で、クマに抵抗しようと考えていました。でも、ガスバーナーも一晩はもちませんので、点けたり消したりして調節しました。幸いクマが現れることもなく、やがて空が明るくなってきた時は、正直言ってほっとしました。野営した場所から少し降りると、登山口が現れました。急いで車の所に戻り、草津に戻りました。長男が小学校に行った後、疲れからぐっすり眠り込んでしまいました。

引用文献 には「クマは火を怖がらない」と書いてあるので、もしクマが現れていたら、抵抗のしようもなかったな、と思いました。この時は一晩を山中で過ごした訳ですから、もし誰かに霊仙山に行くと言っていたら、捜索願が出されていたことと思います。今でも、冷や汗が出る思いがしますが、今となっては、懐かしい思い出として残っています。

しかし、一昨年夏の伊吹山の夜間登山をした時に、懐中電灯を忘れ、一昨年に太神山に登った時は、ライター(マッチ)を忘れ、持参したラーメンを食べることができず、空腹に耐えながら、何とか下山しました。このように、何事に付けそそかしい私です。

今回は、山で遭遇する危険な動物(クマ・スズメバシ・マムシ・ヤマカガシ・ヒル)の情報について、具体的に報告したいと思います。(続き)



布谷様(博物館学芸員)昨年晩秋の夕刻、忙しくイベントの準備の指揮をされ立ち働いておられたところを強引に割り込み、ウバユリについて質問し、お手間を取らせて済みませんでした。又、観察会等で伺った「バラ科を一つの科とするのはおかしい」と云うお話も身近に思い当たるふしが多々有り、今年はイチゴ(オランダイチゴ)の花と実(可食部分、多分花托)の種子の位置の関係をじっくり見てみようと思っております。

表題に[植物から出題されたクイズ]と変なことを言い出しましたが、例をあげると、ハナイカダハは葉の表面の中央付近に花が咲くが、何故か?と云った類いのもです。この答えは多分葉柄の付け根の上、茎との間から延びるはずの花柄が倒れ込んで、葉柄と葉の主脈とに融着した結果、花の咲く位置が葉の上の中央付近に当たったのだと思っています。

件のウバユリですが、どう見てもユリ科(単子葉植物)ですが一見網目状葉脈に見えるのです(現物がひどく枯れており見にくくもあった。)

そこで、平行葉脈で網目状に見えるモデルを考えて見ました。

- 図 A 筏の様に縦方向に並べた葉脈に規則的に切れ目を入れて、横方向に引き伸ばす。壁のモルタル塗りの下地のラス網や、大根の飾り切りの桂剥きから作る網と同じような作り。
- 図 B 平行葉脈の一本一本が左右に揺らぐ、千鳥足走行です。規則正しく広がると六角網目の金網の様になるはずですが。
- 図 C 多数の横並びに密着した葉脈が行く先々で分岐する、小さな流れが集まって大河になる構図と反対です。



観察結果は図 C が正解の様でした。平行葉脈の一本一本は見分けられませんが分岐の度に元の葉脈(の束)が枝分かれの太さ分だけ細くなっていました。

どうも進化のずっと元で起こった、平行葉脈から網目状葉脈への移行を暗示している様にもみえました。

「双子葉植物は直根で網目状葉脈、単子葉植物ヒゲ根で平行葉脈」と習ったのは、約半世紀前の小学生か中学生の理科だったように思います。

## 表 題 「エドヒガン調査雑感」

投稿日 [050501]

名 前 [野洲市 まことちゃん]

フィールドレポーターの調査をサボってどれくらい経ったのだろうか。調査はサボっても『Mr. FR 掲示板』とのFR談義は年数回は、山登りの帰り道に自宅に押しかけ、いつも2、3.時間はやっている。先日ついに、「あんたの話、僕が書いてあげようか。」と、筆無精をたしなめられてしまいました。

今回のエドヒガン調査は、毎度のごとながら調査票と説明をろくに読みもせず、桜の開花を待っていました。県内の桜が一気に咲いた4月10日夕方近くに、使用済み封筒を10枚ほど持って、ミニバイクでサンプル採取に出掛け、小一時間で終了。メッシュコードを袋に書き、いざ調査票に記入し始めたら、な、なんと……。樹皮や幹周り、高さ等々、調べることがたくさん書いてあり、しかもエドヒガンでなければ意味がない事を知り、自分の愚かさを実感しました。幸いにも一つだけエドヒガンと思われるものがあり、二日後にその木の調査をしました。

今回の調査では特に次の点を反省した次第です。来年やり直したい気持ちです。

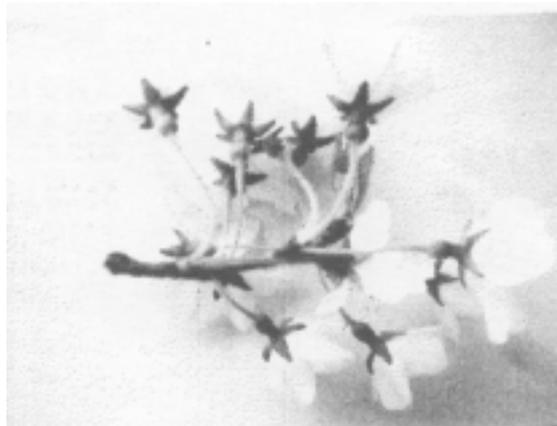
カメラ、巻き尺等、携行品を確かめる。

調査地点を事前に決めておく。

ソメイヨシノが咲いてからではエドヒガンは散ってしまう。

土手や道路の桜並木や公園はほとんどソメイヨシノである。

歴史の古い神社、寺院、城跡などにある古木・老木がポイント。



## フィールド・レポーター7月・8月・9月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定お願いいたします。  
 なお、稀に予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
7月16日(土) 13:30~17:00	定例会	博物館交流室
8月06日(土) 13:30~17:00	定例会(セミ観察会準備)	博物館内屋外展示園
8月20日(土) 13:30~17:00	セミの抜け殻観察会	博物館交流室
9月03日(土) 10:00~17:00	定例会(掲示板発送予定)	博物館交流室
9月17日(土) 13:30~17:00	定例会	博物館交流室

(おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

### 〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

今年6月の梅雨前線は南海上に停滞したかと思えば、東北北陸に停滞したりと動きが今までとは違い、湯水の九州四国、大雨洪水の新潟北陸と両極端の被害をもたらしています。わが滋賀県でも水が少なく漁が十分思うようにできない川もあるようで、これが自然というものでしょうか？

今回の掲示板には投稿いただいた皆さん方の原稿を全部掲載できずに本当に申し訳ない気持ちです。掲示板のページ数は定例会でスタッフの方々と相談して20ページ位が、読んでいただくための上限であろうと、言うことでページ数を抑えました。

今回掲載できなかった原稿は次回には載せられるようにいたします。これからもたくさんの投稿をお願いいたします。なお、可能でしたら A4で2ページ以内に纏めていただければ有り難いです。(担当 FRS 椋島昭紘)



# 掲示板

2005年度 第3号 通巻第37号(9月)



## 怪しいおじさんのセミ捕り

フィールドレポーター担当 楠岡 泰

10月に山口県萩市で開かれる博物館ボランティアメッセ2005で、フィールドレポーターがセミの展示を行い、その中で、セミのプラスチック包埋標本を使った体験プログラムを実施することになりました。先日のフィールドレポータースタッフ定例会で、セミの包埋標本作りを行いました。クマゼミ、アブラゼミやツクツクホウシなど市街地や平野部で多く見られるセミの包埋用標本は簡単に集まったのですが、ミンミンゼミの標本がありません。ミンミンゼミは関西では平野部ではあまり見られず、少し標高が高い山間部に多いセミです。不思議なことには、このセミは関東では東京のど真ん中にも生息する普通種です。

9月初旬、博物館は収蔵庫の燻蒸を行うため休館します。この休みを利用して妻の実家がある鎌倉に行ってきました。関東なら簡単にミンミンゼミが採れるのではないかと、捕虫網を持って帰郷しました。台風14号の影響下の大風が吹く中、家の近くの公園で数十年ぶりに真剣にセミ捕りを行いました。9月に入るとツクツクホウシとアブラゼミばかりでミンミンはほとんどいません。それでも、遠くでミンミンゼミの音が聞こえるとその木まで急いで行き、必死でセミを探します。見つかったとしてもほとんどが網のとどかない高さです。鳴いているセミを探しながら上を見て歩いたら、U字溝にはまり、弁慶の泣き所を強く打ったり、犬の散歩をしている近所の方に怪訝そうな顔で見られたりしましたが、なんとか2日かかりでミンミンゼミを2頭捕ることができました。



子どものころ気がつかなかったのですが、ほとんどのセミがサクラやケヤキなど落葉広葉樹で鳴いており、マテバシイやヤマモモなどの常緑樹にはいませんでした。これに気がついていたら、子どものころもっとセミ捕りが上手だったかもしれません。

\*\*\*\*\* もくじ \*\*\*\*\*

表題	担当	頁	表題	担当	頁
* 怪しいおじさんのセミ捕り	楠岡 泰	1	* タンポポ調査雑感; ホタル	まことちゃん	11:12
* 学芸員紹介	高田正一	2:3	* エイザンスミレの分布	多胡好武	13
* C展示室 FR コーナー一新	椋島昭紘	4	* 生き物万来; 三つ葉	有田重彦	14:15
* セミ抜け殻観察会	古谷善彦	5	* 山で遭遇する危険(第2回)	勝見政之	16:17
* セコイア(質問・回答)	加固・布谷	6	* キジの卵が九つも!!	京美季男	18
* 気圧とは(質問・回答)	加固・戸田	7	* ボランティアメッセ2005	スタッフ	19
* シロバナタンポポのこと	野洲 ☺	8:10	* 予定表・あとがき		20

## 「質問コーナーでの半日」

工学博士 主任学芸員 芳賀裕樹さん[専門分野:陸水化学]

守山市 高田 正一

学芸員って、博物館で何をしているのか？ 今回は通常の研究活動(講演・論文発表)の紹介ではなく、別の一面を紹介します。

夏休み後半、子供達が自由研究完成に向けて追い込み中のある日の午前中の質問コーナーでの芳賀さんの活躍ぶりを紹介します。

—質問コーナーは図書室の横に常設であります—

特にこの時期は多くの質問が殺到し、即座に答えを出さねばならない上に、自由研究への助言と非常に忙しい。この仕事は専門分野は勿論のこと、その他もろもろのテーマに時間の制約がある中で対応しなければならない。もし、即答出来なければ当然解決法への道筋を指導したり、ネット・本などで調べたりしなければならない。さらに質問事項の答えを担当学芸員に聞き、後日返事をしなければならない。

—仕事をあえて分類すると一番難しい大変な部類に入るとの事—

一般に、初めは何を質問しているのかすら、判らない。話をしている内に少しずつ内容が変わっていき、最後になってやっと相手の目的が判ってくるのが常であるとのこと。

—話の“聞き上手になる”ことが最初の関門であるとのこと。—

10時からなのに9時45分ごろから質問待ちあり

プランクトンをテーマにした自由研究のまとめ方の相談(小5) フォロー作業:  
芳賀さんは

参考図書数冊を選定し まとめ方の基本を指導し テーマの柱を指摘していた。

\* つかみが速い、自分のペースに持って行くのがうまい \*

\* 芳賀さんの頭の回転の速さに感心した \*

その後、この生徒は父親らしい人と図書室でまとめにやっていた。

(小4位)工事現場から拾って来たという直径10cmほどの貝の化石のようなもの正体は？ フォロー:貝の化石が展示してある場所に行き、同じ種類のを捜し出す

流れ星を見たがこの種類は？ 参考図書を探し、子供の目的を聞き出すテクニックの素晴らしさに感心した。子供の目的が徐々に変わって行き再度参考書探しが始まった。結構時間がかかっていた(1時間位) 本の種類をほぼ特定した。

—専門外の話しでも、ある程度知識がないと本の選択が難しいとのこと—

昭和30年代のアイロンの構造について 参考図書を選定

\* 何でも知っているんだなあ \*

午前中だけ4件、昼食後さらに1件(もろこについて一詳細不明)がありました。

質問の処理が終了すると、1件ごとに質問の日時、質問者、事項、回答方法、ペンダングの有無)等の概略をその都度パソコンに記録して行く作業もこなさなくては行けない。

夏休みの後半であったこともあり、次から次えとお客さんが来る。

\* こんなに忙しいとは想像もしていなかった。\*

さらに各学芸員がその都度、自分で一つテーマを設けて、展示室で実演を含むトークを行う催し“フロアトーク”が 11 時から約 30 分間 C 展示室であった。

テーマ決めにも専門分野に固定せず、工夫があるので結構難しいとのこと  
この日のテーマは夏の定番である“プランクトンよもやまばなし・びわ湖の深いところの温度を体験しよう”でした。

観客は 10 組位で時間は 15 分位で実演・説明し、その後質問に答えていた。

- 内容：
1. 500ml メスシリンダ - 琵琶湖の水と水道水を用意し、シャーレ・スポイド・温度計等を用意し手際よくサンプルを作成していた。
  2. 顕微鏡を使って種々のプランクトンを見せる。
  3. 多種のプランクトンを見せて“こんなに多くいるのだ”と印象づけてまず客を自分のペースに引き込んで行く。
  4. プランクトンの種類・特徴から琵琶湖の環境変化まで話をしていた。
  5. “琵琶湖の深い所は非常に冷たくて 7 しかない”という事実を温度計を使って見せていた。

この制度は開館して以来続いており、学芸員 30 人でつきに 1 回くらい回ってくるとの事。

琵琶湖博物館質問コーナーのポリシーは研究活動“一学芸員一芸”とはまったく逆で学芸員は雲の上の存在ではいけない。常に学芸員の顔が見れる状態にしておくこと。

“何んでもやります”だそうです。このコーナーがベースとなり、各学芸員の研究テーマ選択・学校課外授業への協力・地域活動へのアドバイス・“はしかけチーム”の立ち上げ等に発展していくとのこと。博物館に来た人は“学芸員は使うものだ”という意識で利用してほしいとのこと。

質問コーナーを見学しての感想：

学芸員の仕事は専門知識を生かし、将来を見越した大きなテーマをもくもくと研究しているとばかり思っていた。しかし、現実とは全く逆で、\* まずは話し上手 \* 聞き上手 \* こまめに動く \* でないと勤まらない大変な仕事だなあと感じた。

博物館とは展示物の見学や観察会で知識を得る施設だと思っていたが、質問コーナーから出発し、問題解決に繋げて行く方法もあると改めて認識した。

学芸員に質問する時は初めに“質問事項を予め自分の中でしっかりとまとめてからでないと希望する答えは得られない”ことを改めて認識した。

謝辞： 今回の投稿にご協力いただきました芳賀さんに厚くお礼申し上げます。

お忙しい中、2 日間に渡り貴重なお時間をいただきまして、

本当にありがとうございました。

これに懲りず、今後ともお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

## C展示室のフィールドレポーターコーナーを一新しました

FR スタッフ 椋島 昭紘

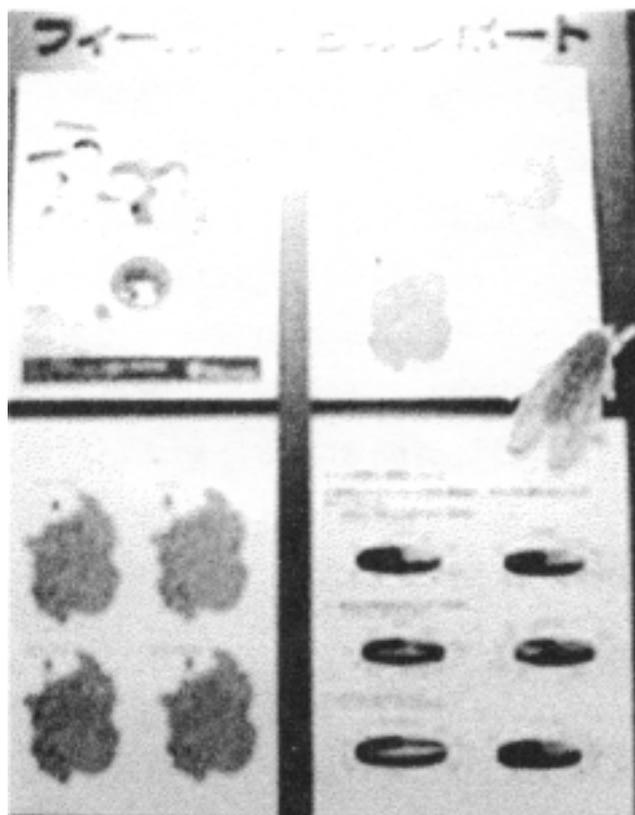
琵琶湖博物館のC展示室フィールドレポーターコーナーが一新されました。

昨年フィールドレポーター担当の楠岡さんからの提案で、毎年行っている調査結果を展示しないのはもったいないということから、昨年から1年に1回更新することになり、今年も8月に更新されました。



— 昨年の調査「庭を訪れたチョウたち」の展示から、昨年の「夏のセミの分布調査」結果に展示が換わりました。

琵琶湖博物館に来られたときは、C展示室のフィールドレポーターコーナーを覗いてみてください。そして感想なり、ご意見を掲示板にご投稿お願いいたします。





「博物館の周りでセミの抜け殻を調べよう」に  
参加した人の中から【ひとこと感想】です  
8月20日(土) 10時~ 生活実験工房周辺

クマゼミの“おへそ”も  
同定のポイントになるのですね  
前田

コエはすれど姿が見えず!  
鳴く姿を見たいと探すのだが、  
葉の影にかくれているのでダメ!

鳴声を録音してやろうと捕虫網に  
ICレコーダーを入れて頭上に掲げた。  
クマゼミが録れた。 津田

セミの音がするが姿は見えず  
見付けて網を近づけるとジー、と  
逃げる。言うは安し、行方はがたし  
森

○ 年ぶりの捕虫網  
なかなか入らず「おしっこ」  
かけられた!! Tago

ニイニゼミはどうして  
泥をかぶって出てくるのな・・・  
高田

抜け殻で種類が分かるなんて  
みんな知ってた～? furuya

表 題 [セコイヤメスギ・セコイヤオスギ'・レバノンシーダーについて]  
投稿日[050501] 名 前 [彦根市 加国 啓英]

表題の樹齢数千年となる樹木をスギボックリから採った種子から育てたく思っています。これらについて調べましたが、それぞれ複数の学名・英名和名があり、最新のものがどれかが解りません。又、レバノンシーダーについてはどのような樹木なのかもほとんど実感できる説明に出会っていません。

- 質問 1 セコイアと呼ばれる樹(2種)の現行の学名・英名・和名を教えてください。  
質問 2 レバノンスギとはどのような樹木ですか？  
質問 3(雑学的で申し訳ありませんが、解りましたら)現在世界一高い樹木(個体)はどこなの  
んと言う樹種で高さは何メートルとされてますか？  
質問 4 かなり古い情報ではセコイヤメスギのかなりの大木が東京のどこかに、レバノンシー  
ダーが新宿御苑や京大の上賀茂試験地で育成していると言われてますが、どこか、  
これらのスギボックリを頂けそうな所を御存じないでしょうか？

\*\*\*\*\*

(ご回答)

セコイアの件など

- 1 セコイアメスギ *Sequoia sempervirens* Endl. Redwood  
セコイアオスギ *Sequoiadendron giganteum* Lindl. Giant Sequoia

普通は二の学名が使われていると思います。

- 2 レバノンスギ *Cedrus Libani* Loud.

ヒマラヤスギの仲間、レバノン、シリア、西アジアなどだけに分布する植物で、現在ではあまり残っていないといわれています。聖書に出てくる樹木で、超高級品として扱われています。

- 3 大きな木

以前に私が調べたデータでは

- オーストラリアのユーカリの仲間 153メートル  
アメリカのセコイアオスギ 124メートル

というのがありました。日本では68メートルのスギでした。

- 4 セコイアメスギもレバノンシーダーもそれほど珍しい樹木ではないと思います。セコイアメスギは東京ではいくつかの公園に得られています。関西では京大上賀茂試験地にありました。六甲の森林植物園でも見たように思います。レバノンスギの新宿御苑というのは良く聞きます。どういう状態であるかは知りません。  
5 種子はできていれば、落ちてきていますので、手に入るとは思いますが如何でしょう。とりあえずそういう管理をしていないように見える六甲森林植物園はいかがでしょうか。  
6 レバノンシーダーは、以前に現地に行ってきたという人経由でタネをいただいたことがあります。ヒマラヤスギと同じような種子でした。

(布谷)

## 彦根市 加固啓英さんからの質問

1atm(1気圧)を1013.25hPa(ヘクトパスカル)と決めた根拠は？

\*\*\*\*\*

### 戸田主任学芸員からのご返事

実は、Pa(パスカル)よりも atmの方が先に決まっていた単位なのです。ですから、簡単に答えてしまえば「旧来の atm を Pa を基準に測定してみると 1013.25hPa だったので、それを atm の新たな定義にした」ということになります。

単位を「共通のものさし」にするのは大変な作業です。歴史的には、例えば同じく「尺」と呼ばれる単位でも、あるいは同じく「フィート」と呼ばれる単位でも、地域や用途によって少しずつ違っていったことの方が多いのです。それを何とか統一しようという動きが何度も繰り返されていますが、なかなか長続きしません。最近になって、ようやくどうにかかなりつつあるのが、メートル法の発展形である SI(国際単位系)です。

「共通のものさし」を実現するには「安定した基準」が必要です。古くは王様の腕の長さを基準にするなどということが行われたのですが、そんなものは変化しますし、王様が崩御したら基準が無くなってしまいます。SIの基本である「メートル」でさえ、これまでに基準が3回変更されています。これは「計測困難な基準」「変化し得る基準」「無くなってしまうおそれのある基準」を可能な限り避けようとしたからです。

なお、基準を変更する時は、変更による支障が無いようにするため、その時々々の測定技術の限りを尽くして、変更前後の基準が同じになるようにします。ですから、変更後の基準には妙に中途半端な数字が頻繁に出てきます。例えば、メートルの現行の定義は「光が真空中を1秒間に進む距離の 299792458 分の1」というものです。

話を気圧に戻すと、atm という単位は元々「標準重力下で水銀柱 760mm に相当する気圧」と定義されていました。しかし、この定義には「標準重力」の値や水銀の物性(純度や同位体比など)に依存するという不安定さがあります。そこで、「水銀」というのをやめて「密度 13595.10kg/m<sup>3</sup> の液体」に変えたりしたのですが、それよりは「力と面積」から直接定義した圧力の単位である「Pa」を基本にした方が良いということで、現在の定義に変更されたわけです。ちなみに、hPa(ヘクトパスカル=100パスカル)のことを最近まで mbar(ミリバール=1000分の1バール)と呼んでいました。bar(バール)というのは、メートル法で自然に定義される(後に Pa と呼ばれるようになる)圧力単位の 10 倍・100 倍・1000 倍……の中から、1気圧に近い値になるものを選んで決めた単位です。その方が実用的に便利だという判断だったのでしょうが、そういう小細工は単位系全体を見渡した時に好ましくないということで、やめていくことになったのです。

単位に関する一般向けの書籍としては

小泉袈裟勝「単位のおはなし」日本規格協会 ISBN4-542-90111-4 が定評があるようです。著者は故人ですが、逝去後にも最近の状況を反映させた改訂版 (ISBN4-542-90251-X) が出版されています。小泉氏は単位に関する歴史的なエピソードを集めた読み物も多く残しています。他に、

日常風景に絡めた小説風の解説として、清水義範「単位物語」朝日新聞社 ISBN4-02-256354-0 がありますが、文庫版(講談社文庫 ISBN4-06-185821-1)共々既に出版されていません。

草津近辺の図書館の Web ページで蔵書検索をしてみると全館にありましたので、興味のある方は借りて読まれてみては如何でしょうか。以上

## 表題【シロバナタンポポのこと】

投稿日【050515】

名前 野洲市



この春はシロバナタンポポを観察できなかったもので、どうかなと思ったのですが、2003年2月から2004年4月までシロバナタンポポはいつ咲くのかと見ていたことがあります。いつもよく咲いている6箇所の観察地へ月2回出かけ、開花している株数やその小花の数、タネの有無、花の大きさや花粉のようすなど思いつくままの観察をしていました。観察地は群落の大小、人為のかかわりや自然の条件などに違いがあり、6箇所を総合したものです。

### 花を見た日

シロバナタンポポは、一年に2回開花の最盛期がありました。春は3月下旬から4月中旬、秋は11月中旬から下旬にかけて。春、開花した所では秋にも開花があります。開花は春、秋ともに草刈が行われていることが条件のようです。春と同じくらいの花を咲かせている観察地が一箇所、あとは春より少し少ないようです。観察地以外で春に開花したところでも、秋に草丈が長いところでは花は見られませんでした。

1月、2月は4,5株の開花。3月に入ると少しずつ開花数が増え、3月下旬に一斉に咲き出し4月はどこも多くの開花があります。5月、6月は開花数が少なくなり7,8株の開花。7月15日は2箇所の観察地で2,3株のみの開花でした。もし春の開花の終わりがあるとすればこの頃でしょうか。8月10日は6箇所のどこも開花はありませんでした。8月下旬に2箇所で2株の開花があり9月、10月に入ると少しずつ開花数が増え、11月に2度目の開花のピークがあります。12月中旬から開花数は少なくなります。

7月、8月の開花数は少ないが、月別で開花数の多少を問わないならば、シロバナタンポポは一年中どこかで開花しているようです。

### 花は白一色、それとも黄色の部分がまじる？

白い花に黄色の花弁が混じっているものはまだ見ていません。頭花の中心部が黄色く見えるものがありますが、春と秋の花粉の量が多い花は特に黄色く見えるのかなと思っています。2月、3月の花は的礫とした白さがないように思うのは日差しが弱いためでしょうか。

### 花の直径は何センチ？

頭花の大きさは、はかりませんでした。春の開花最盛期の花はどこの観察地でも大きく、ふっくらしていて同じ大きさの花がそろっていました。それ以外の花は生育地や観察月により大きい、小さいがありました。

花粉はある？

最盛期の花はどの花も花粉がたくさんありましたが、それ以外の花のすべてに花粉があったかどうかはわかりません。

総ほう外片の向きは？

総ほう外片は上向きで、タンポポ調査の2が大半でした。3かなと思われるものもあり、外片が下を向くものはまだ見ていません。総ほう内片、外片とも角状突起がありました。特に外片の角状突起は大きくて、旗を振っているように見えるので、私流にフラッグと名づけて数えていたのでよく覚えています。

一年を通じて見ていると興味深いことがいくつかありました。

日傘のなかのタンポポ

6月の晴れた日、12時ごろ。あまり日差しが強いので日傘をさしてタンポポと向き合っていると、10分過ぎたころから花弁が動き出し、ほんの少しずつ内側へ閉じ、40分で完全に閉じてしまいました。日陰をつくってしまったことが原因のようだが、それを見ながらタンポポの花のどこで、何がおこっているのだらうと、ずっと疑問に思っていました。最近手にした本から植物ホルモンが関与していると知りましたが、まだよく理解できていません。

レモン色のタンポポ

2003年12月、シロバナばかりの群落にキバナが一株咲いていました。同じ株からシロバナとキバナが咲いているのかと思われるくらいくっついていきます。総ほう外片は調査の2、大きな角状突起があり、タネの色も大きさもシロバナタンポポそっくりだけど、レモン色の花を咲かせていました。雑種でしょうか。(少し離れた所にアカミタンポポとシロバナの混在地があります。)

花茎の長いタンポポ

以前、掲示板で加図様が花茎の長いタンポポのことを書かれていましたが、同じ頃の7月に50cmくらいに伸びたシロバナタンポポを見ました。ワタゲは曲がりながら70センチ伸びたその先にフワフワしていました。

京都伏見区のタンポポ

2003年4月19日、JRふじのもり駅近くの住宅街。舗装してない道路にシロバナ1、カンサイ2、外来種7くらいの割合で開花しているタンポポを見ました。その付近でそれぞれが別々に開花しているのは知っていたのですが、三者が開花しているところに出会えた嬉しさに、近所の方にお尋ねしたところ、「タネが飛んできたのでしょうか、いつの間にかこんなふうになっているのですよ、タンポポって丈の長いものと、短いものがあるのですね」とおっしゃっていました。シロもタンポポだと申し上げると驚いておられ、そこは三軒分の私道だということでした。11月シロバナタンポポと外来種は開花していました。4月の第三週になると、今年も

咲いているだろうかと思ひ出します。

難に嫌われた？

シロバナタンポポを訪ずれる昆虫は少なく、小さいヒラタアブを二度見ただけでした。一度スジグロチョウかモンシロチョウがとまりそうになりながら、「おっと、まちがえた」というふうに舞あがったのを見ました。昆虫にとってシロバナタンポポは魅力ないのでしょうか、単為生殖と関係あるのかな？

うれしかったこと

まだシロバナタンポポの花が何日間開花するのか知らなかったころ、農道で数株の花にしるしを付けて観察していました。数日間は草刈がされませんようにと願っていました。三日後のこと、しるしを付けているタンポポに目をとめてくださった農家の方が、農作業に障りのあった一株をしるしごと移植して置いてくださいました。お出合いしたことは無いのですが、とってもあったかい空気に包まれました。

シロバナタンポポは一年に2回開花最盛期があり、どの頭花にも多くのタネを実らせています。生育地も農道や田んぼの畦、道ばたや駐車場。鉄道線路の脇にも大きな群落で開花しているかと思えば、人家のブロック塀のすき間にもひっそりと花を咲かせています。人のそばでそれぞれの環境に適応しながら花を咲かせ、私たちを楽しませてくれます。



## 表 題 【タンポポ調査雑感】

投稿日 【050628】

名 前 【野洲市 まことちゃん】

今回のタンポポ調査は、3年前に力を入れ過ぎたせいか気が乗らなかった。と言うのは、前回の調査ポイントは、毎日の仕事での移動ルート 犬の散歩ルート 登山時のルートの3点で、調査のためのポイント選びをしなかったのがその理由だ。 標本を採取しても帰宅するまでにはしおれてしまい、押し花にもできない状態になってしまうのも、もう一つの理由である。 調査開始当初のころはどこでも見られたが、前回と同じポイントを調査しても意味がないと思い、結局何もしないに等しかった。 5月29日のFR交流会に参加して考えを新たにし、翌日 のルートの安土城趾前を通りびっくりした。タンポポの群生はきれいに刈り取られてしまっていた。『南無三宝』。メロスの心境だった。そこから能登川消防署までの間は時期が終わり、一本も見ることができなかった。結局勤務先の敷地内1力所でしかも一日遅れてしまった。反省。

5月8日に多賀町から霊仙山へ西南尾根ルートで登った。前述の である。このルートで思わぬ発見をした。笹峠から最高点までの間に4力所の小さな集団を見た。そのいずれもが外来種ではなかった。すなわち関西タンポポと思われた。1本採取したが、帰宅までの数時間で、見るも無残な姿になってしまった。前回の調査でケース でも外来種しか見られなかったから驚きだった。種をつけているものは見られなかったから種も採取できなかった。つまり話だけで調査になっていない。今後のためにも花の採取直後の処理方法を教えていただきたい。未熟なFRで恥ずかしい限りです。



## 表 題 【ホタルその後】

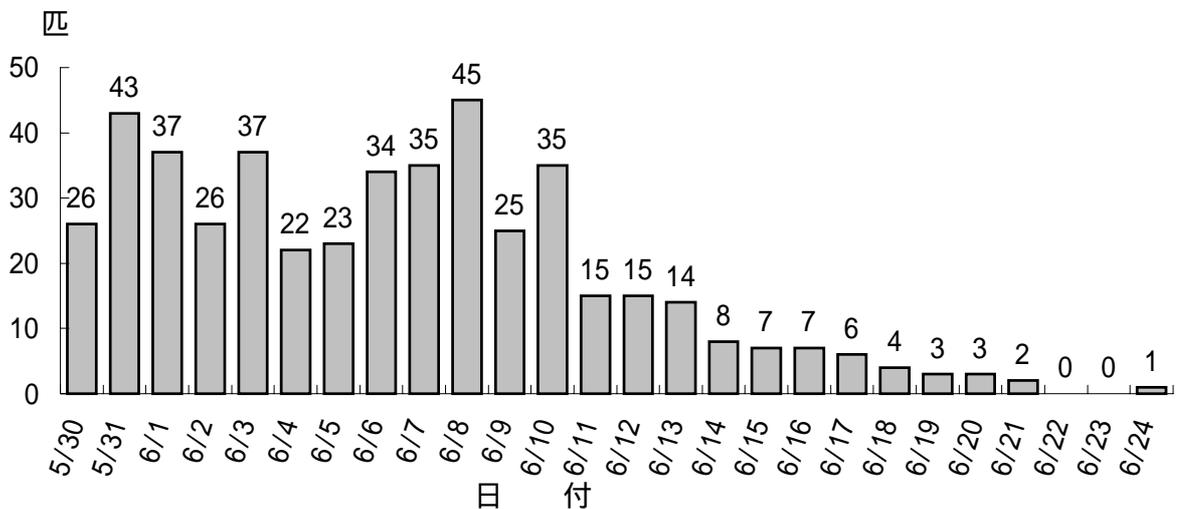
投稿日 【050628】

名 前 【野洲市 まことちゃん】

先日手書きで投稿したため、どこまで書いたのか分からなくなった。5月29日までは書いたはずなので、30日から書く事にする。調査時刻は基本的に夜9時から10時の間とした。グラフにした方がよいと思うが、無知依ためワープロを使いこなせないのです。

5/30 26、5/31 43、6/1 37、6/2(雨上がり) 26、6/3 37、6/4(雨) 22、6/5(11:00) 23、6/6 34、6/7 35、6/8 45、6/9(11:00) 24、6/10 35、6/11 15、6/12 15、6/13 14、6/14 8、6/15 7、6/16 7、6/17 6、6/18 4、6/19 3、6/20 3、6/21 2、6/22 0、6/23 0、6/24 1、以後見られず。

6/18以後は点滅も大変ゆっくりになり、飛び交うこともなくなった。5/23に5匹でスタートしたが、10匹を割り込むまでやはり3週間だった。のところ6/11以後は数えるのに苦労した。と言うのは、わたしが行ってしばらくしてから点滅を開始するのが多くなり、何度も数え直しが必要になったためだ。またライトで照らすとその後点滅が強くなる事も分かった。時刻を9時から10時としたのは、その間が一番多く見られるからだ。早すぎても遅すぎても数は少ない。雨の影響は、容易に推察できる。来年も調べてみるつもりだ。



(グラフは投稿頂いたデータをもとに、  
スタッフで作成させて頂きました。)



## 表 題 〔エイザンスミレの分布調査〕

投稿日 〔050619〕

名前 〔大津市 多胡 好武〕

調査地メッシュマップ 5235-46-86,87

滋賀県レッドデータブックではCランクの希少種に位置づけされている「エイザンスミレ」の分布調査をもっとも多く自生していると思われる延暦寺西塔を中心に実施した。

まず植物の種類が豊富といわれる瑠璃堂境界であるが「ミヤマキケマン」<sup>1</sup>、「ヤマルリソウ」<sup>2</sup>、「ジロボウエンゴサク」など可憐な花がみられたが「エイザンスミレ」の影は見当たらず。「釈迦堂」の近く「にない堂」には「タチツボスミレ」や「エイザンカタバミ」などの群落を確認できた。なお「エイザンカタバミ」は坂本からの登山道本坂 で数多くの群落を確認した。

さて「エイザンスミレ」であるが群落とまではいえないが割合まとまって確認できたのが釈迦堂の裏から相輪塔に向かう細い道の両側、それに居士林の奥、学生寮玄関前庭のこけの中などに多数の株が見られた。学生寮前庭は管理されている株で、中には写真のような立派な株に多くの花をつけているものがあった。その他でも少しではあるが確認できた。比叡山自然教室で確認したがやはり数多くは見られないとのことで、花期は過ぎたが他の谷の分布動向についても今後調査を行い、希少種が絶滅危惧種に位置づけされないよう、山のあちこちで普通に見られる可憐な山野草の一つであるよう、種がとれたら知人などにも増やす手伝いを依頼していきたい。



学生寮の前に咲いていた満開のエイザンスミレ

自然に親しみ、山野草に親しむことは素晴らしいことですが家に持ち帰る心無い人もおり高山植物を含め希少種がドンドン減っています。

大きなことは言えないが、我々はそれに少しでもブレーキをかけられるような活動もしていきたいと思う。

## 三つの 葉物語 その後

投稿日 『050806』

「大津市日吉台 有田 重彦」

我が家の庭に育つ三つの OO 葉について、昨年秋の状況を報告させていただきましたが、それから 10 ヶ月、その後の成長の様子をまとめてみました。

### (1)一つ葉

三上山から移植して 3 年余、昨秋で葉の数が 26 枚になっていたのが、今年 3 月、直径 25 センチの鉢に小石とともに植え替えたところ、根茎が伸びて新葉が続々、5 月時点で 49 枚に殖え、7 月末から更に増えて 68 枚、写真のように堂々たる鉢物に成長しました。比叡山横川を源流とし、日吉大社横を流れる大宮川から、珪藻採取のために取ってきた小石がぴったりようで、これだったら盆栽として一人前の売り物になるとほくそえんでいるところです。

### (2)明日葉

10 センチほどの苗が秋には 30 センチ弱、一年で 1 メートルほどに成長しています。この春にアゲハ蝶が卵を産みつけたので、いつのまにか模様の幼虫が写真のように葉っぱの上に我が物顔でした。

別の葉の上にはまだ小さい黒い幼虫が全部で 5 匹もいました。明日葉はセリ科の植物ですから、セリ科の植物を食草としているキアゲハと思いますが、その後、鳥にでも食べられたのか忽然といなくなりました。

新芽は長さ 10 センチほどのときに切り取り、衣をつけた天麩羅にしましたが、それほどの癖もなく食べられました。大きくなった葉や茎も食べられるそうですが、近江八幡では之を混ぜた麩を作っていると聞きました。目や茎を切ると黄色い汁が出てあくが強そうで、薬草という感じです。名前の由来である切ったあとに出てくる新芽を待ちましたが、明日は駄目で 3～4 日経って少し顔を出すという次第でした。

8 月に入って新芽を包んだような袋ができ始め、やがて袋が裂けえつぼみ、花が現れました。写真のように白い小さい花で、広辞苑の説明「散形花序の白い小花を密生」がぴったりです。私はセリ科のパセリの花に似てると思いました。

### (3)三つ葉

自生の三つ葉が明日葉から 2 メートルほど離れて密集しているのですが、明日葉にキアゲハの幼虫が見つかったから 1 月ほど後、今度は花芽を付けだした伸びた三つ葉の上にキアゲハの幼虫が見られました。同じセリ科の 2 種類の食草のどちらを選ぶかという点からは、好みなしということになります。

ところで 100 本ほどの密生している三つ葉の茎に、本来の緑色に対して赤茶系のものが半数近くあることに気づきました。里芋の茎の色にも緑色系と赤茶色系のものがありますが、この場合は種類が違うようです。

話のエピローグとして、前回「三つ」にまつわることを書き、大作曲家プロコヒエフの作品に三つの日本の歌曲というものがあって、歌詞の出所が万葉集と古今和歌集だという驚きで話を閉じましたが、その詳細が分かりました。ロシアの共産革命を避けるためアメリカに亡命する途中、日本に滞在して、不協和音をふんだんに使った第二交曲の構想を練ったりしたそうなので、なるほどありうることだと納得です。なお、日本滞在の印象から第二が出来たのではなく、故国の赤色革命に対する強い思いが不協和音の第二になったのでしょうか。なお、フランスには万葉集と古今和歌集のフランス語訳があるそうです。



## 生き物万来

投稿日「050812」

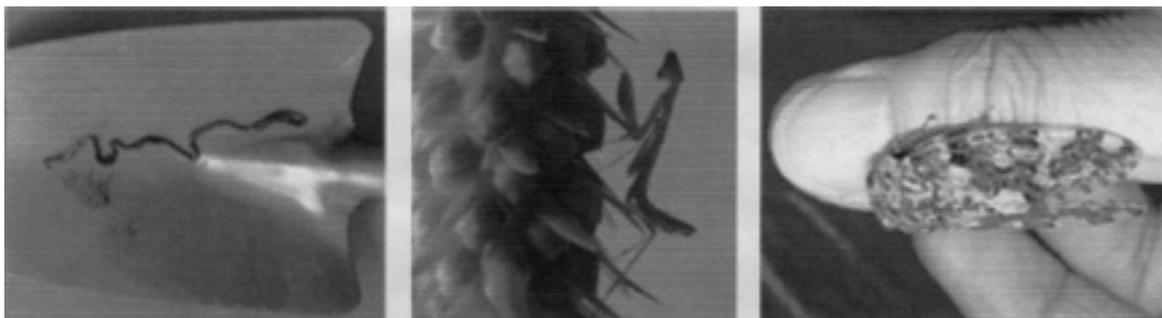
「大津市日吉台 有田 重彦」

7月14日未明、大津は1時間58ミリという豪雨に見舞われました。激しい雨音で寝入りばなを起こされた方(宵っ張りの方)、あるいは夢うつつに覚えているという方(早寝健康形の方)も居られたことでしょうか、その朝起きていつものようにベランダに出て比叡山に挨拶しようとする、小さいニイニイ蝉がコンクリートの床の上に転がっているではありませんか。手にとると、写真のように私の親指の上でじっとしています。飛べる状態ではないのになぜここにいるのでしょうか。未明の豪雨による水攻めで慌てて地中から抜け出し、羽化して飛び出したけど力尽きて...、あるいは木にとまって眠っていたのに豪雨でたたき出されて屋根のあるベランダにたどり着いたのか、話してくれないので分かりません。葡萄の葉の上に置いてもじっとしていましたが、2時間後にはもういませんでした。家の向かいの公園では、今年は蝉の鳴き声が一向に聞こえない、少し遅いなと思っていましたが、この日から鳴き始めたような気がします。

朝食後、雨に叩かれた庭の見回りをしてしていると、花嫁の持つ霞草風情のアスパラガスの小枝(白い花はまだですが)の上にいるカマキリに初見参です。オオカマキリの飼育経験から3齢幼虫程度ですが、尻尾を可愛らしく突き上げているのと鎌の幅が広いことから、ハラビロカマキリかと思われ。わが家の庭には、朝鮮カマキリが貝塚伊吹の生垣の中に住み着いていますが、ハラビロもいたのかと予想外です。25ミリほどの直径のパイナップルリリーに止まらせてヤラセの写真を撮りました。

これが終わって勝手口から家に入ろうとすると、乾いたコンクリートの上になんと、ミスジコウガイビルがとぐろを巻いているではありませんか。一寸ほぐしてスコップに乗せてみると写真のとうりで、体長は15センチくらいの小ぶりでした。未明の豪雨でこんなところに来て甲羅干しとは考えられないことです。ナメクジの通った跡のような粘膜の痕跡があれば、どこからやってきたか絶好の鑑識班の課題ですが。

以上、未明の豪雨のあった朝、珍しく三つの生き物に出会った話です。雨との関係は定かではありませんが、千客万来、生き物万来、また楽しからずや(漢字はエキラクサイと読めます)です。



## 山で遭遇する危険な動物

(クマ・スズメバチ・マムシ・ヤマカガシ・ヒルに関する調査・報告)

(第2回) クマ(ツキノワグマ)について(その1)

日本には、北海道にヒグマ、本州、四国、九州にツキノワグマが生息しています(引用文献 )。

引用文献 によりますと、ヒグマの方が獰猛で、1996年、極東ロシアの更に遠隔の地カムチャッカ半島の南端で、著者 S.ヘレロ氏にとって世界最高の写真家だった「星野道夫」氏がヒグマに殺されたとのこと。

また、1970年、北海道の日高山脈で、登山中の福岡大学の学生3人が死亡した事件が有名です(引用文献 )。

しかし、ヒグマは北海道にしか生息していないで、以下、「クマ」という言葉はツキノワグマに限定して使用します。

私は、若い時はグループで、登山道がよく整備されている北アノレプスなどの高山に登っていましたが、クマのことはそれほど気にしていませんでした。女性がクマに顔をひっかかれて、重傷を負ったなどの新聞記事を読み、クマは恐ろしいと漠然と思っていた程度でした。

山登りを再開してからは、高度が400m位の低い里山から1,377mの伊吹山など、主に県内の山に登っています。しかし、里山では登山道の直ぐ両側に草木が迫っていて、特にガス(霧)が出ている時は、いつクマが出て来てもおかしくはない状況で、クマ出没の恐怖に怯えながら歩いています。

このように山に行く時は常にクマの出没の危険と背中合わせなので、クマと出会わないためにはどうすればよいのかと、いろいろ考えていました。去年の5月に尾瀬に行った時に、掲示板にクマに関する情報(引用文献 )が記載されていたので、写真に撮りました。もっと早くクマの本を読んでいればよかったのですが、これが初めて得たクマに関する情報でした。

私も含めて、山(クマ)に興味のある人に限られると思いますが、もしご参考になれば嬉しいとの観点から、全文を引用しました。公開されている掲示板なので、著作権法上の問題は発生しないと信じています。以下、『...』内は完全な引用文です。

『(クマと出会わないために)

クマに自分の存在を知らせよう。

- ・クマは視力が弱く、臭覚・聴覚に頼って行動している
- ・大型で行動は鈍そうであるが、人より早く走ることができる。
- ・クマは人の気配を感じるとクマの方が先に逃げたり避けたりするなどして、出会うのを避けるのが普通である。
- ・なるべく早く自分の存在をクマに知らせることが、クマに出会わないための第一歩である。



朝夕の薄暗い時間帯は、クマの採食活動が盛んである。採食中のクマは餌に夢中になっていて、人の気配に気付かないことがある。尾瀬では5～9時と16時～19時の間で、目撃例が多くなっている。

霧が出ている時や川沿い、山裾(山際)も、クマの注意が散漫になっていて、人の気配に気付かない恐れがあるので、要注意。

子グマには特に注意 子グマを守る親グマは命がけ

・ あなたには見えなくても、子グマの近くには親グマがいる。子グマを守ろうとする親グマは、あなたを襲うことがある。』

『(クマと出会ってしまったら)

クマも驚いている。トラブルに発展しないために、冷静に行動しよう。

慌てない

・ 距離が離れていて(遠くにいるだけなら)、心配はいらない。ゆっくりその場から遠ざかろう。  
・ 近くにいる場合は、クマの動きを見ながらゆっくり後退しよう。

騒がない

・ クマを刺激しない。大きな声を出さない。石や棒きれを投げない。クマを興奮させるだけである。写真撮影をしない。特にストロボの光は刺激になる。

威嚇行動には注意する。前進と後退を繰り返して、威嚇することがある。

そっと下がる 距離はお互いの興奮を静めることになる。

走って逃げない。

・ クマは逃げるものを追いかける習性がある。あなたよりずっと早く走れる。』

また、湖北の蛇谷ヶ峰に行った帰りに立ち寄った、県立朽木生物ふれあいの里センターの展示室には、ツキノワグマの剥製と、『滋賀県におけるツキノワグマの主な生息地域は湖北地方・湖西地方・鈴鹿山系である。...クマの爪は極めて危険である。ネコのように引っ込めることができないので、足跡には爪の跡も残る。』と記載された案内板が、展示されていた(引用文献 )。

上の写真は、ツキノワグマの剥製をフラッシュ撮影したもめです。やや小型のクマで、意外に優しそうな目と顔をしていましたが、手と足の爪が鋭いのには驚きました。子供が小さかった頃に、動物園に連れて行ってクマを見ましたが、このような観点でクマの爪を見たのは初めてです。この爪で、頭や顔、首(頸動脈)をやられたら、一溜まりもないだろうと思いました。

引用文献 によりますと、『クマによる死者は年間1人以下で、スズメバチによる死者の方が圧倒的に多い(年間40～50人)』そうです。引用文献 ～ 、 によりますと、クマに出会わないためには、鈴やラジオなどを鳴らし、クマに自分の存在を知らせておくのが一番いいようです。

私は、クマに自分の存在を知らせるために、1,000円ほどで買った鈴を「チリンチリン」と鳴らすのと、息子が少年サッカーをしていた頃に使用していたレフェリー(審判)用の笛を、時々「ピピッピーー」と吹き鳴らしています。でも、クマに出会ったら冷静な行動が取れるかどうか、自信がありません。

ツキノワグマは、ヒグマよりは小さくて、臆病で温厚な動物だそうです。やはりクマに出会うのが恐ろしく、山に行く前は身震いがする思いがします。(次回に続き)

(注:引用文献は前号掲示板の第1回を参照願います。)

表 題【 キジの 卵が 九つも!! 】

投稿日【050706】お名前【甲賀(市)町村 京美季男】

自宅から15mほど南のジャガイモ畑に、キジが卵を9個も産んでいました。6月21日の晴れた日では、土を皿形に凹ませて、ピンポン玉よりやや大き目の卵を写真にとり、比較のため、腕時計を傍に置きました。その頃、ペアのキジが茶畑の向を歩いているのをよく見かけました。こんなに近くに巣があるとは思いませんでした。周囲のジャガイモは所有者によって、掘り取られ、親キジは戻って来ませんでした。キジは、ヒナの時、人に育てられて、狩猟用に放鳥されたらしく

人家の近くの方が安全と考えたようです。



ボランティアメッセ2005

# 萩まちじゅう博物館に集う、にほんじゅうの博物館

## ■ にほんじゅうの博物館が萩に大集合

江戸時代の町割りが今もそのまま残り、その当時の地図が使えるまち、萩。世界にも誇りうる都市遺産が当時の姿で残るまち、萩。そんなまちじゅうが博物館ととらえられる萩のまちにおいて、文化財施設などを展示場にしたボランティアメッセ2005に、にほんじゅうの博物館とそれを支えるボランティアが大集合し、情報交換を行うと共に交流を深めます。

## ■ ボランティアメッセとは・・・

全国のミュージアムボランティアがその活動を紹介しあい、交流を深めることを目的として2002年「兵庫県立人と自然の博物館」で初めて開催されてから、2003年「江戸東京博物館」、2004年「日本科学未来館」で開催されました。2005年は、山口県萩市において開催されます。

## ■ 参加団体募集

当実行委員会では、ボランティアメッセ2005に出展される団体を広く募集しております。

※出展申込期限：平成17年7月31日まで

開催日 **2005年10月8日(土)～10日(祝)**

8日 前夜祭(フォーラム・交流会)

9日 ボランティアメッセ2005

10日 萩まちじゅう博物館ツアー「萩再発見」

開催主会場 **萩博物館を中心にした萩城下町**

主催：ボランティアメッセ2005「にほんじゅう博物館」実行委員会

お問い合わせ：ボランティアメッセ2005「にほんじゅう博物館」事務局 0835-25-6447

TEL：0835-25-6447 FAX：0835-25-3148

TEL：0835-25-6447 FAX：0835-25-3148

E-Mail: [info@volunteer-messe.jp](mailto:info@volunteer-messe.jp)

URL: [http://www.volunteer-messe.jp/05/05\\_hiroshima.html](http://www.volunteer-messe.jp/05/05_hiroshima.html)



## フィールド・レポーター10月・11月・12月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。  
 なお、稀に予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
10月01日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
10月8日(土)～10日(祝)	ボランティアメッセ2005	山口県萩市
10月15日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
11月05日(土)10:00～17:00	定例会	博物館交流室
11月19日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
12月03日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室

(おこわり;上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

### 〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

セミの抜け殻探しで、野山を歩いていてキョロキョロと、この夏も楽しく過ごすことができました。そして、ヒグラシやミンミンゼミたちが里山で最後の力をふりしぼって、恋人を探していますが野にはもう秋の花が咲いてきました。

ひぐらしの鳴きぬる時は女郎花咲きたる野辺をゆきつつ見べし(秦忌寸八千嶋)

万葉集から。

前号に紙面の都合で掲載できなかったご投稿の分を少し時間が経ってしまいましたが掲載させていただきました。本当に申し訳ございません。これからもご投稿お待ちしております。

(担当 FRS 椋島 昭紘)



# 掲示板

2005年度 第4号 通巻第38号(11月)



## マイクロ生物館を訪れて

フィールドレポーター担当 楠岡 泰

10月8日～10日山口県萩市で開かれたボランティアメッセ2005にレポータースタッフ有志の皆様と一緒に参加してきました。昨年の東京の科学未来館でのボランティアメッセは若いボランティアのパワーに圧倒されましたが、今年は町ぐるみでボランティアメッセに取り組む姿勢に驚かされました。ボランティアメッセについては参加した他のスタッフの方からも報告があると思いますので、私は帰りに立ち寄った山口県由宇町のマイクロ生物館について書かせていただきます。

由宇町立マイクロ生物館は今年7月にオープンしたばかりの小さな展示館です。みなとオアシスゆう(道の駅の港版)の片隅にあり、すべてを合わせても琵琶湖博物館の実習室程度の面積しかありません。それでも世界初の原生動物水族館をキャッチフレーズにしております。職員は大学院を出たばかりの若い二人しかおらず、いろいろ試行錯誤をなさっておられます。琵琶湖博物館はプランクトンを展示している数少ない博物館であり、私が原生動物の研究をしている関係で、お二人はオープン前から琵琶湖博物館に相談にいられておりました。

今回は琵琶湖博物館のフィールドレポーターや「はしかけ」について知ってもらおうと思い、レポータースタッフの皆さんと、はしかけの「びわたん(琵琶湖博物館わくわく探検隊?)」と一緒に邪魔しました。びわたんが行っているプランクトンの模型作りのプログラムを紹介するとお伝えしたところ、由宇町の子どもたちに声をかけてくださり、本格的なイベントになりました。子どもたちはすでに何回かプランクトンの観察をしているベテランばかりで、飲み込みもよく、すぐに立派な作品を作ってくれました。マイクロ生物館では、これからボランティア的組織を立ち上げようとしており、レポータースタッフの皆さんやはしかけさんとの話し合いはとても参考になったとおっしゃっていただけました。これからも、小さいながらもがんばっておられるマイクロ生物館を応援できたらと思います。皆さんも山口に行かれたら、是非立ち寄ってみてください。



樹脂を暖めるレポータースタッフ

## \*\*\*\*\* もくじ \*\*\*\*\*

表題	担当	頁	表題	担当	頁
* ミクロ生物館を訪ねて	楠岡 泰	1	* アメリカセンダングサ薬効	加固啓英	11
* 学芸員紹介	多胡好武	2:3	* テントウ虫の越冬	森 擴之	12
* 萩ボランティアメッセに参加	津田國史	4:5	* セミ調査雑感	まことちゃん	13:14
* フィールドレポーターブース展示	前田雅子	6	* セミの兄弟	前田雅子	15
* 萩ボランティアメッセに参加	山崎千晶	7:8	* 山で遭遇する危険な動物	勝見政之	16:17
* 山口県を瀬戸内日本海	津田國史	9:10	* 超簡単、物理法則	加固啓英	18
* 金魚の稚魚	京美季男	11	* パワフル交流市民日・予定表	椋島昭紘	19:20

## 「水で判定、この山健康？」

草加 伸吾さん 生態系研究領域(森林生態学専攻) 主任学芸員  
大津市 多胡 好武

おいしい水はどこから生まれるか？ 皆さん知りたくないですか  
そんな研究をされている草加さんの研究室を訪ね、お話を伺いました。

### - プロフィール -

和歌山、新宮に育ち熊野川のおいしい水で育った草加さんは、生涯水にこだわった人生を歩むこととなる。

静岡大理学部では当初(水質)化学を専攻するも、森林や山の自然に興味があり、生物学科にくら替え、おいしい天然水を豊富に生み出す山の植物分布を研究するために、南アルプスや寸又峡を中心に植生調査、植物相調査を行う。

その後、広島大では江田島の山火事後の水や栄養塩類などの循環とその影響を調査。

大阪市大では交野の市大植物園内の研究室で、また、貴重な原生林の残る奈良春日山地域では森林植生の違いが水質調節にどのように影響するかなどの研究を手がける。

琵琶湖博物館には開設準備室主査として当初より参加、当時朽木の「朝日の森」に研究フィールドを見つけ、森の樹木の生長や伐採が、環境に関与する変遷を、多様な試験地を設定し、様々な面から検証、調査活動をおこなっている。



-ロータリーの食堂で山の話に花が咲く-

普段の定期的な調査に加え、特に台風の前後は大忙し。水量の大きく変動する時こそが試験地の水質の変化を対比し、適格に判定できるからの事で、昼夜を問わず朽木の森へ

### - 健康な山・病んだ山 -

ところで私たちが知っている山の「おいしい水」とはどんな所で出会えますか？

そう、ブナの原生林など落ち葉が堆積し、腐葉土層に保水された水が濾過され1年を通じ溜められることなく流れ出ている冷たい水。・・・登山で疲れた時など本当においしいいただきます。

〈草加さんの説明...土壌生物による落葉の分解と岩石の風化によって作られた粘土 - 腐植複合体と呼ばれるコロイドがあり、雨水など酸性イオンを含む水がコロイドを通過する時中和され、ミネラルイオンと交換され、ろ過され冷やされておいしい水となる。〉

このような水が流れ出す山は「健康な山」といえるでしょう。

反面、近くは湖南アルプスで有名な田上山山系、奈良平城京造営のため大量の木材が伐採されたと聞きますが、長年地肌むき出しのハゲ山です。

植林されて数十年たっても水を保水できる土の層はほんのわずか、大雨が降れば一気に流れてしまいます。地下水でないと、とうてい「おいしい水」は望めません。こういう山が「病んだ山」といえるのでしょうか。

厚生省おいしい水研究会による「おいしい水の要件」 (1985年)

水質項目	測定値	適用
水温	20 以下	冷やすことにより、おいしく感じる。冷やしすぎると旨味がわからなくなる。
残留塩素	0.4mg/l以下	殺菌するため水道水等に含まれ、カルキ臭を持つ。濃度が高いとまずく感じる。
硬度	10～100mg/l	ミネラルのなかのカルシウム、マグネシウムの含有量。硬度が低いとくせがない
蒸発残留物	30～200mg/l	水を蒸発させた残り。適度に含まれるとこくのあるまろやかな味がする。
過マンガンサン カリウム消費量	3 mg/l 以下	有機物量を表し、多いと水の汚れを示す。
遊離炭酸	3～30mg/l	水に溶けている炭酸ガス。水に爽やかな味を与えるが、多いと刺激が強くなる。
臭気度	3 以下	いろいろな臭いが水につくと、不快感から水がまずくなる。

(「琵琶湖の水は森から生まれる」...草加さんの記事から)

草加さんの研究はこの「おいしい水」の発生メカニズムを守りながら山林の有効活用を行い、なおかつ後世まで「おいしい水」を残すにはどうすべきか！  
ということでしょうか。

- 「森林伐採」も琵琶湖の「アオコ」の一因か？ -

毎年水温が上がると琵琶湖に発生するアオコが問題になります。

これは生活排水、工業排水、農業廃水だけが主要因と思っていましたが、これから伐採が進むと、梅雨時の大雨などで流れ出た伐採林からの「山の栄養分」も今後、植物プランクトン大量発生の一因を担うことになるのではないかとということが研究を通してわかってきたとのこと。同じ伐採でも斜面の下部を少し残すだけで、山の栄養が谷川に流れ出るのを大幅に抑制できることもわかってきています。

近畿の「水がめ」といわれ多くの人々を潤す琵琶湖を持つ滋賀だけに我々県民も草加さんの研究には大いに注目し、また水の大切さを自覚、「水との付き合い方」を今一度見直したいと思いました。

(ご多忙のおり、取材協力ありがとうございました。)

## 萩ボランティアメッセに参加して

FR 津田國史 05/10/30

町中が博物館という設定で開かれた今日の萩ボランティアメッセは、一つの館内ですべてが展示(ワークショップ)されていたこれまでのボランティアメッセとは大きく異なり、会場が分散していて、幕末に活躍した長州藩出身の要人たちの旧宅も展示会場として活用していて、古い邸宅を見に行く楽しさはあったが晴天なればこそで、もし雨であればどうなるか気になる部分もあった。

旧い久保田家を会場にした「九州国立博物館」は、和室の畳の上での展示にマッチするワークショップ(お茶の賞味・組紐づくり・拓本づくりなど)を用意して和の趣をうまく活用して、一週間後に控えた「九州国立博物館」の新開館の展示内容をたくみにアピールしていた。



前夜のパーティでも総員が舞台上に上がり盛大なパフォーマンスが繰り広げられて「国立九州博物館」の誕生を当夜参加の全員に強く印象づけた。また情報収集も「九州国立博物館」からのアタックがいちばん多く、そのどなたからも熱心に突っ込んだ質問を受けた。

同じ旧宅内での展示の「大和ミュージアム」の戦艦大和の模型展示は、和室の天井の高さからの制約のためか、艦の模型から実物の大きさへの想像が繋がらず、実物が実感できない窮屈な感じを受けて、背景も含めて展示内容に合ったブースが必要との印象を持った。

和室の間取り、しつらえそのものが観賞の対象として価値のある処に、活動的な近代を開示しようとする、陰翳が特徴の古い日本家屋の趣を壊しかねない危うさがあるようにも思えた。「九州国立博物館」のように畳の上であるからこそ効果のある和室の使い方もあるので、使う側が場に合った活用をする配慮が必要ではなかろうか。

「萩博物館」の展示は歴史関連のものが多く、この展示に和の文物が多い関係で、座位の視点で寛いで映像を観られる広いコーナーがあったりして興味をひいた。控え目な照明は時代を経た資料を展示するめに留意したものだろうか。

会場が分散していたのでそれぞれの会場への行程案内・会場での対応など、これまでのメッセでのボランティア数以上に多くの要員を必要としただろうが、萩メッセでの対応は優れていてそつなく、折山のボランティアをこのように統制のとれたものにされた事務局の努力を高く評価したい。それにつけても、フォーラム会場となったホテル・フロントの対応の不手際は、ボランティアとの理念の違いを見せられた思いがあり、萩メッセでのボランティアの活動に抽手を贈りたい。



「伊丹昆虫館」の蝶の幼生の着ぐるみは何時もながら楽しいコーナーである、今回はそれに加えて、それぞれの蝶の行動・習性などを分類しておいて、それを来館者自身の思考・行動に合わせて選択できる設問があり、回答者の特性に対応する蝶に到達するように設定したパネルは、蝶の個性を人と結びつけるうまい工夫に感心させられた。子供が自分で設問に回答

すると、あなたは何蝶ですというのは、琵琶湖博物館で淡水魚の行動、性格などを仔細に分類して、魚の特徴を人の特性と結びつけるゲームに活用できることを教えられた。

これまでのボランティアメッセで、他の博物館との交流時間が取れず、せっかくの機会なのにと心残りであったが、今回は展示対応と交流・情報収集の時間割りを作ったのは良かった。そのためにはやはり要員の絶対数の確保が必要と思われる。

展示説明中に、他のボランティア関係者から FR・はしかけについての情報を求められると、展示物の説明がおろそかになりがちで困ったこともあり、できれば遊軍のゆとりも必要か。

展示物では、パネルだけの展示は決定打に欠ける思いがする。人を惹き付けるにはなにかのワークショップはぜひ必要だ。

参観者が足を止め興味を示すのは、自分もそれに参加できる何かであり、それに参画できることが必要条件で、ただ観るだけでは興味を持たれても印象に残るものは少ないようだ。面白そうだ、やってみようかなと思わせる何かを提供できるかどうか、この有無がその展示効果を決定する要因だと思う。



私自身も、やはり自分もやってみたいと思わせる何かがあるものには強い興味をちって観ていたし、それを自分でもやつていた(九州国立博物館の拓本採)これまでのメッセでも、自分でなにかをしたものはその館の名前と共にいまでも印象に残っている。

## フィールドレポーターのブース展示

前田 雅子

博物館、科学館、美術館、水族館などのミュージアムボランティアが集うボランティアメッセに、フィールドレポーターが参加するのは3度目です。今年は、誰でも知っている身近な生き物であり、昨年度からの資料や展示物がある「夏のセミ調査」を中心にブース展示しました。

### 目玉展示は「セミの鳴き声あてクイズ」

6種のセミの鳴き声と、姿と、種名を対応させるクイズです。結構難しいのですが、やり始めると引き込まれて、大人も子どもも楽しめます。楽々と正解する昆虫少年少女や元昆虫少年たち。知ってて当たり前という顔の経年者。セミの名前はよく知らないけれど、お土産のカンバッジをもらいたくて頑張る子ども。お客さん(来場者)が途切れることがないくらいで、クイズは大成功でした。来年の夏、セミの声に耳を傾けてくれると嬉しいのですが…。

### お宝展示の「包埋標本」

セミの抜け殻の同定にチャレンジしてもらおうと、包埋標本を作って展示することになりました。抜け殻同定に不可欠な触角を完全な形で残すのは難しいのですが、プラスチック樹脂液に入れて固めた包埋標本なら触角を保存できますし、手に取って四方から自由に見ることができます。

試行錯誤して作ったお宝商品をブースの前面に置き、触角が観察できるようにルーペを添えて展示しました。「これはどうやって作ったのですか？」などの質問も多く、お宝商品はみんなの関心を引いていました。肝心の抜け殻同定はマニアック過ぎたのか、6種を正確に見分けられたのは2人だけでした。

### みなさんに感謝の標本作り、でもクレームが！

セミを中心に展示すると決めたのがお盆過ぎ。それから慌てて標本用の成虫および抜け殻の採集を始めたのですが、ニイニイゼミは時期が遅くて見つからないし、林縁にいるミンミンゼミやヒグラシは捕まえにくい。スタッフをはじめ、楠岡さんも頑張ってくださいましたが、採取できない種がありました。そこで、皆さんから送られて来たサンプルを使わせていただきました。本当に助かりました。

ところが、ブースを訪れた何人もの人が標本箱を見て、「クマゼミが小さい」とおっしゃるのです。日本で最大のセミなので、標本にはそれなりに大きい個体を選んだ方が良かったと思います。展示を作る際は色々な配慮が必要なことを知りました。

年々、参加団体が多様になり、ボランティア活動の幅が広がっているように思います。また、館への支援協力から自主的活動重視への流れを感じます。例えば、この秋開館の九州国立博物館はボランティアが引っぱる博物館にしたいそうです。兵庫県立人と自然の博物館では、既存のNPO法人「人と自然の会」だけでなく、進化を求める新しい会が生まれたそうです。どの団体もパワフルで情熱に溢れていて、我々も頑張らなくちゃと刺激を受けた3日間でした。

## 萩ボランティアメッセに参加して

草津市 山崎 千晶

明治維新と夏みかんの町萩近江八幡のような二階建ての落ち着いた町並み 10月8日7時京都駅より新山口まで新幹線で約二時間、ジャンボタクシーで萩まで約一時間、途中赤くツルツルした石州瓦と萩の町並みを車中より眺め、昼食用弁当をコンビニで仕入れる。10時半より開館一周年の萩博物館にてピカピカのフローリングと白壁を傷つけないよう慎重に宅急便の荷解きと展示の準備をする。12時半萩本陣という山手のホテルへ移動し(車中昼食)13時より開会式と歴史文化フォーラム講演会(内容はNHKラジオ第二放送18年1月8日21時放送予定)と青森～佐賀から集まった各出展団体の紹介17時より大宴会場で立食式の交流会、もてなしの舟祝歌に「近江の浮御堂～」という一節があり(近江と萩の関係は聞きそびれました)九州国立博物館(略 Q 博)は来年のメッセ開催に向け民族衣装に身を包みオッペケペーと37名でのPRは迫力で今後が楽しみである。19時竹灯籠(竹に蠟燭で町並みを照らす)の観賞、宿に荷物を置き夜の町散歩を楽しむ。

9日10時よりフィールドレポーターは活動紹介ポスターとセミの鳴き声クイズと封入標本(作り方等参観者の興味をひく)はしかけの単細胞は珪藻顕微鏡観察&ポスター・びわたんは種遊び、他 \*萩博 NPO の金星と太陽のポロミネンスと黒点の天体観測 \*毛利博物館の折文 \*伊丹市昆虫館は虫のお面・幼虫擬態・蝶の特性を占いに生かした性格あてが面白く。博物館外の会場として久保田家(近江商人の呉服屋後酒屋)では \*Q 博の組紐とお茶接待と民族衣装と拓本体験 \*木戸家(桂小五郎の実父家)会場では \*萩博の情報なんでもBOX 散策の合間に夏みかんソフトクリームをとミカンシフォンケーキを食す。

17時撤収梱包、高杉晋作資料室の学芸員解説を受け、地元の人から聞いた居酒屋で地酒と烏賊踊食と雲丹丼を堪能

10日9時半萩博ツアー4種より「江戸時代の街並みが残る城下町コース」に参加、市民ボランティアガイドによる案内付きで、城壁は穴太衆の助けもあったとか、町名に猫町とあるので由来を訊ねたら「殿様のかわいがっていた猫が殿様の死後墓に毎日通い45日目に墓前で舌を噛んで死んだらしい...」本当かなあ～!? 11時半館内カフェで無角和牛特性ハヤシラ

イスの昼食 12 時半ジャンボタクシーの迎いで山口県由宇の瀬戸内海に面した由宇町立ミクロ生物館へ、びわたんの「お湯丸」でプランクトン模型作り体験と交流。19 時岩国経由で広島へ、20 時半あわただしく穴子弁当等仕入れて新幹線に乗込み、京都着は 22 時と充実の三日間でした。

いずれ琵琶湖博物館での開催を考えるなら 場所 スタッフ人数 交通機関 宿泊 スケジュール 内容 もてなし 資材確保 市民団体の協力も必要となるであろう。今回はボランティア間交流よりも企画運営視察と観光に重点を置き楽しむことができました、各詳細資料と写真は保存してあります



## 山口県を瀬戸内から日本海へ

FR 津由國史 05110130

10月のはじめの快晴の秋空のもとで、中国山地を横断する行程は、私にかぎりなく多くの見聞をもたらしてくれた。

今年も萩ボランティアメッセ2005に参加すると決まったときから、私の裡で中国山地を瀬戸内側から日本海側に抜けるこの道筋に興味を沸きはじめていたので、その行程を比較するためにも関西以西の山口までを仔細に視ておきたかった。しかし速い乗り物での移動はごく僅かな事物の収穫に終わって、竹やぶが多く見られ、屋根瓦の色がオレンジ系の明るい色に変わった所で新山口に着いてしまった。

私たち8名が乗ったマイクロバスは新山口の街区を離れると、すぐに曲折の多い山坂を登りはじめた。川沿いのカーブが連続する国道282号に、瀬田川下流の大石から朝宮へ抜ける信楽への道を重ねていた。

ガードレールの色がオレンジ色なので、なにかの都合でこの辺りだけと思っていたが、どこまで行ってもオレンジが続くので「なんでオレンジなんや?」とわめいていたら、「たんさいぼう」からただ一人参加の杉本君が「それは山口の特産の夏みかんの色を顕わしてるのです」と教えてくれた。

ガードレールの色は白とばかり思っていたシロウトの悲しさ、地域の特産の色とは思いつかなんだ、いろいろあるんだ! どこかの県で赤やピンクを見たいな、それに合いそうな県はと、川幅が広がり水量も多くなりだした明木川沿いに屈曲の続くオレンジの帯を見ながら想像を広げていた。

屋根瓦の色もオレンジ系が続いているが、棟の両端に鴟尾(しび)が載っているのもこの辺りの瀬戸内側の特徴のようで、分水嶺を越えたとたんに見掛けなくなった。近江の湖南では鬼瓦が普通に見られる屋根の景観であるのに、お城の屋根に見られる鴟尾を民家の屋根に見て、これにはどういう意味があるのか知りたくなった。鴟尾を載せていることで、近江の鬼瓦より格が上に思え、住んでいる人も偉く思えるから不思議だ。

美東町の山間を走っていたときだったと思うが、雑穀のひとつアワかヒエが栽培されていたようだったが、確認はできなかった。四国の山間ではつい最近までシコクビエが栽培されていたとのことであるが、中国山地でそれらしいものを見かけたので、気に掛かった。水の得難

い山間地ではアワ・ヒエなどが主要な穀類だったと聞いていたので確かめたい思いもあったが、車は、山際に獣除けの低い柵が目につきだし、人家の途絶えた山間を登り始めていた。登りばかり続いていた道が平坦な田畑の風景に変わったのもう分水嶺は越えたか？と思っただ、水はまだこれまでと同じ瀬戸内の方向に流れていて、中国山地の奥行きを知らされた。

高田さんが「比良の奥から日本海に抜ける道みたいや」と言ったが、保坂あたりから疋田の風景に似た趣があるところをまた登りはじめた。この辺りまでくると屋根瓦の色は灰色が多くなりだし鴟尾も目立たなくなりましたが、暗灰色の鴟尾を載せた棟も有って、鴟尾はオレンジ瓦とのセットでもなさそうである。

集落の家の作りは関西と同じようだ、道路沿いには新しい家が多く、山際には戸数の少ない集落があって、その集落を繋いで山際に沿うか、川に沿う昔ながらの道がうねっていて、道端には小石などを積んで一段高くした小さな畑には惣菜が作られていて、どこの山村でも見られる風景である。

山口市を離れた辺りで盛んに道路の新設工事をみかけた。そのいずれもが山を割り貫いて飛び出してきた直線的な道路であり、昔の道の上を跨いでかなたの山に突入するのを見せられると、いま自分達が走っているこの道は、日本海側の裁の人達が、瀬戸内に出るために地形に逆らわず時間を掛けて往来した道なんだ、私はこちらの道が好きだとの思いを強くしていた。

分水嶺を越えてようやく萩の行政区域に入ると、こんどは日本海まで阿武川に沿つての下り一方の行程となり、瀬戸内側に較べて山間の田んぼが少ないように思った。その代わりでもないだろうが、畑に蜜柑の木が目立つようになり青い果実が目につく。阿武川がどんどん川幅を広げだし、風景が開けて東萩のあたりが見え出した、橋本川と松本川に岐れる辺りで山陰線のJRを跨ぎようやく萩市内に到着、コンビニでそれぞれ好みの弁当を買ったが、この弁当を直ぐに食べるべきだった。後でゆっくりと考えたのは大間違い、昼食を食べる時間もないスケジュールが待っていようとは誰も考えもしなかった。

中国山地を抜ける旅は、山口についてこれまで全く知らなかった私に少しだけ山口の今を教えてくれた。初めての所へ行くのは実に楽しいものだ、例えそれが近くであっても。まして遠く離れた地であればなおさらで、まだ見ぬ地に期待が掛かるのは人みな同じだと思うが、私は其処までの行程もまた強い興味の対象である。その行程にこそ旅の面白さがあるのではと思っている

表 題 [アメリカセンダングサの薬効]

投稿日 [051012]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

私達の住宅地が自治会館竣工記念行事の日に、公園で日系ブラジル人の姉弟が所在無  
さげに遊んでいました。

つい先日転入したばかりとのことで連絡も届かず、寂しい思いをさせてしまいました。  
行事で子供達と遊んだ残りのゴム風船のヨーヨーと割り箸で作る輪ゴム銃を届けてお母さん  
と立ち話。大体日本語が通じるので安心しました。

アメリカセンダングサをダーツの様に投げて衣服に付ける遊びを教えたところ、お母さ  
んが「この草なら知っている」とのこと。

ブラジル語(?ポルトガル語)では「ピコン」と云い、煎じた汁をかゆみ止めとして皮膚に塗  
ると良く利くそうです。

日本にもこれに似た、学名の頭の属名が bidens となっている「そっくりさん」のタウコギや、  
ほにゃららセンダングサが数種あるようで、ピコンがドンピシャとアメリカセンダングサとは言  
えないかとは思いますが、その内に私がモルモットになって見ます。



表 題【金魚の稚魚はどんな色?】

投稿日【050911】お名前【甲賀市町村 京 美季男】

わが家の庭の乗用車ほどの広さの地で、今年、琉金と  
コメットの稚魚が生まれました。5月頃、ホテイ草の根  
に産卵していたようで、6月頃、1cm位の小魚を  
発見。現在3~5cmに成長しているが、驚きは  
フナから金魚の赤色に数日で、変身してしまうこと  
した。速く泳げない幼魚の間は、保護色で、フナとツケ。  
総数14匹生まれて、コメット12匹、琉金2匹です。か  
すでは、6匹が色鮮やか金魚になって、泳ぎ回  
ります。この年まで、金魚は生まれた時から金魚だと思  
って  
いました。

## 表 題 【テントウムシの越冬】

投稿日 【0501113】

名前 【守山市 森 擴之】

10日ほど前のテレビ報道で、東京奥多摩、群馬県など関東地方で、今年はテントウムシ類の発生が以上に多くしかも立冬を過ぎて、家の軒下、倉庫の内壁などに大量に集まって、越冬体制にはいっていることが放映されました。

成虫で越冬する昆虫たちが、家の軒下あるいは家の中など風雨の避けられる場所に集まって越冬する年の冬は、寒さも厳しく、大雪になるといわれております。本年1～2月にかけて実施された、私たちフィールドレポーターの調査「野生生物の予知能力調査」においても、カメムシが家の中に集まった年は積雪量も多かったことを、かなりの人が経験されて居られました。

一方、気象庁による長期予報では、今年の冬は暖冬気味ではないかと予測されており、テントウムシの集合行動から予測される結果とは違っております。

皆さんの、身近では如何でしょうか？ テントウムシは見つかりますか？ カメムシ類は家の中に集まってはいませんか？

何か似た現象の情報がありましたら、下記宛に情報提供をお願い致します。

E-mail で [freporter@lbm.go.jp](mailto:freporter@lbm.go.jp) または [m\\_familyitm@ybb.ne.jp](mailto:m_familyitm@ybb.ne.jp) または 掲示板投稿



気象庁ホームページより

**表 題 【セミの調査雑感】**

投稿日 【051001】

名 前 【野洲市 まことちゃん】

5/29 の FR 交流会で今年もセミの調査をすることを聞き、少しは何かできそうな気がした。調査ポイントはタンポポ調査と同様の感を否めないが、登山時のルート 通勤ルート 毎日の仕事での移動ルート 犬の散歩ルートを主とし、若干のバリエーションを持たせる事を考えた。

今年初めてセミの声を聞いたのは、6月26日大津市葛川坊村町から鎌倉山に登ったときである。ブナ平と山頂で鳴いていたのは、声や拾い集めた抜け殻からエゾハルゼミと思われる。山頂ではアシックスのイベント登山のメンバーを出迎えるまでの時間がたっぷりあったので抜け殻をたくさん集めることができた。1種だけだった。成虫の捕獲はできなかった。かい間に見えた姿は黒っぽいツクツクボウシの様な感じだった。写真も撮れなかった。デジカメをもって行かなかったことを後悔した。7月18日はリトル比良のヤケ山、嘉嶺ヶ岳に行った。ヤケ山ではエゾハルゼミの声がした。それらしき姿も見たが捕まえられなかった。寒風峠の前後ではヒグラシの成虫をゲットした。

毎日の通勤、仕事での野洲・彦根往復、犬の散歩の3つのルートでは、初鳴きの日を調べるのはごく自然の成り行きだった。バイク通勤なのでポイントではエンジンを切って耳をそばだて、仕事での移動ルートでは雨でなければクーラーも使わず窓をあけて運転しポイントではスピードを落として神経を集中した。我ながらよくやると思う。

今回の今回の調査で思わぬ横道にそれてしまった。『羽化』である。朝の通勤時に生和神社でクマゼミの鳴き声を聞いた8月2日の帰宅途中、クマゼミの抜け殻を探していたら、アブラゼミの羽化の原版に遭遇した。まだ始まったばかりなので一旦帰宅し、夕食後に女房を連れてカメラを持って出直した。何と4匹も見つけたが、電池切れでカメラが役に立たなかった。女房はセミの羽化は初めて見たと言っていたいそう喜んだ。電池を充電して後日出直したことは言うまでもない。

彦根市のFRSの加固さんは町内会の役でご多忙の様子。FR談義の後、加固さんの家の庭先まで調査ポイントにしてしまった。

私の郷里は新潟県魚沼市。お盆の帰省の際もセミの事が気になった。妹の嫁ぎ先は、弟の嫁の実家とは3軒隣、しかも、お袋の実家の隣の集落、旧湯之谷村である。昔からミンミンゼミが多くアブラゼミの方が少ない。すぐ近くで鳴く、聞いた覚えのないうるさい声に気づいた。過去にも聞いているはずなのに覚えがないのは、意識しなかったせいなのか。義弟がその孫をつれて採って来たセミがその声で鳴いたとき「なんて奇怪な声でなくセミなんだ。まるで機械の音だ。」と思った。「ギギギ…」と鳴くそのセミの名がエゾゼミであることを図鑑を見せて教えてくれた。

帰省から帰った翌朝、ツクツクボウシの声を聞いた、8月16日のことである。そこでまた羽化の写真を撮ることを思いついた。場所は通勤時に通る野洲市栄の土手道にした。クマゼミとツクツクボウシの声が盛んなのである。翌日ツクツクボウシの羽化の撮影に成功。しかしクマゼミは見つからなかった。以後数日通ったがツクツクボウシばかり。クマゼミの羽化はるか、抜け殻さえも見つけれなかった。あんなに盛んに鳴いていたのに…。

3年位前、勤務先の外壁の下で、息も絶え絶えにうごめいていたおもちゃみたいなセミが、チッチゼミだった。1日だけわたしの手元で生き延びたが、その死骸の保存に失敗したため何も残っていない。そして去年の8月22日(日)三上山に登ったとき、頂上付近で「チッチッチッチ…」と盛んに木の上の方で鳴く声を聞いたとき、鳥の声でも、マツムシ類でもないことは、鳴き方と、鳴いている地面からの高さ、鳴いている個体数の数の多さからわかるので、チッチゼミであることを確信した。そして今年の調査。絶対確かめると言う意気込みで、7月24日(日)三上山に登ったがチッチゼミの声はなかった。そして再度8月21日(日)に登ったとき、中腹と頂上付近で声を確認した。頂上付近では1匹だけだがミンミンゼミの声も確認した。わたしが滋賀県で初めて聞いたミンミンゼミの声だ。これも今までは意識しなかったら聞こえな

かったのだろうか。下山時にチッチゼミの声を聞きながらその姿を探すのだが見つからない。中腹で抜け殻を真剣に探したら4個だけ見つかった。今まで見たことのない小さい抜け殻だったのでチッチゼミのものであることを確信した。図書館でいろいろ調べたが写真や図が載っていない。そこで羽化の写真を撮ることにした。8月26日早めに夕食を済ませ、夜間登山よろしく道具を持って、抜け殻を見つけたポイントに登った。思った通り簡単に見つけることができた。カメラの邪魔になる小枝を折ったとき、頭の上に何かが落ちてきた。足元を見ると、何と別の羽化途中のチッチゼミだった。このセミは、落ちたショツクで羽がきれいに伸びなくなったので資料用に持ち帰った。都合5匹の羽化をカメラに収めた。このうち使えるもの何枚あるかが問題なのだが……。

皆さんは、チッチゼミの存在を知ってますか？ 見たことがありますか？ 声を聞いたことがありますか？ 羽化を見たことがありますか？ 私はこの4つともYESなのに、鳴いている姿はまだ見たことがないのです。落花生の豆粒ほどの黒っぽい体に透明の羽根、鳴いている位置はるか上方、どう考えてみても見えとは思えません。

チッチゼミは平地にはいないように本に書かれています。三上山の登山口から上がったばかりのところで桧の幹についているその抜け殻を一個見つけたときは、まるで大発見でもしたかのように震えてしまいました。そして彦根市薩摩町の湖周道路のメタセコイアが3本ある周辺、野洲市比江の長澤神社境内の桧ではそれと思われる鳴き声を聞き、その声を頼りに抜け殻を探しましたが、見つけることができませんでした。メタセコイアの上方で声がしているのに植え込みのせいで近寄ることができないので近くの松の木を念入りに調べたし、境内は充分に探したが見つからず声の録音も試みたがうまくいきませんでした。抜け殻が見つからないと、存在の証しも、羽化のポイントも決め手がないのです。鳴き声の録音もできないとなると与太話もいいところです。

9月18日に比良の権現山に登りましたが、蝉の声は全く聞かれず、下山時に足までひねる始末。これが一向に回復せず9月23日となり、三上山は松茸山に。これでチッチゼミの羽化の写真も断念、セミの調査もほぼ終りになりました。

と思っていたのですが、9月29日午後3時半頃、湖周道路は近江八市立運動公園脇でツクツクボウシの鳴き声を聞いた。ほかのポイントでも鳴いているのではと気をつけていたが聞こえなかった。念のため、道中の左側となる彦根市柳川町の大宮神社に。境内に入り耳をすませばツクツクボウシの鳴き声が聞こえた。樹種は知らないが、ふた抱えもある大木だ。気を良くして、翌日にも立ち寄ったら、ツクツクボウシともう一つ聞こえたのは、アブラゼミだった。念を入れて木を蹴飛ばして鳴き声の止み方を聞いて確かめた。思いで深いセミの調査の最終日であった。

わたしの調査結果を集約すると次のようになります。

- A. 平地での初鳴きの順は ニイニイゼミ アブラゼミ ヒグラシ クマゼミ ツクツクボウシ ミンミンゼミ
- B. 羽化は日没ごろから始まる。ポイントは抜け殻が多くついている木。
- C. ミンミンゼミのポイントは 近江八幡市牧町岡山配水池上り口付近 近江八幡市白王町湖周道路東側 彦根市八坂町木和田神社
- D. クマゼミのポイントは午前中にしか分からない。(午前中しか鳴かないから)
- E. クマゼミ、ミンミンゼミの抜け殻は見つけにくく、写真資料も少ない。
- F. ニイニイゼミの抜け殻は必ず泥を被っている。アブラゼミと同じ場所でもそうである。このことから、殻の表面は泥が付着し易い(落ちにくい)凹凸になっていること想像できる。それゆえに生き延びられたことも。(そんなにおいしいのだろうか?)
- G. チッチゼミは居場所を知らない限り調べることができない。三上山以外の居場所を御存知の方はいらっしやいませんか？

# セミの兄弟

大津市 前田 雅子

気軽な気持で実家の母に「セミの抜け殻を見たら取っておいて」と頼んでいたところ、毎朝庭に水を撒く時に見つけた抜け殻を、採取日別にケースに入れてきちんと整理してくれていました。母の協力に感謝して、母娘で夏休みの自由研究したもの投稿させていただきます。

実家は山裾の住宅地で、夏にはアブラゼミ、クマゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシの他キジバトや、時にはウグイスの音が聞けるのどかな所です(ニイニゼミは意識して聞いていないので不明)。庭にはウメ、ヤツデ、ソテツ、カキ、ボケの木がありますが、抜け殻が付いていたのはカキの木だけで、どれも手が届く高さにあったと言います。

抜け殻の採取日と個体数を表にします。

日	7月													8月													合計	
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		13
雄	1				1		1	1				1	1		2												1	9
雌						1					1		2		2			2	1			1						10

庭で見つかった抜け殻は 19 個体すべアブラゼミでした。雄 9 個体、雌 10 個体でほぼ同数です。7月になって毎日観察をしている中での初見が7月18日。私の居住地ではアブラゼミの初聴は7月14日でしたので少し遅いように思いますが、急速にどこでも見られるようになる時期です。意外だったのは、約1ヶ月の期間にバラバラと出てくることです。アブラゼミの出現期間が長いのも肯けます。また、サンプル数が少ないので何ともいえませんが、雄が雌に先だつて出てくるように思われます。

抜け殻のサイズ(体長、胸幅)の検討は、サンプルが少ないので断念しました。19 個体の中では初期に出現するものが小さく、出現時期とサイズに関係がありそうな気がするのですが、これに取り組むにはかなりの根気が要りそうです。それにしてもクマゼミサイズの大きなアブラゼミがいるのには驚きます。体長 33 mmの雌が1 個体あり、全体的に雌の方が大きいようです。



余談になりますが、母が「このセミたちは兄弟なのかねえ?」というので調べると、セミは2、3~数個の卵を産むとありました。兄弟プラス他人が同じ木の樹液を吸って育ったということになります。複数の親がカキの木を選んだのですから、アブラゼミにとってカキは好みの一種といえそうです。

【山で遭遇する危険な動物(クマ・スズメバチ・マムシ・ヤマカガシ・ヒル)に関する調査・報告】  
〔第3回〕クマ(ツキノワグマ)について(その2)

霊仙山に行くと、各所に「・・・西出商店」と書かれた標識が立っています。10月21日に樽(くれ)ヶ畑道を登った時、5合目(見晴台)を過ぎて暫く林間を歩くと、右側の視界が開けた所に出ました。ここには、「未完成ですが、左側の新道を登れます。右側の道(旧道)は危険です。西出商店」と書かれた、新しい看板が立っていました。



直ぐ側に、スコップやツルハシ、畚(もっこ)などの開拓用の道具が置いてありました。新しい登山道には未だ木の根などが残っていて、西出商店の店主が何人かの人と一緒に開拓されたのだと思いました。よく登山道に「・・・新道」のように人の名前が付いていますが、登山道はこのようにして開かれて行くのだな、と思いました。西出商店の店主には本当に頭が下がる思いです。

山の本によると、この方は、多分何の報酬もないのに、5つ程ある霊仙山の登山道を献身的に整備しておられます。一度、氏とお会いして、どんな人か、その人となりを知りたいと思い、4月に登った帰りに、上丹生(かみにゅう)の西出商店に寄りました。

『霊仙山にクマはいますか?』と聞きました。氏は60才前後の温厚そうな方で、『40年ほど霊仙山に入っていますが、未だクマに出会ったことはありません』と答えてくださいました。

5月に御池岳に行った時も、他の登山者に話を聞きますと、『伊吹山周辺にはクマがいますが、国道365号線(関ヶ原から長浜・木之本に通じる国道)で分断されて、御池岳にはクマはいないようです。いたとしても流れグマです』と言われました。

上の写真は、春4月に霊仙山からの帰途に寄り、山東町(現米原市)三島池から撮った「逆さ伊吹」です。正面にそびえる伊吹山と、湖面に映る逆さ伊吹・桜・石灯籠・樹木などが、微妙なバランスを保っています。

霊仙山・己高山・呉枯ノ峰・伊吹山・赤坂山・蛇谷ヶ峰などに登った時、登山口に『クマ出没注意』の看板が立っていました。前回も書きましたが、滋賀県では、湖北や湖西にクマが棲息しているようです。鈴鹿山脈にはクマはいないのでしょうか?

以下の『・・・』内は、主に引用文献 と (第1回のフィールドレポーター便りをご参照)からの完全な引用です。

クマはどのようなものを食べているのでしょうか?

『相対的にその時期の旬のものを集中して食べる食性があります。春～夏はブナの若芽、タケノコ、草本や昆虫類を、秋には、クリ・ドングリ類(ミズナラ・コナラ・クヌギ・アブマキなど)・クルミ・アケビなどの炭水化物を多く摂り、越冬に備えます。ドングリ類が不作の時には行動範囲が広がり、里に下りて来て、人間との接触が増えることがあります。越冬中は冬眠のため、採食はしません。』このようなクマの餌となる、実のなる木が茂っている林には、クマが潜んでいる可能性があるのです、近づかない方が良いでしょう。

『クマは雑食性で、甘いもの、特にハチミツが大好物ですが、腐った肉など、悪臭のものにも興味を示します。コンポストから出て来る悪臭は、クマを引き寄せることになります。登山やキャンプの時は、ゴミの管理を徹底する必要があります。味が付いた袋や空き缶なども、クマを引き寄せることになるので、臭いが出ないように、ビニール袋に密封して持ち帰る必要があります。また、実りがよくない時は、カキやクリを食べに来ることがあるので、取り除いておくなど注意が必要です。』クマに人間の食べ物の味を覚えさせないことが必要なことが分かりました。

『クマの臭覚は、イヌ・イノシシ並みに鋭く、クマの最大の感覚器官です。また、クマの視力は、他の野生動物よりも優れているとは言えないようです。クマの手の平には、弾力のある肉球があり、手の平全体を地面に着けて歩くので、物音は立てません。』

クマの聴覚はどうなのでしょう？『低音には意外と鈍感で、足音などの低い音を聞き分ける力が弱いと言われていました。』クマがエサ探しに夢中になっていたり、沢沿いで水音がうるさかったり、雨や風が強かったりして、気配が分かりづらいような場合などは、クマも物音がよく聞こえないので、バツリ出会ってしまい、人身事故につながってしまうことがあります。

『クマの歯は、犬歯が発達していて、奥歯は物をすり潰すのに適しています。』クマによる負傷事故は、前足(爪)の引っ掻きによるものと、咬み付き(犬歯など)によるものが殆どだそうです。クマと出会わないためには、鈴や笛で自分の存在をクマに知らせておく必要があります。

クマの腕力については、『前腕・肩の筋肉が発達していて、手前へ引く力が強く、穴掘り・木登りが得意』だそうです。『クマは木登り上手。木に登ってドングリや葉っぱを食べる』とありますが、山道を歩く時、前方だけでなく、樹上にも注意する必要があると思いました。

『ツキノワグマの胸の辺りには、三日月の斑紋(V字模様)が、大きなものから小さなものまであり、形や大きさは様々です。全くないの也有ります。』ツキノワグマの語源は、この三日月の大きな斑紋があることから来ているようです。

次回はスズメバチについて報告いたします。

以上

## 表 題 [起簡単、分かりやすく適用範囲の広い物理の法則]

投稿日 [051012]

名 前 [彦根市 加固 啓英]

数年前、オーロラを見にカナダのイエローナイフに行った時のことです。

旅行社はレイバンガラスを「日本のカラスの 2 倍はある」と大きなことを強調しますが、町中を悠々と飛び交うカラスは同本のハシブトガラス、ハシボソガラスとほぼ相似形で色も黒く、マッカーサーの様なサングラスを掛けているわけでもありませんでした。

確かに大きくはありましたが、とても 2 倍はなさそう、せいぜい 1.3 倍にしか見えませんでした。私の目測が誤りか？ 旅行社の言い分が大袈裟か？

どちらも正しいのです。私は長さで、旅行社は体積、重量で云っていたのです。

只、動物の大きさの場合は常識的にはどちらが普通なのかは良くわかりませんが。

物理・化学の法則はどれも理屈っぽく、難解な数式が付きまとい、そのくせ応用範囲が限られます。多分皆様は既にご存じとは思いますが、とびきり簡単明瞭、応用範囲無限の法則を紹介します。二乗三乗(自乗三乗)の法則です。 .

上のカラスの例ですと、長さが 1.3 倍だと体積:重量ですと 2.197 倍 ~ 2 倍でどちらの言い分も正しいと言えます。

長さが  $n$  倍のとき面積は  $n$  の 2 乗、体積は  $n$  の 3 乗、というだけの簡単なものですが、長さに対する面積く伝熱や放熱、空気や水などの流体の低抗、重量や衝撃の分散)と重量との比率にかかわるのです。

§ ノミは体は小さくとも、人間とほぼ同じオーダーの  $m$  単位の垂直跳躍が出来ます。

これは、体が小さいことで筋肉の断面積は 2 乗で、重量は 3 乗で小さくなり、大きな重量低減と小さな筋力の低下でのバランスで、どの動物もあまり大きくは変わらないという事なのです。

§ 私は屋根から落ちて両手首骨折し、ほぼ 1 年間は十分に苦しみました。私とほぼ相似形のアマガエルならあの高さから落ちてケロッ(カエルは何時でも?)としているのは臍の有る無しによるものではなさそうです。

大きさの違いからくる重量当たりの空気低抗や重量・衝撃分散の面積の大小によるのでしよう。

§ 小さな急須と大きな薬缶の冷める早さの違いも容量当たりの放熱面積の差によります。

§ 怖いのは大きな飛行機。相似形の小さな飛行機(以下「小」と長さで 2 倍の飛行機(以下「大」)があつたとします。「大」の重量は「小」の 8 倍、(翼)面積は 4 倍。つまり同じ翼面積当たり 2 倍の揚力を稼がなければなりません。さらに翼と胴体の接合面積当たりの強度は 2 倍の荷重に耐えられなければ空中分解!!!

今度の海外旅行は優雅に豪華客船にしませんか？

## 草津市 第6回パワフル交流 市民の日 に参加しました。

草津市 椋島昭紘

10月15日【日】草津市西大路の「まちづくりセンター」で開催された、第6回パワフル交流 市民の日に、昨年に引き続き今年も琵琶湖博物館からも参加して、3階会議室に展示コーナーを確保。フィールドレポーターも参加しました。

11月27日まで開催中の企画展示、「歩く宝石オサムシ」のポスターや生きているオサムシによるPR展示。飛ばない昆虫オサムシの不思議の説明、美しい色を興味深そうに覗いていました。そしてはしかけの活動報告のポスター展示、わがフィールドレポーターは「セミの調査」、「蝶の調査」、「タンポポ調査」、「アオマツムシ調査」、「ため池調査」を展示しました。

子供たちが喜んで遊んでくれたのは、『セミの鳴き声クイズ』です。

なかなか満点は取れません、それでも、お手本を聴いて、正解するとカンバッチやコースターをもらって喜んでいました。ボランティアメッセのために作った抜け殻の包埋標本は珍しそうに手に取りますが、クイズにはなかなか挑戦してくれません。虫眼鏡を渡しても区別するのは難しいようでした。

その他ドングリ転がしゲーム。

アメリカセンダングサとオナモミのダーツ、こちらも大人も子供も賑やかに遊んでいました。

「タガメのタガベエ」も会場内一周し、12月23日からのギャラリー展示、「タガベエのため池探検」のPRに大活躍でした。



## フィールドレポーター12月・1月・2月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。  
 なお、稀に予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
12月03日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
12月17日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
1月07日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
1月21日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
2月04日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
2月18日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室

(おことわり; 上表の博物館とは琵琶湖博物館のことでです。)

### 〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

初秋は気温も高く、紅葉前線の進み方ものんびりしていて、そのせいか彩度が落ちているとか聞いています。

それでも11月中旬一気に気温が下がり慌てて暖房器具の準備に入りました。そして紅葉前線も一気に南下し、野山は今パッチワークの絵をみるよう鮮やかです。

人皆は萩を秋といふよし我は尾花が末を秋とはいわむ

(万葉集より作者不明)

今回の掲示板は山口県の萩市で行われました「ボランティアメッセ 2005」の参加された方々の報告を中心に掲載しました。

これからもご投稿もお待ちしております。

(担当 FRS 椋島昭紘)



# フィールドレポーター 掲示板



2005 年度第 5 号 通巻第 39 号(1 月)

## ヨルダンの博物館事情

フィールドレポーター担当 楠岡 泰

12 月にヨルダンを訪問する機会を得ましたので、少しだけ報告します。  
現在、日本政府の円借款で国際協力機構(JICA)が中心となり、ヨルダンにおいて、国立博物館をはじめ、カラク、サルト、死海の 4 つの博物館の立ち上げを行っております。これまで、建物や展示などのハード面の専門家を日本から派遣していたそうですが、学校や地域との連携など琵琶湖博物館でいう交流プログラムが立ち遅れているので、琵琶湖博物館の事例について講義してほしいと、楠岡に依頼が来ました。外国での博物館の立上げに協力できる機会はめったにないので、喜んで引受けました。

11 月に首都アンマンのホテルで 50 人以上の方が亡くなるアルカイダによる爆弾テロがあったばかりで、正直、少し不安はありました。しかし、いざ行ってみると、ホテルやレストラン、大型スーパーなどではまるで飛行機に乗るときのような厳重なチェックがあり、かえって安心していられました。街を歩いても、皆さん親切で全く不安を感じませんでした。ヨルダンにはナバテアをはじめ、ギリシャ、ローマ、十字軍、オットマントルコなど教多くの遺跡や死海、砂漠など多彩な自然景観もあり、これまで、あまり多くの日本人が観光で訪れなかったのが不思議です。

ヨルダンのこれまでの博物館は考古学的遺跡に隣接して建てられ、その遺跡から発掘された遺物をただ陳列するだけのものが多かったようです。まさに「博物館はほこりをかぶった古いものを陳列する場所」でした。また、学校や地域の方向けのプログラムはほとんどなかったようです。

(次ページへつづく)



博物館関係者にワークショップの段取りを説明する

### \*\*\*\*\* もくじ \*\*\*\*\*

表題	担当	頁	表題	担当	頁
* ヨルダンの博物館事情	楠岡 泰	1:2	* 一日 5 種のセミの声	京 美季男	7
* ヨルダン帰国談を聞いて	尾形 勇	3	* セミの初鳴きと羽化	山犬の主人	8:10
* 竹利用調査中間報告	FRS	4	* 顔の繋がりのあるFRS	加 固 啓 英	11
* 竹利用調査で思うこと	古谷善彦	5	* わが家に変な植物増殖中	加 固 啓 英	12:13
* 竹製品の写真	森小夜子	6	* 予定表・あとがき	FRS	14

今回、博物館のプロジェクトオフィスおよび2つの大学で4回講義をし、体験学習のワークショップを博物館関係者向けと中学生を対象に2回開きました。これまで博物館を展示中心に考えてきた博物館スタッフには、琵琶湖博物館で行っているフィールドレポーターや『はしかけ』の活動は新鮮だったようです。何年後にヨルダンの博物館でフィールドレポーター活動が行われているかもしれません。

今回最も感動したのは死海に注ぐ小さな川の小さな魚でした。なんでも体験してみたい博物館の学芸員としては、海水の10倍も濃いという死海の水に浮かんでみたいと思っておりました。しかし、爆弾テロの直後でアルカイダが死海のホテルを攻撃するという情報が流れており、JICAから死海のホテルに近づくことを禁止されました。濃い塩水をすぐに洗い流さないと皮膚がひりひりしてくるようで、シャワーがホテルにしかないため、死海に浸かるのはあきらめていました。このことを死海博物館の学芸員に話したら、地元の人が浸かりに行く良い場所があるからと勤務時間後、案内してくださいました。

ワジ・ムディという川の河口で、死海に浸かった後、川で塩を落とせばよいとのことでした。古い文献によるとこの川の水は滔々と死海に流れ込んでいたそうですが、上流にダムができ、今は川幅2~3mの小川になってしまいました。死海の水に浮くことを体験し、川に入りました。そうしたら、驚いたことに小さな魚が群れをなして寄ってきて、体中を突つきます。今までにない感覚でした。

手をお椀状に広げているとその中にも入ってきます。死海博物館の学芸員に聞いたあから、地元ではドクターフィッシュとよび、皮膚病の人が川に入ると、患部をきれいに掃除してくれるそうです。少し採集して持ち帰りましたが、学名 *Capoeta damascina* というコイ科の魚のようでした。



足に群がるドクタフィッシュ



関西空港で預けたワークショップで使う荷物がヨルダンの空港で出てこなくて、現地の航空会社に掛け合ってもなかなかちがあかないので、日本の側から追跡してもらって、3日目にやっと届くなど、ハプニングはありましたが、今回のヨルダン行きでは貴重な体験をさせていただきましたし、あらためて博物館のあり方について考えさせられました。

ペトラの壁をくりぬいて  
作ったナバテア人の遺跡

## 楠岡 泰氏(主任学芸員、Fレポーター担当)のヨルダンからの国談を聞いて

投稿日 (06/01/17)

尾形 勇

先のFレポーター定例会(1月14日)で一般打合せ事項終了あと楠岡さんのヨルダンからの帰国談話を拝聴できる幸運を得ました。

当日見せてもらったビデオ画面や楠岡さんの体験談の中でほとほと感じ入ることなどここではごく一部の記憶私記に過ぎませんことご了承いただきまし。

楠岡さんが公的業務(現地の指導、研修、講演他)の任務追行に短期間で大変ご苦労なされたことのように そんななかヨルダンと言う国家を識るための俯瞰図とも言える

砂漠、山岳、街、などの収録画

ヨルダン人との交流(職場、家庭)デジカメ駆使など

広範囲の貴重な見聞体験の数々をデジカメ映写とトークで 二時間余り実に楽しく驚き連続でした。

某氏も発言されていましたが、紀元前後の幾世紀に亘る遺跡の数々は首都アンマンだけでなく南や北の都市にも宮殿、競技場、水路溝跡など古代文化遺産、世界遺産がその数ローマやギリシャの比ではないと。

右のほか楠岡さんからはアレキサンダー大王に接収されていた時代や十字軍の戦火に打ちひしがれていた跡などありといわれ、ふと、自分がむかし西洋史で習っていた箇所を書物と映画で見ている様な気持ちに捉われました。

楠岡さんも言われました、“是非ヨルダンへ観光に”と親日友好の民族国家だと

楠岡さんどうも有難うございました。 ご任務誠にご苦労様でした。

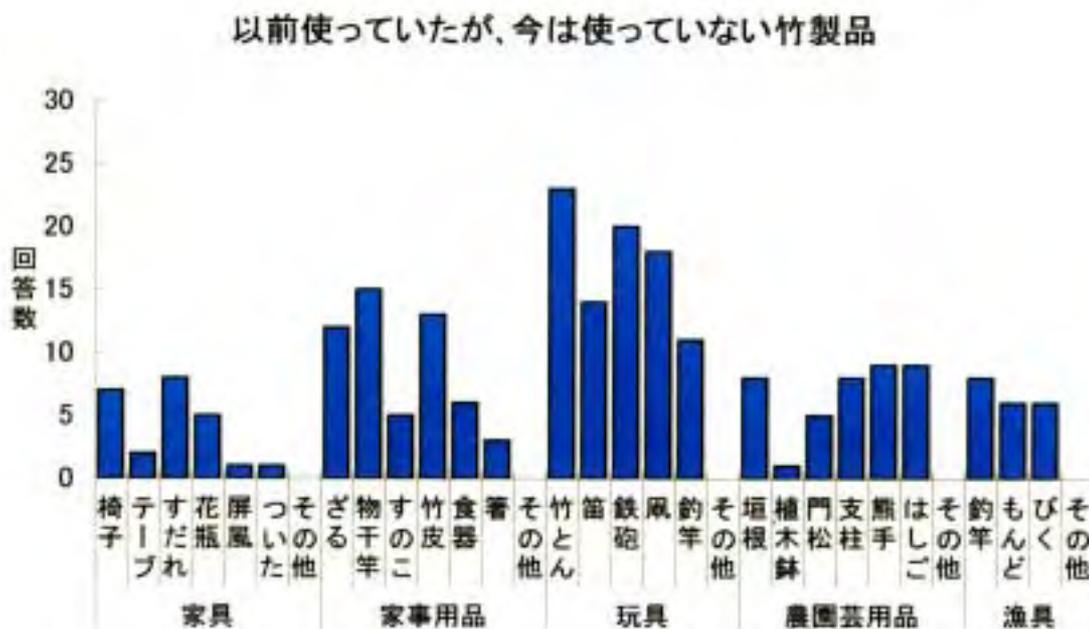
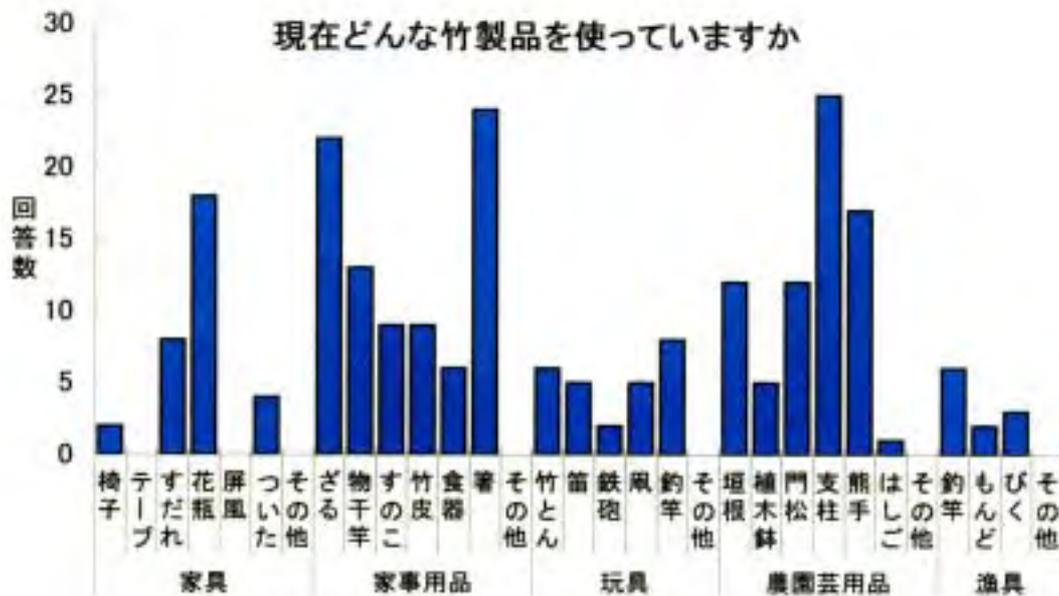
先方国からは早め再訪をとお呼びが架かっておられるそうですね。 国家の親交深めるためにもご訪問してください。

## 竹の利用法調査中間結果

FRS

1月15日現在、36通の回答を頂いております。回答頂いた調査票についての集計結果の一部を下記致します。

本調査は1月末日までとなっておりますので、さらに多くの皆さまからのご回答をよろしくお願い致します。



## 表 題【竹の利用法調査で思ったこと】

投稿日【060117】

【草津市 古谷 善彦】

〈竹で人生を振り返る〉

2005 年度第3回フィールドレポーター調査のテーマである「竹の利用法」の詞査項目について考えていると、浮かんでくる竹製品に当時の生活のひとこまが脳裏に再現されてくる。

過去のものになつたとは云え、日常生活の中にいろいろな竹を使った用具や遊びが豊富にあり、便利で貴重な存在でもあった事は長い人生経験を持つ人が当時を振り返ってみればそうだつたなあ！とうなづける筈。

燃料が薪や炭であったから火吹き竹、うちわ。道が舗装されていないから竹藪は重宝された。そして痒いところに手が届く孫の手、耳搔き。遊びでは田舎へ行って竹そりを作り滑ったりしたものである。

そんなことを思い出していると竹と並行して当時を甦るいい機会でもあった。

右の写真は取り敢えず、自宅の身近にあった竹を使ったものを並べてみたものである。



〈竹は偉大な資材だった〉

戦時中は金属類不足だったことから、コンクリート製鉄道橋の鉄筋に竹が代用として使われ、今なお現役で列車が運行されていると新聞に掲載されていた。

1942年に佐世保で建造された長さ79m高さ22m三連アーチの鉄道橋は第3セクターで活躍中だそうで安全性には問題はないと云われているから最近発覚した鉄筋不足による耐震強度偽装顔負けの偉大な建築資材であると云って過言ではないと思う。

この種の橋は現在路線が廃線となっている熊本県小国町にも竹筋橋が存在していると書いてある。また、学校で生徒が竹を漉いて卒業証書に使ったというニュースも前後して掲載されていた。

意識していれば竹に関する情報も意外に多いものだと思感している。



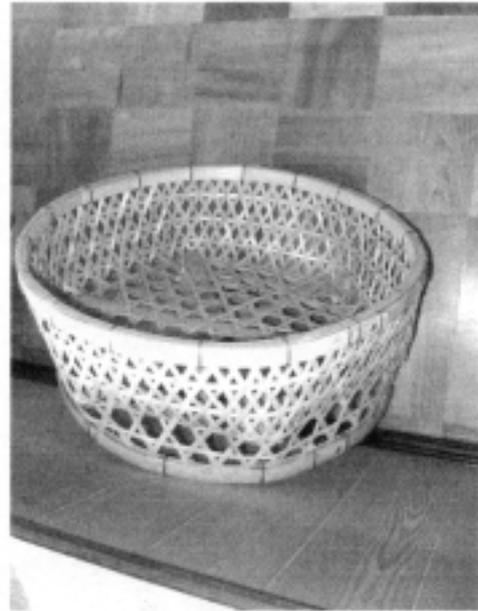
上記の写真は1月16日付京都新聞朝刊に掲載されたものである。

# 今もある竹製品

森 小夜子



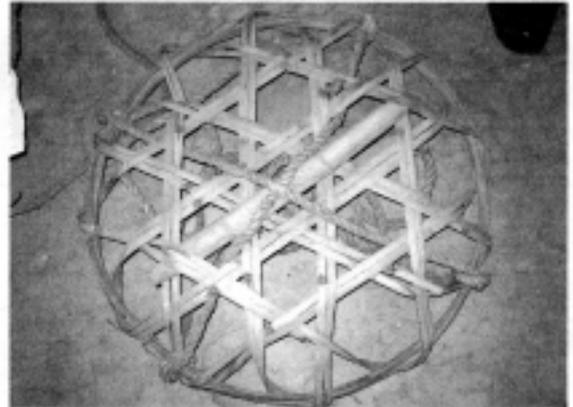
桑カゴ



竹カゴ



唐傘



ロッキングチェア



表題【1日に5種類のセミの声を同じ地点で聴いた  
ことがありますか？】

投稿日【050818】お名前【甲賀市土山町村 京美季男】

標高924mの頂上にある京都愛宕神社へ一昨日、お盆の16日(火)に、参拝した時、アブラゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミの順に、麓から頂上へ向かって、鳴っていました。清滝の気温は34℃、頂上は、20℃で、約15℃の気温差と植生条件にうまく適応しているようでした。高度別に集音機を置いて、一ヶ所で同時に聴けば、セミの五重唱が立派に編成されていたはずです。個体数では、アブラゼミ、クマゼミが多、ツクツクボウシは少数でした。



## 表 題 【セミの初鳴きと羽化】

投稿日【060111】

名 前 【野洲市まことちゃん改め山犬の主人】

今回の調査では、初鳴きを聞くために調査ポイントで耳をそばだて、鳴き声を確かめてから抜け殻を捜し、抜け殻を見つけてから羽化の写真を撮った。セミは羽化してから鳴くのだから、セミに対してずいぶん失礼なやり方にも思える。しかし調査に参加して体で学んだことは決して少なくない。主なことは

### A. 平地と山の違い

確認したのは山でだけだったのはエゾハルゼミ(鎌倉山、ヤケ山)とチッチゼミ(三上山)で、逆に三上山ではアブラゼミの抜け殻すら見なかった。

### B. 初鳴きの順番

平地での初鳴きの順番は ニイニイゼミ アブラゼミ ヒグラシ クマゼミ ツクツクボウシ ミンミンゼミ、しかしこれには地域差があるかもしれない。

### C. 限られた棲息地

アブラゼミとニイニイゼミは平地ではどこにでもいるが、ヒグラシとツクツクボウシはいないところもあり、クマゼミとミンミンゼミはいるところが非常に少ない。

エゾハルゼミとチッチゼミの棲息地については、他の人の報告も待ちたい。

初鳴きは、鳴いていない時からの定点調査(聴査?)が毎日必要であり、クマゼミは午前中、ヒグラシは午後に行くことが求められるので、特に勤め人にとっては、クマゼミは通勤区間内に限定されると言っても過言ではない。アブラゼミはニイニイゼミの真っ盛りの時期に同じ場所で発生する。そのためニイニイゼミの鳴き声に邪魔されてか、初鳴きがどうも分かりにくい。初鳴きの調査は、発生の初日を知るための簡易的調査法なのだからアブラゼミは、ニイニイゼミの初鳴きの日から毎日抜け殻を調査するか、時間をかけての鳴き声調査が必要と思った。また伝票形式の調査票を用意すべきだった。

羽化は調査の対象には取り上げられていなかったが、羽化こそが真の発生現場であり、調査の核心であると実感した。だが頭の回転が悪いため気づくのが遅かったので、アブラゼミ、ツクツクボウシ、チッチゼミの3種類しか写真に撮れず、しかもアブラゼミは満足に撮れていない。夜間の撮影は蚊との戦いでもある。手ブレ防止のため三脚を使用し、カメラのセッティングはセミを照らしながらしなければならず、昼のようにはいかない。しかも明るい光を当てているとセミは羽が完全に乾かなくても移動を始める。そのためできるだけほのかな明かりのもとでセッティングすることが肝要である。

次頁以後に羽化の写真を紹介します。写真は実寸と違うので、ご承知ください。アブラゼミは羽化が完了しても色が茶色になるまではほとんどその場を動きません。ツクツクボウシは羽化が完了すると、這って移動します。チッチゼミの実寸は写真を参照ください。私の人さし指の第1間接の太い線から先端までは23ミリ(写真では21ミリ)です。実物を初めて見た人はたいてい『これは大きなハエかアブですか?』と言います。



アブラゼミ 生和神社



ツクツクボウシ 野洲市栄



チッチゼミ 三上山

人さし指との比較

## 表 題 【セミの羽化】

投稿日 【060111】

名 前 【野洲市まことちゃん改め山犬の主人】

夏になると、毎朝寝間着のまま家の裏に蝉取りに出掛け、懐に入り切れないほどの蝉の中に羽化途中の、殻の背が割れたばかりのものや、羽化直後の真っ白な姿のアブラゼミをもって帰り、「かあちゃん、白い蝉を捕ったよ。」と得意になっては、「ばかだな、かわいそうに。そんなことをしたらセーミなんかすぐ死んじゃうぞ。」と言われた幼いころ、「たいがいはおまえらが寝てる暗いうちにみよけるのだよ。」と教えられ、羽化は未明から早朝にかけてのものと思い込んでいた私が、先の投稿で述べたように、通勤帰りの途中にアブラゼミの羽化に出くわしたときには、本当に驚いた。よく考えれば全くの無防備状態の羽化をするには、外敵(鳥など)に襲われにくい、暗闇に包まれる日没から夜明けまでがその時間帯であることは自明である。

夜間のデジカメの使い方を知らなかったので、アブラゼミの羽化の写真はうまくいかなかった。ツクツクボウシの時には、少し進歩した。しかし、カメラをあらかじめセットしても、そのカメラの前で羽化が始まるわけではない。羽化の現場を見つけてからカメラをセットするので、セットを完了したときには、早くできても数分の遅れが出てしまう。背割れが始まる直前に見つけなければ、とてもインターネットでみられるような初めから終わりまでの写真は撮れません、ビデオカメラやパソコンを買うこともできない極貧の私には。(デジカメも年寄りのお金で私が買ってきて、我が物顔で使っている罪な男です。)

とりわけチッチゼミの羽化の写真撮ることは難しい。夜の山中で、地面や木の皮と似た色の、人差し指の第一関節ほどしかない幼虫の、羽化直前の姿を見つけることは、困難を極める。傾斜した柔らかい地面に三脚を立てるのさえ難しいのに、背割れが始まってから羽が伸びきるまで30分とかからない。しかもすぐに白い姿のまま羽ばたいて、どこかへ移動するのである。黒い姿は羽化の現場付近で見るとは一度もなかった。

都合12回三上山に登った。雨の日は山行きはやめたが、晴れた日は私の熱意に応じてくれたのか、9回はその神秘的な姿を見せてくれた。初鳴きを調べるには、鳴かないうちから毎日登る必要があり、やりきるには『サンデー毎日』の身でなければ無理である。マツムシ類と似た鳴き声なので調査には抜け殻の採集、成虫の捕獲、写真の撮影、鳴き声の録音など裏付けが必要と考える。なぜなら至る所で見られるニイニイゼミやアブラゼミ、特徴ある鳴き声のミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、クマゼミと違い、存在の証しを示さなければ、チッチゼミを知る人からは納得を得にくいと思うからである。チッチゼミの鳴き声は、CD付の本を図書館で借りることができ、それをテープに繰り返しダビングして、頭に入れた。マツムシ類は下方で鳴くがチッチゼミははるか上方で鳴く。小鳥のさえずりはメロディーがあるが、チッチゼミの鳴き声は一本調子である。三上山の山中でチッチゼミの棲息を確認できた私は、県内の棲息分布や初鳴きを知りたいとの思いがますます膨らんできて、次の夏にはどのような調査をしたらよいのか、思い悩む冬の日々である。

## 表 題 [顔の繋がりのあるフィールドレポーターへ]

投稿日 [051217]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

JR 稲枝駅より少し東、愛知川、宇曾川、琵琶湖岸、で四周を囲まれた範囲(メッシュコード 305236-61XX の範囲内)が「相棒犬トラ」とその「こころのボス」の私、そして土曜日の朝には小学一年生が二名加わった、犬の散歩を兼ねた自然観察のフィールドです。

よく思う事なのですが、鳥の群れがある方向に飛び去り、魚群が遡上して上流に去ってゆくがその先のことは、なかなか見に行くことが出来ない。

だがそこでもフィールドレポーターのどなたかが観察しているのではないかと?

フィールドレポーター・スタッフとして、会報の発送などに加わってはおりますが、約 150 名の会員の内お会いした人は数えるほど、アンケートへの応答もメンバーの約半数。

県のド真ん中にドーナツの穴のような琵琶湖があり、地の利が悪いですかお隣同士のフィールドレポーターの交流の輪で琵琶湖を取り巻くチェーン作りを目指しませんか。自然災害時、等には呼応しあい助け含える、頼もしく楽しい仲間の輪を作りませんか?

荒神山・宇曾川左岸(JR 線路～県道 2 号線)・文禄川河口の湖岸・愛知川右岸、栗見橋～河口の湖岸・愛知川右岸、葉枝見橋付近、に出没している下記の風体の犬・一頭人 1～3 人連れが私たちです。目に止まりましたら気軽に語しかけて下さい。

### (私の特徴)

ホモ・サピエンス 66 歳

\* 胴長、

\* 短足、

\* O 脚、

\* 突底足(超扁平足)a

\* 頭に百円均一ショップのイ(葦草)風の帽子。一曳

(ウッドステイン塗料で耐水性補強)

\* 大古車のジムニー使用白色、黄色いルーフキャリアー

滋賀 40 年 80-72

\* メンバー(背の低い順博)

a. 相棒犬トラ(多分ラブラドルと甲斐犬の雑種)

b. 裕貴君(小学一年)イケ面予備軍風

c. 隼輝君(小学一年)マルコメの小坊主風

d. 私



## 表 題 [わが家には変な植物が増殖中]

投稿日[051012]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

### その 1. オニグルミ

琵琶湖岸、文禄川の河口付近(30 5236-6184)に漂着した砂浜で拾ってくるオニグルミの種子を鹿沼土等の鉢に蒔くと、高い発芽率で(現在までは 100%)生えて来ますし、その後もグングン成長し特に病虫害の心配もなさそうです。

不思議に思うのは湖面に漂い、十分な水分があり、多分漂流しだしてからの目数もバラバラだと思われるのに漂流中には発芽せず、鉢に蒔くと例外なくほぼ同時に発芽することです。

何か発芽を抑制するメカニズムが働き、それを解除するトリガーが働いた時に発芽が解禁されるのでしょうか。

\* 種子の周囲に発芽抑制物質があり、それが腐るか鳥などに消化されることで発芽が始まる物や、一度冬の寒さに相当する低温を経過して発芽する物の話しは良く聞きますが、この場合はこれらも当てはまりません。

岸辺に自生している所を見ると砂浜は少なく護岸のグリ石や石垣の間などに生えているものが良く生育している様に見受けられます。

\* 暗さがトリガーなら砂浜にも生え易いと思います。

\* 波に漂い、揺れていることで発芽が抑制されるような性質があるのでしょうか？

### その 2. アボカ～ド

琵琶湖の占める面積は滋賀県の約 1/6 とのこと。だがアボカドの可食部に占める種子の体積は約 1/2。そして当然種子の分まで価格に含まれている筈です。

英和辞書で発音記号を見ると avocado の発音はアボカ～ドに近いらしい。

ソファ～をソーファ、ガレージをガラージと云った方が英語らしいし、ピラニヤをピラ～ニヤと云った方がラテンアメリカ風なので、ここでもチョット気取ってアボカ～ドとしてみました。

食の医学館[農産物]によると、不飽和脂肪酸 動脈硬化予防、各種ビタミン、ミネラルのバランスが良くギネスブックでは「世界一栄養価の高い果物」とのこと。

又、百科事典によると、熱帯アメリカ原産のクスノキ科の植物、別名アリゲーターフルーツ。

インターネットを覗いたところ「5 以上なら栽培出来る」とのこと、実生で育てている人が大勢いるらしいです。

\* 私も Aug/24/2005 に鉢に蒔きましたが、今のところ順調に成長しています。

Oct/12/2005 現在、丁度焼き鳥の串程の太さで 13cm のヒョロとした一本の棒状で、色はサツマイモの蔓の様に赤黒い「巨木の幹の元」です。

\* クスノキ科といえば双子葉植物。それなのにカイワレダイコンやアサガオでお馴染みの双葉が見当たりません。どうしよう?? 双子葉!!

鉢の表面から表土を水で洗い流して見ました。種子は刃物で切り分けたように白い胚乳をみせて二つに裂け、その間から「桃から生まれた桃太郎」状態で巨木の幹の

元はすっきりと立ち上がっていたのです。

……と云うことはモモも同様に種子の双葉に当たる部分は地下に動かずにおり本葉のみが地上に出るのかな？

種子より下部(カイワレダイコンなら茎に当たる部分)を覗いて見たいのですが木の成長を優先して掘ることは差し控えています。

サテサテ冬越しの方法を考えなければ、...

### その3. クロマツ

琵琶湖岸、文禄川の河口付近(30 5236-6184)から持ち帰ったクロマツの種子を Oct/15/2003 鹿沼土の鉢に蒔いたものが Oct/12/2005 約2年後の現在約15cm程になっています。小さい種子なのに発芽率が高く、皆さんにもらわれて行った残り分が7株程手元にあります。パイオニア的に全く腐植質の無い土でも良く育つようです。マツカサ(マツボックリ)を封筒などの紙袋に入れておくと種子が底に残りますので時期などは気にせず蒔きつけるだけで良いようです。

\* 皆さんもやって見ませんか?今始めるとお孫さんの定年退職後の趣味の盆栽には充分間に合うと思います。

???マツボックリの「ボックリ」って何かわかりますか?オオイヌノフグリの「フグリ」と同じ意味の方言らしいのです。

\* ウツクシマツ(多行松)、やゴヨウマツ(五葉松)、ハイマツなどでもマツカサがあれば育てられそうに思います。

\* 今、レバノンスギかセコイア(メタセコイアではない。セコイアメスギかセコイアオスギ、セコイアピーコは要りません)を探しています。お心当たりの方はお知らせ下さい。

その他 やたらに野生種の種子を蒔き、ヤマモミジ、グミ、ナラガシワ、マテバシイ等々、蔓性植物、下草にシダ植物、温帯ジャングルの様な庭になってしまいました。「著名にして業績は謎の探検家」故、川口浩氏の亡霊もさまよっていきそうです。

## フィールド・レポーター2月・3月・4月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。  
 なお、稀に予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
2月04日(土)10:00～17:00	定例会	博物館交流室
2月18日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
3月04日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
3月18日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
4月01日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
4月15日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室

(おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

### 〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

12月は猛烈寒波に見舞われ、気象庁の暖冬予測をあざ笑うように豪雪があちこちに被害をもたらしています。自然の変化を予想することの難しさをまざまざと見せ付けられました。それでも「今年はカメムシが家の中に多く入ってきたりして、昔の言い伝えでは雪が多い年だそうで...。」こちらの予想の方が今年は当りました。

雪はまた美しい景色も見せてくれます。雪の積もった野山を見ると、雪の白と緑の葉っぱと赤い実のコントラストが美しい木が特に目立って見えました。センリョウ、ヤブコウジ、ピラカンサスなど。

この雪の消残る時にいざ行かな山橋の実の照るも見む

(山橋；ヤブコウジ、万葉集より大伴家持)

今回の掲示板は学芸員紹介の原稿準備ができませんでした、次回に載せたいと思います。また、皆さんのご投稿もお待ちしております。(担当 FRS 椋島昭紘)

